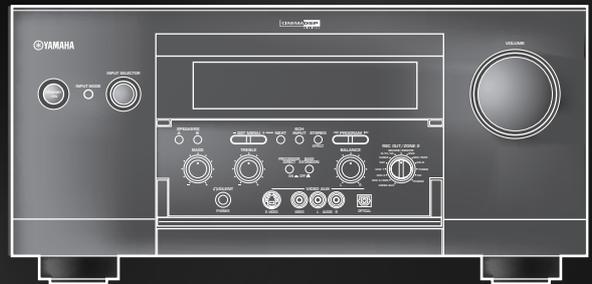
CINEMA DSP DIGITAL

DSP-AZ1

DSP AVアンプ

ヤマハDSP AVアンプDSP-AZ1をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください
保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

取扱説明書

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。　● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。　● ステープルで止めない。　● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。　● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺　● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。　● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● あおむけや横倒しには設置しない。　● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
（少なくとも本機の左右20cm、上30cm、背面10cm以上離して設置してください。）
本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

禁止

AC100V　50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。

火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機の通風孔にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。
- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴力障害の原因となることがあります。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

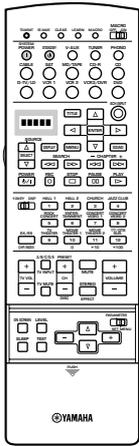
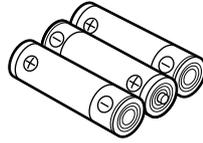
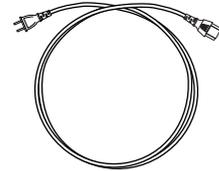
重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

目次

付属品

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単三型乾電池(LR6)×3本

電源コード

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

はじめに

DSP-AZ1の特長、および各部の名称と機能について解説します。

特 長

■高音質8チャンネルパワーアンプ搭載

バランスの良い、8チャンネルパワーアンプを搭載しています。

• メイン(L/R):　　130W + 130W*
• センター:　　130W*
• リア(L/R/センター):　　各130W*
• フロントエフェクト(L/R):　　45W + 45W*

* 定格出力時

■高音質設計

D/Aコンバーターには、スーパーウーファーやフロントエフェクトチャンネルを含む全10チャンネルに、DVDオーディオの最高音声規格に対応した192kHz/24bit DACを採用しています。また、信号経路を最短にして外部の影響を排除し、高音質再生を実現する「プロセッサーダイレクト回路」を搭載しています。

■デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)

各種デコーダーやDSPによる、効果的な音場再生を実現しました。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)に融合させて、音場効果を向上させています。

• DSPによる、41種類73バリエーションの豊富な音場プログラムが用意されています。
• 「バーチャルシネマDSP」により、リアスピーカーなしでもサラウンド効果を体験できます。
• 「サイレントシアター」により、ヘッドホン使用時でも音場効果を楽しめます。

■最新の音響技術に対応する各種デコーダー

以下の信号方式のデコーダーを搭載しています。

• **ドルビーデジタル**
• **ドルビーデジタルEX**
　専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのリアL/Rチャンネルからリアセンターチャンネルを抽出し、6.1チャンネルで再生します。
• **ドルビープロロジック**
• **ドルビープロロジックII:**
　2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ちながら5.1チャンネル音声に変換します。音楽用のMusicモードと映画のサウンドトラック用のMovieモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録されたソースも、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

• **DTS**
• **DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド):**
　フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成にリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからリアセンターチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。
• **DTS Neo:6(ネオ・シックス):**
　2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。
• **DTS 96/24:**
　5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。

• AAC（アドバンスド・オーディオ・コーディング）:
BSデジタル放送が採用している音声フォーマット。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,490,170
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,264,846
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,268,685
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,375,189
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	5,581,654
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	05-183,988
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	5,548,574
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/506,729
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	

■デジタルCINEMA EQ内蔵

メイン（L/R）とセンター、フロントエフェクト（L/R）、リア（L/R）、リアセンターを独立して音質調節できるCINEMA EQを内蔵。各チャンネルの音色合わせに使用できます。

■多彩な入力端子

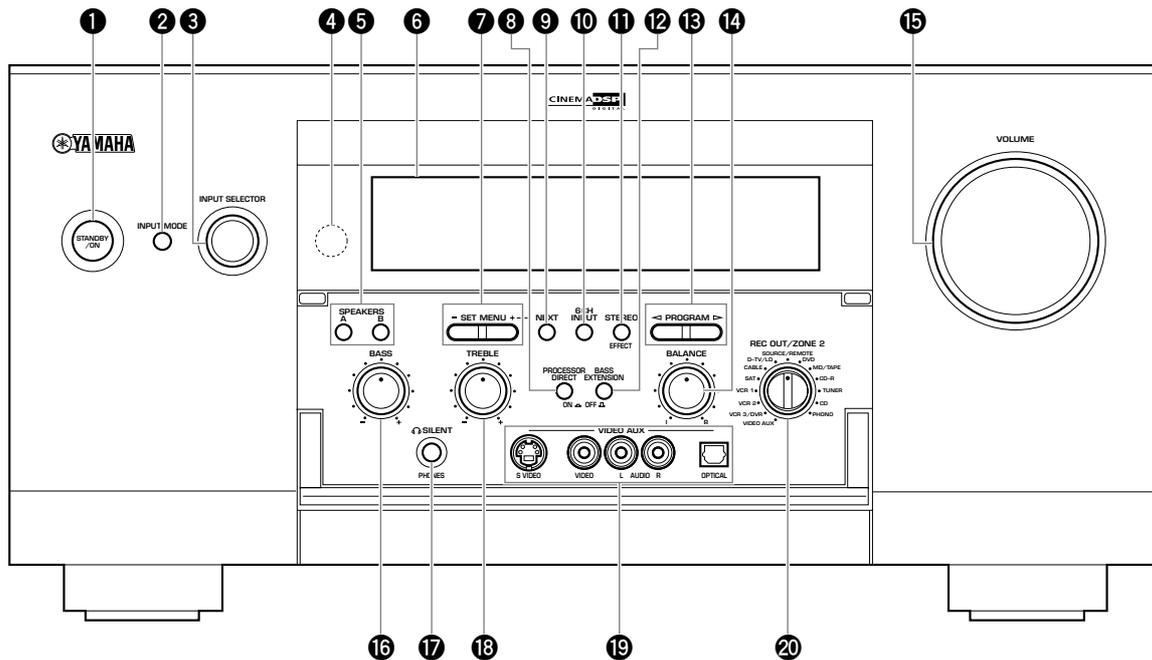
入力端子は、AVソース（すべてS接続対応）/オーディオソースにマルチに対応。デジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL/OPTICAL端子は、それぞれサンプリング周波数192kHz（COAXIAL）/96kHz（OPTICAL）に対応しており、ドルビーデジタル/DTS/AAC/PCMなどの信号フォーマットを自動判別して再生します。また、プログレッシブ信号にも対応したコンポーネントビデオ端子（ピンジャック/D5端子）により、鮮明な映像を忠実に再現します。LD入力にはデモジュレーター回路を内蔵し、ドルビーデジタルRF信号をダイレクトに接続することができます。さらに6CH INPUT端子を装備したことにより、DVDオーディオや外部デコーダーなどのマルチチャンネルのディスクリート音声を手軽に、しかも本格的に楽しむことができます。

出力端子には、デジタル信号を出力するOPTICAL端子も装備しています。また、微妙な左右の重低音の方向感も再現するSPLIT SUBWOOFER端子や、MONO SUBWOOFER端子を備えています。スーパーウーファーを接続すれば、効果的な重低音再生を実現します。

■多機能リモコン

付属リモコンは14面の機能操作エリアを持ち、ラーニング機能やメーカーコードの設定に対応。内蔵プリセットコードやラーニング機能を利用して、他のAV機器の操作も可能です。

各部の名称と機能

フロントパネル

❶ STANDBY/ONスイッチ
本機の電源のオン/スタンバイを切り替えます。電源を入れてから数秒間は、本機のミューティング機能により音が出ません。

❷ INPUT MODEキー
ひとつの機器から複数の信号を入力している場合に、入力信号の優先/固定モードを切り替えます。(P.44参照)

ご注意

- 6CH INPUTを入力ソースとして選択している場合は、モードの切り替えはできません。

❸ INPUT SELECTOR
再生するソースを選択します。(P.42参照)

❹ リモコン受光窓
付属リモコンからのコントロール信号を受信します。

❺ SPEAKERS A/Bスイッチ
リアパネルのメインスピーカー端子A/Bに接続されたメインスピーカーのうち、音声を出力するメインスピーカーを選択します。A、B両方を使用する場合はAとBを押します。

❻ ディスプレイ
音場プログラムの名称や、パラメーターの設定値などを表示します。(P.11参照)

❼ SET MENU+/−キー
セットメニューの設定に使用します。(P.53参照)

❽ PROCESSOR DIRECT ON/OFFスイッチ
スイッチを押してONにすると、BASSコントロール、TREBLEコントロール、BALANCEコントロールおよびBASS EXTENSIONの調整回路がバイパスされます。元の音源により忠実な音を再生します。

❾ NEXTキー
セットメニューを呼び出します。(P.53参照)

❿ 6CH INPUTキー
リアパネルの6CH INPUT端子に入力されているソースを選択します。INPUT SELECTORやリモコンの入力選択キーで選択されたソースよりも優先されます。

⓫ STEREO/EFFECTキー
音場効果をオン/オフします。オフの状態では通常のステレオ再生となり、センタースピーカー、リアエフェクト/フロントエフェクトスピーカーおよびリアセンタースピーカーから音声は出力されません。

ご注意

- 音場効果がオフの状態のときにドルビーデジタル、DTSおよびAAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声がメインL/Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL/Rの音量バランスが乱れることがあります。
- セットメニューの「1B MAIN SP」をSMALLかつ「1E LFE/BASS OUT」をSW、または「1E LFE/BASS OUT」をBOTHに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます。

⑫ BASS EXTENSION ON/OFFスイッチ
（バス エクステンション）

スイッチを押してONにすると、全体のトーンバランスを保持したまま、メインL/Rチャンネルの低域を＋6dB（60Hz）増強します。スーパーウーファーを使用しない場合に効果的です。

ご注意

- セットメニューの「1B MAIN SP」をSMALL、「1E LFE/BASS OUT」をSWに設定している場合は、効果がありません。

⑬ PROGRAM◁/▷キー
（プログラム）

音場プログラムを選択します。（P.46参照）

⑭ BALANCEコントロール
（バランス）

メインスピーカーL/Rの音量レベルのバランスを調節します。L側に回すとメインスピーカーRの音量レベルが下がり、R側に回すとメインスピーカーLの音量レベルが下がります。通常は中央にセットしておきます。

⑮ VOLUMEコントロール
（ボリューム）

全体の音量を調節します。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

⑯ BASSコントロール
（バス）

メインL/Rチャンネルの低音域を調節します。右（＋）に回すと低音域が増強され、左（－）に回すと減衰します。

ご注意

- 低音域を極端に増強、または減衰すると、メインL/Rとセンター、リアエフェクト/フロントエフェクトおよびリアセンターとの音のつながりが悪くなることがあります。

⑰ PHONES端子
（フォンズ）

ヘッドホンを接続します。深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンのご使用をおすすめします。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しむことができます。（P.49参照）

ご注意

- ヘッドホンを接続すると、PREOUT端子からは音声信号が出力されません。また、すべてのスピーカーから音は出ません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、メインL/Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

⑱ TREBLEコントロール
（トレブル）

メインL/Rチャンネルの高音域を調節します。右（＋）に回すと高音域が増強され、左（－）に回すと減衰します。

ご注意

- 高音域を極端に増強、または減衰すると、メインL/Rとセンター、リアエフェクト/フロントエフェクトおよびリアセンターとの音のつながりが悪くなることがあります。

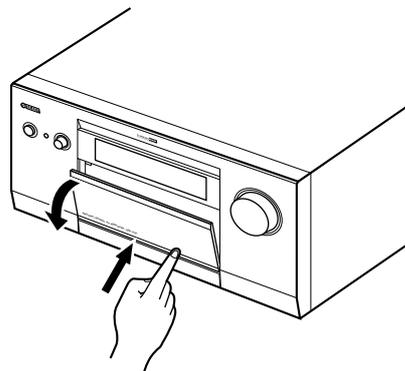
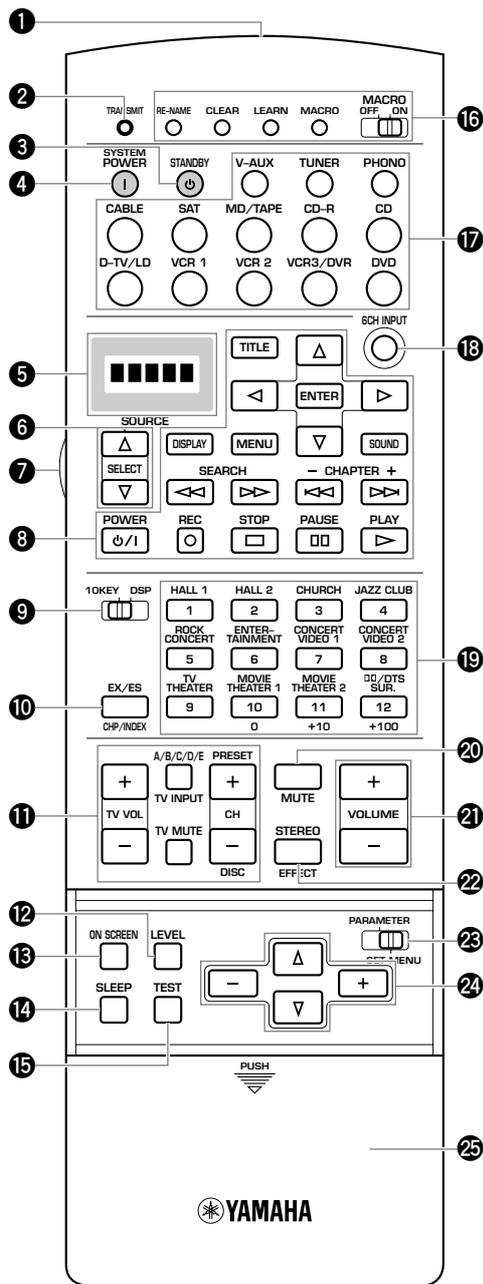
⑲ VIDEO AUX端子
（ビデオ エーユーエックス）

ゲーム機やビデオカメラなど接続する予備入力端子です。

⑳ REC OUT/ZONE 2セレクター
（レック アウト ゾーン）

録音/録画するソースを選択したり、ZONE 2出力端子に出力するソースを選択します。「SOURCE/REMOTE」の位置にすると、リモコンを使用してZONE 2への出力を独立して選択できます。

■フロントパネルドアの開閉

フロントパネルドア内のスイッチやキーを使用するときは、ドアの下部を押して、ドアを開きます。使用しないときは、ドアを閉めておきます。

リモコン

❶ 送受信窓
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。送受信できる範囲については、『リモコンの使用範囲』(P.10)を参照してください。

❷ TRANSMITインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ STANDBYキー
本機をスタンバイ(待機)状態にします。

❹ SYSTEM POWERキー
本機の電源を入れます。

❺ リモコンディスプレイ
入力ソースや操作状態を表示します。

❻ SOURCE SELECT △/▽キー
入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えるときに押します。

❼ LIGHTキー
ボタンを押すと操作できるキーとリモコンディスプレイが10秒間点灯します。すぐに消したいときはもう一度押します。

❽ 機器操作キー
選択した機器の基本的な操作ができます。指定した機器やメーカーコードにより各キーの機能は変わります。

ご注意

- ヤマハ以外の機器は、ラーニング後またはメーカーコードの設定後にリモコンで操作できます。

❾ 10KEY/DSPスイッチ
本機を操作するときは「DSP」に合わせます。音場プログラムを選択できます。他の機器を操作するときは「10KEY」に合わせます。1〜12の数字キーとして使用できます。

❿ EX/ESキー
10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせたときに、ドルビーデジタルEXまたはDTS-ESデコーダーを入/切します。

⓫ 機器操作キー
選択した機器の基本的な操作ができます。指定した機器やメーカーコードにより各キーの機能は変わります。

ご注意

- ヤマハ以外の機器は、ラーニング後またはメーカーコードの設定後にリモコンで操作できます。

⓬ LEVELキー
出力レベルを調節するスピーカーを選択します。

⑬ ON SCREENキー
モニター画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります（P.33参照）。

⑭ SLEEPキー
スリープタイマーを設定します（P.83参照）。

⑮ TESTキー
テストトーンを出力します。

⑯ リモコン学習機能ボタン/MACROスイッチ
リモコンのラーニングや入力ソース名の変更を行うときや、マクロ機能を使うときなどに使用します。

⑰ 入力選択キー
再生する入力ソースを選択します。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります（P.42参照）。

⑱ 6CH INPUTキー
本機背面の6CH INPUT端子に接続されたソースからの信号を再生します。

⑲ 数字/音場プログラムキー
数字の入力や、音場プログラムの選択に使用します。

⑳ MUTEキー
消音します（−∞dB）。消音中はディスプレイに「MUTE ON」と表示されます。

㉑ VOLUME＋/−キー
本機の音量を調節します。

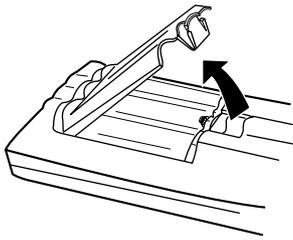
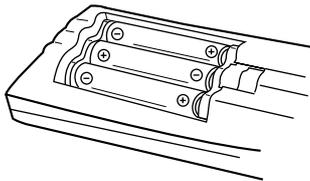
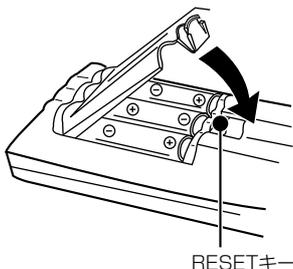
㉒ STEREO/EFFECTキー
音場効果を切って、通常のステレオ音声を再生するときに押します。メインスピーカーL/R以外の各スピーカーから音声は出力されません。もう一度押すと、音場効果が入ります（P.47参照）。

㉓ PARAMETER/SET MENUスイッチ
パラメーターモードとセットメニューモードを切り替えます。

㉔ パラメーター/セットメニューカーソルキー
パラメーターやセットメニューの選択/設定に使用します。

㉕ スライドカバー
リモコンの上部を片手で持ち、手前にスライドするとPARAMETER/SET MENUスイッチ、ON SCREENキー、TESTキーなどが出ます。これらのスイッチ/キーを使用しないときは、スライドカバーをリモコン上部に向けてスライドさせ、閉じておくことができます。

■リモコンの電池の入れ方

1 リモコンの裏蓋を開ける

2 付属の単三型乾電池（3本）を、リモコンの電池ケース内の表示に合わせて、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを間違えないように、正しく入れる

3 裏蓋をカチッと音がするまで押して、閉じる。

ご注意

- リモコンの電池ケース内の表示にしたがって、＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように、正しく入れてください。
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

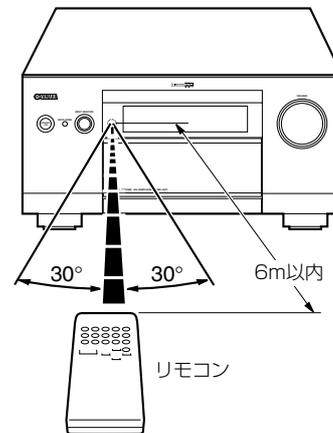
■乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもTRANSMITインジケーターが点灯しなくなったり、リモコンインジケーターの表示が暗くなったりします。このような場合は、3本とも新しい乾電池に交換してください。交換したら、RESETキーを押します（RESETキーを押してもラーニングや設定内容は消えません）。

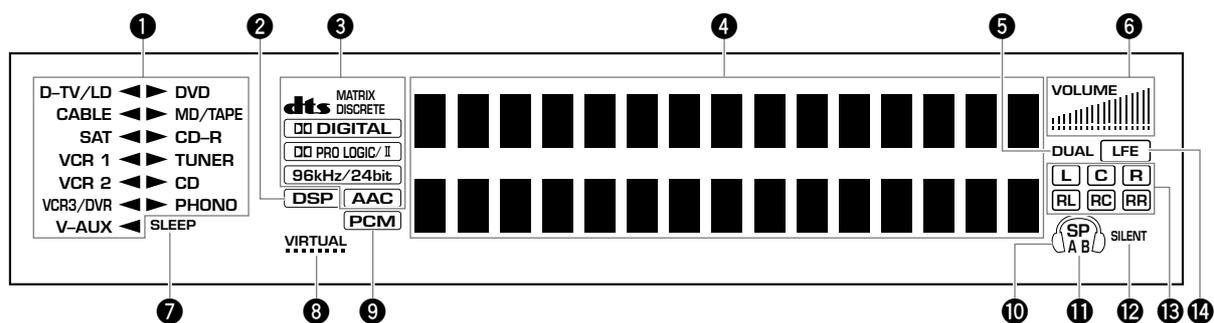
ご注意

- 乾電池交換の際、電池を外したまましばらく（3分以上）放置すると、ラーニングや設定内容が消えてしまうことがありますのでご注意ください。
- 消耗した乾電池をそのまま入れておくと、ラーニングや設定内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、新しい乾電池に交換して、再度設定を行ってください。

■リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

ご注意

- 受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。
- 直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯、ストロボライトなど）が、受光部に当たっていると、リモコンが動作しにくくなります。照明または本機の向きを変えてください。
- リモコンは丁寧に取り扱ってください。
- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないようご注意ください。
  ① 暖房器具や風呂場など、温度･湿度の高い場所
  ② ほこりの多い場所
  ③ 極端に寒い場所

ディスプレイ

❶ 入力ソースインジケーター
選択したソースの◄または►インジケーターが点灯します。

❷ DSPインジケーター
DSP音場プログラムを選択すると点灯します。

❸ デコーダーインジケーター
本機に内蔵のデコーダーが動作中に、それぞれの表示が点灯します。

❹ 音場プログラム名/設定値表示
音場プログラム名や、各種設定値を表示します。

❺ DUAL(デュアル)インジケーター
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

❻ VOLUME(ボリューム)
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えていきます。

❼ SLEEP(スリープ)インジケーター
スリープタイマー動作中に点灯します。

❽ VIRTUAL(バーチャル)インジケーター
バーチャルシネマDSP時に点灯します。

❾ PCM(ピーシーエム)インジケーター
PCM信号入力時に点灯します。

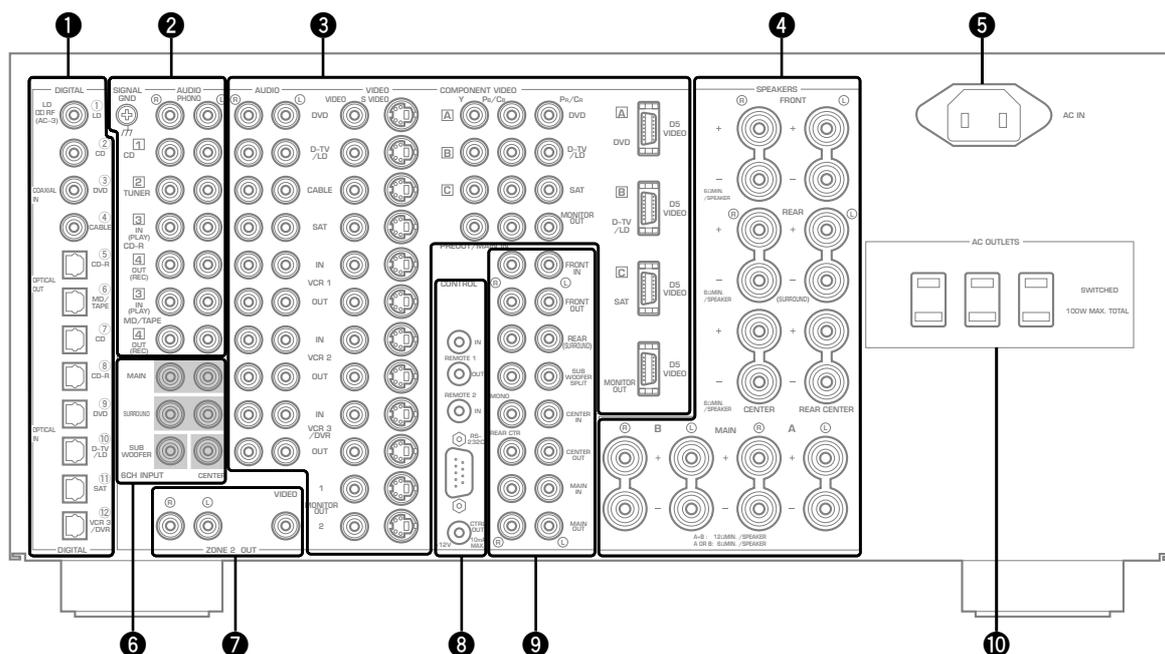
❿ ヘッドホンインジケーター
PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

⓫ SP(スピーカー) A/Bインジケーター
SPEAKERS A/Bスイッチで選択したメインスピーカーを表示します。

⓬ SILENT(サイレント)インジケーター
サイレントシアター時に点灯します。

⓭ デジタル入力信号チャンネルインジケーター
再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応した表示が点灯します。

⓮ LFE(エルエフイー)インジケーター
入力信号にLFE信号が含まれているときに点灯します。

リアパネル

❶ **デジタル入出力端子**
MDレコーダーなどのオーディオ機器や、DVDプレーヤーなどのビデオ機器のデジタル入出力端子と接続します（P.19, 20参照）。

❷ **オーディオ機器　入出力端子**
CDプレーヤーなどのオーディオ機器の、アナログ入出力端子と接続します（P.19, 20参照）。

❸ **ビデオ機器　入出力端子**
DVDプレーヤーなどのビデオ機器の、音声/映像入出力端子と接続します（P.21～28参照）。

❹ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します（P.29, 30参照）。

❺ **AC IN端子**
付属の専用電源コードを接続します（P.32参照）。

❻ **6CH INPUT端子**
外部デコーダーやDVDオーディオプレーヤーなどの6CH出力端子と接続します（P.32参照）。

❼ **ZONE 2 OUT端子**
セカンドルームへの音声/映像信号を出力します（P.85参照）。

❽ **CONTROL端子**
コントロール拡張端子です。
※ RS-232C端子: サービス用の端子です。

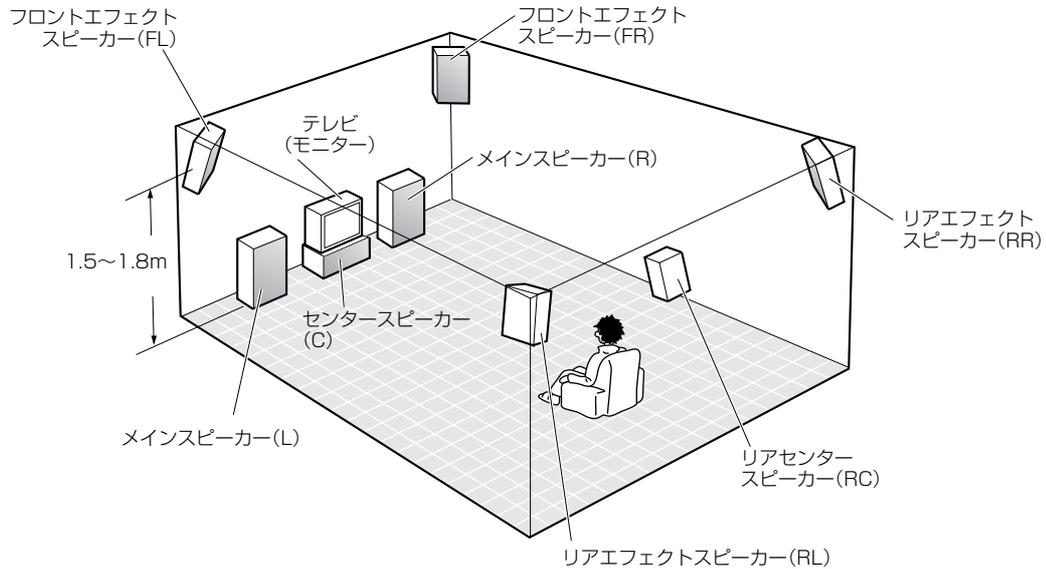
❾ **PREOUT/MAIN IN端子**
外部パワーアンプやアンプ内蔵スーパーウーファーなどを接続します（P.31参照）。

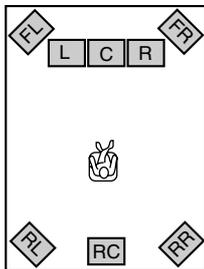
❿ **予備電源コンセント**
電源スイッチ連動の電源コンセントです（P.32参照）。

準 備

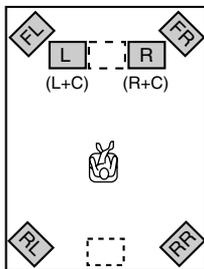
DSP-AZ1の機能を充分に活用するための準備(スピーカーの選び方と配置、スーパーウーファーの使用、外部機器との接続、スピーカーモードの設定、スピーカーのレベル調節など)について解説します。

スピーカーシステムの構成

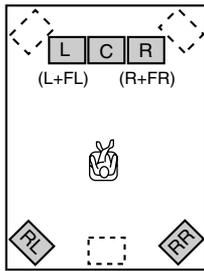
スピーカーシステムの基本構成は「メインL/Rスピーカー(2本)+センタースピーカー(1本)+フロントエフェクトL/Rスピーカー(2本)+リアL/Rスピーカー(2本)」の7スピーカーシステムにリアセンタースピーカー(1本)を加えた8スピーカーシステムです。
また、センタースピーカーやフロントエフェクトL/Rスピーカーの有無により、6〜4スピーカーシステムでもお楽しみいただけます(スーパーウーファーの使用については、P.17を、リアセンタースピーカーの使用についてはP.16を参照してください)。

■8スピーカーシステム

ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。最も本機の性能を発揮できるシステムであり、ドルビーデジタル/DTS-ESソフト再生に最適なスピーカシステムです。

使用するスピーカー
- メインL/R
- センター
- リアL/R
- フロントエフェクトL/R
- リアセンター

■6スピーカーシステム

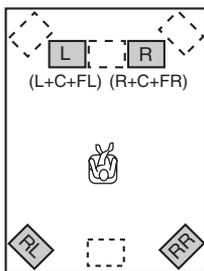
センターチャンネルの定位感が多少減少しますが、DSP音場が立体感と奥行き感を持って創り出されます。この場合、AV音場再生時の、センターチャンネル信号は「NONE」モードを選択することで、メインL/Rスピーカーに振り分けて出力されます。

使用するスピーカー
- メインL/R
- リアL/R
- フロントエフェクトL/R

■5スピーカーシステム

音場の高さの表現が弱まりますが、AV音場再生時に音声などのセンター定位はそのままにして、会話のシーンでは画面と一体化した効果が得られます。フロントエフェクト信号はメインチャンネル信号とミックスして再生されます。

使用するスピーカー

• メインL/R
• センター
• リアL/R

■4スピーカーシステム

この場合、センターチャンネル信号は、「NONE」モードを選択することで、メインL/Rスピーカーに振り分けて出力され、フロントエフェクト信号はメインチャンネル信号とミックスして再生されます。

使用するスピーカー

• メインL/R
• リアL/R

■各スピーカーシステム構成とスピーカーモード

使用するスピーカーシステムの構成に合わせ、スピーカーモードを設定してください。詳しくは、P.34『スピーカーモードの設定』を参照してください。

	8スピーカー	7スピーカー	6スピーカー	5スピーカー	4スピーカー
1A CENTER SP (センター)	LRGまたはSML	LRGまたはSML	NONE	LRGまたはSML	NONE
1B MAIN SP (メインL/R)	LARGEまたはSMALL	LARGEまたはSMALL	LARGEまたはSMALL	LARGEまたはSMALL	LARGEまたはSMALL
1C REAR L/R SP (リアL/R)	LRGまたはSML	LRGまたはSML	LRGまたはSML	LRGまたはSML	LRGまたはSML
1D REAR CT SP (リアセンター)	LRGまたはSML	NONE	NONE	NONE	NONE
1F FRONT EFCT SP (フロントエフェクトL/R)	YES	YES	YES	NONE	NONE

メモ

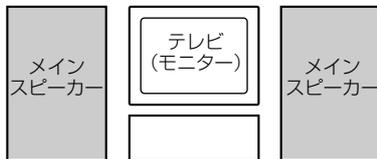
• 設定の目安として、ご使用になるスピーカーのウーファー口径が16cm以上の場合はLARGE、16cm未満の場合はSMALLに設定してください。スピーカーの性能により、設定がお好みに合わない場合は、実際の再生音を聴きながら設定しなおしてください。

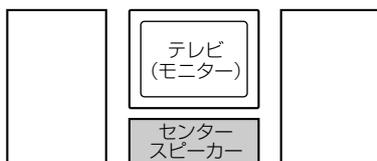
スピーカーの設置

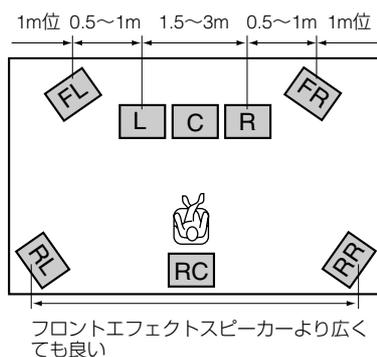
スピーカーは下図のように設置してください。

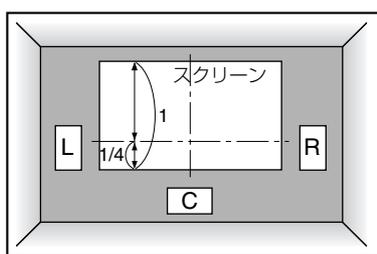
ご注意

• スピーカーは防磁型スピーカーをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になりますと、テレビ（モニター）の画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れる場合は、テレビ（モニター）とスピーカーを離して設置してください。

■ メインスピーカー

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビ（モニター）を設置している場合は、左右のスピーカーとテレビ（モニター）の距離が等しくなるよう、テレビ（モニター）の両脇に設置します。

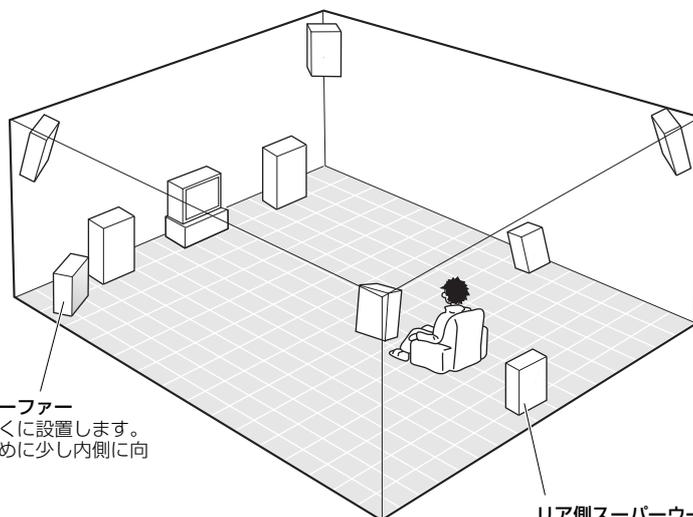
■ センタースピーカー

左右のメインスピーカーの中間に設置します。テレビ（モニター）を設置している場合は、テレビ（モニター）画面とスピーカーの前面を揃え、テレビ（モニター）の上や下など、できるだけテレビ（モニター）画面に近いところに設置します。テレビ（モニター）の下に設置した方が、フロントエフェクトスピーカーにより音像の高さが補正され、音声が画面の動きなどと一致します。（リスニングポジションにも影響されます。）スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置します。

■ リア/フロントエフェクト/リアセンタースピーカー

• リアスピーカーは、後方斜めに設置し、スピーカーをリスニングポジションに向けます。
• フロントエフェクトスピーカーは、メインスピーカーの約0.5〜1m外側、前方斜めに設置し、スピーカーをリスニングポジションに向けます。
• リアセンタースピーカーは、リスニングポジションの後方、左右のリアスピーカーの中間に設置します。
• 床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さに設置します。
• 実際に音を聴きながら、メインスピーカーの音とリア/フロントエフェクトスピーカーからの音のバランスが良くなるように設置位置を調整してください。

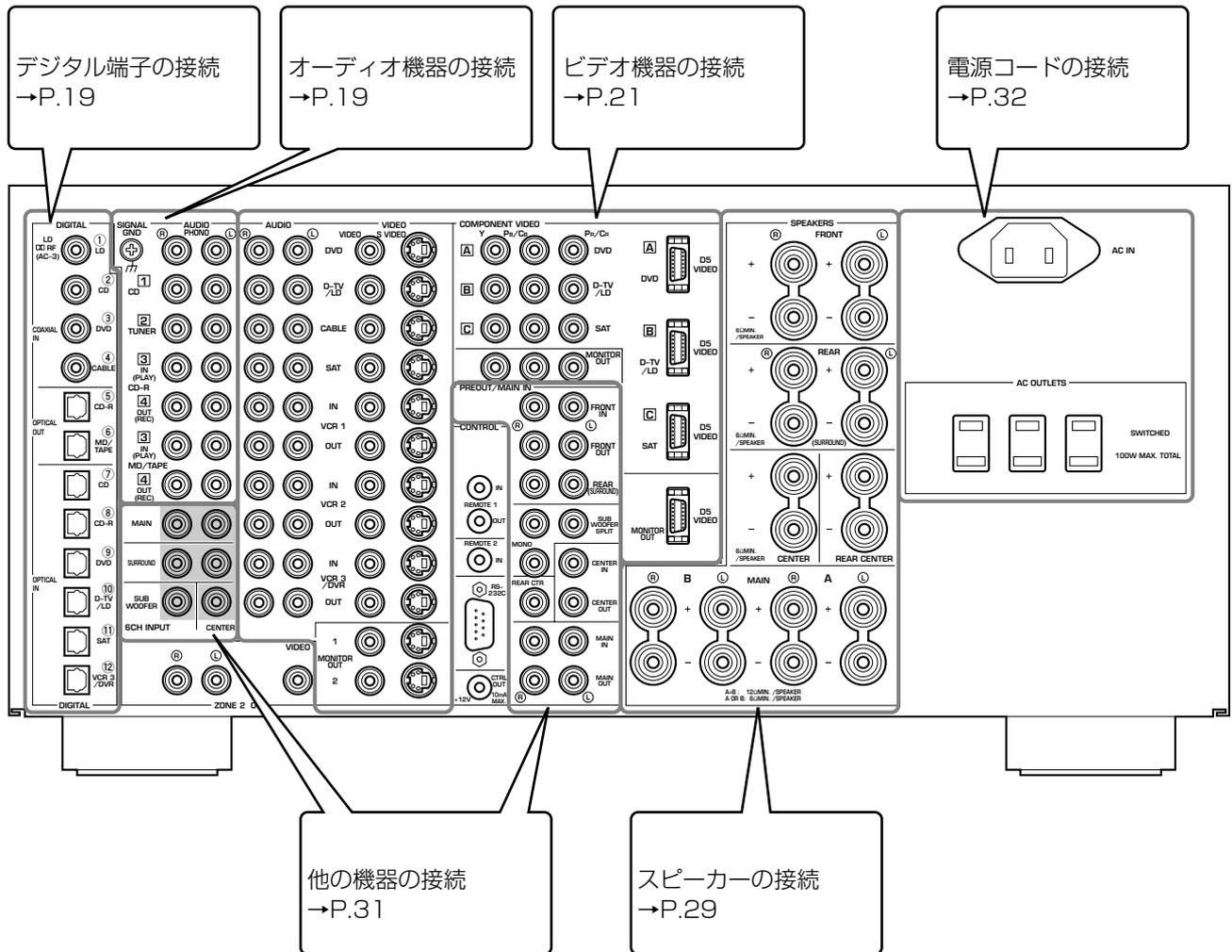
■ スクリーンを使用する場合

図を参考にスピーカーを設置してください。

• メインスピーカーは、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。
• センタースピーカーは、スクリーンの真下中央に設置します。センタースピーカーを使用することにより、会話などの音像定位が明確になります。
• スクリーン使用時には、フロントエフェクトスピーカーが効果を発揮します。CINEMA DSP音場プログラムでは、センタースピーカーからの音像を上方に引き上げ、スクリーン上の画像との一体感を得られます。

■スーパーウーファー

- フロント側に設置する場合は、メインスピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。
- リア側に設置する場合は、リスニングポジションの後方に設置します。
- 低音の聴こえかたは、設置位置とリスニングポジションの両方に影響されますので、実際に音を聴きながら設置位置を調整してください。

接続のしかた

接続の準備

- 接続前に、本機および外部機器の電源を切ってください。
- 接続する外部機器によっては、接続方法や端子名が異なる場合があります。接続の際は、外部機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ピンジャックの入出力端子は、信号別に色分けされています。
- 入出力端子の接続には、市販のコード(ピンプラグコード、光ファイバーケーブル、同軸ケーブルおよびSビデオケーブル)を使用してください。
- 本機が外部機器(テレビ、チューナーなど)に影響を与える場合は、本機と外部機器を離して設置してください。障害をなくすために、チューナーやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをおすすめします。

デジタル端子の接続について

本機は、デジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIAL:同軸/OPTICAL:光)を装備しています。COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード(市販)を、OPTICAL端子に接続する場合は光ファイバーケーブル(市販)を使用してください。

メモ

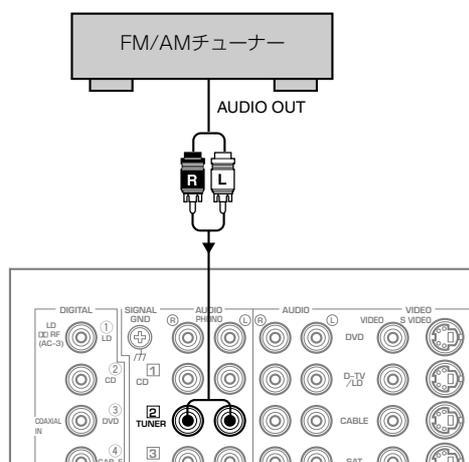
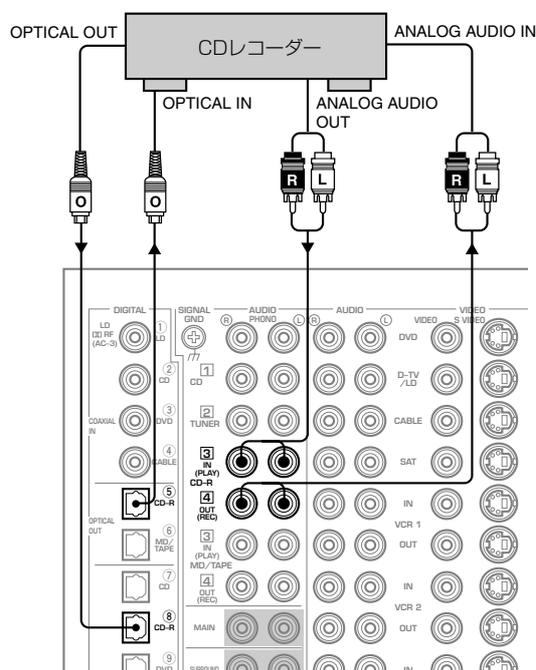
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS/AAC兼用です。
- COAXIAL IN端子とOPTICAL IN端子へ同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL IN端子への入力信号が優先されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、動作しない場合があります。
- COAXIAL出力端子とOPTICAL出力端子の両方を装備している機器を接続する場合は、両方を接続する必要はありません。セットメニューの「8 I/O ASSIGNMENT」で、あまった入力端子を他の機器用に変更して、使用することもできます。

本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

- **32kHz:** BSアナログ放送(Aモード)
- **44.1kHz:** CD、CD-R、MD
- **48kHz:** DVD(48kHzモード)、BSアナログ放送(Bモード)、BSデジタル放送
- **96kHz:** DVD(96kHzモード)
- **192kHz(同軸入力のみ):** DVDオーディオ(2ch)

オーディオ機器の接続

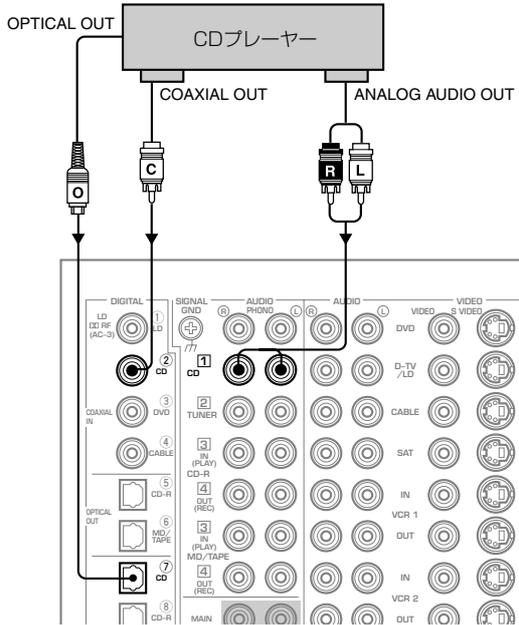
- 左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)を確認し、正しく接続してください。
- 本機のアナログ入出力端子には番号がついています。ヤマハオーディオ機器(CDプレーヤー/チェンジャー/レコーダー、MDレコーダー、チューナー、カセットデッキなど)と接続する場合は、各機器の同じ番号のついた端子と接続してください。

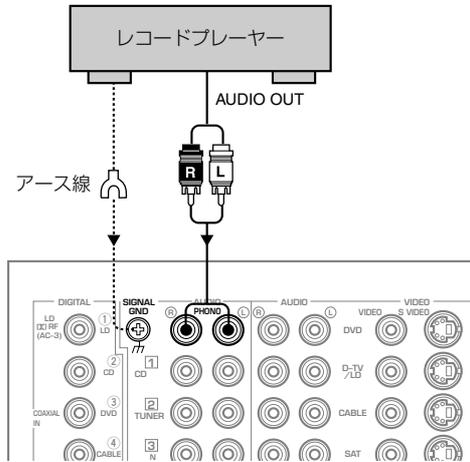
■FM/AMチューナーを接続する

■CDレコーダーを接続する

■CDプレーヤーを接続する

CDプレーヤーにOPTICAL出力端子がある場合は、本機のOPTICAL IN端子と接続します。COAXIAL出力端子がある場合は本機のCOAXIAL IN端子と接続します。

■MDレコーダー/テープデッキを接続する

メモ

- MDレコーダーのOPTICAL（COAXIAL）出力端子を接続する場合は、セットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」で設定を変更し、本機のOPTICAL（COAXIAL） IN端子のいずれかと接続することもできます（P.58参照）。

■レコードプレーヤーを接続する

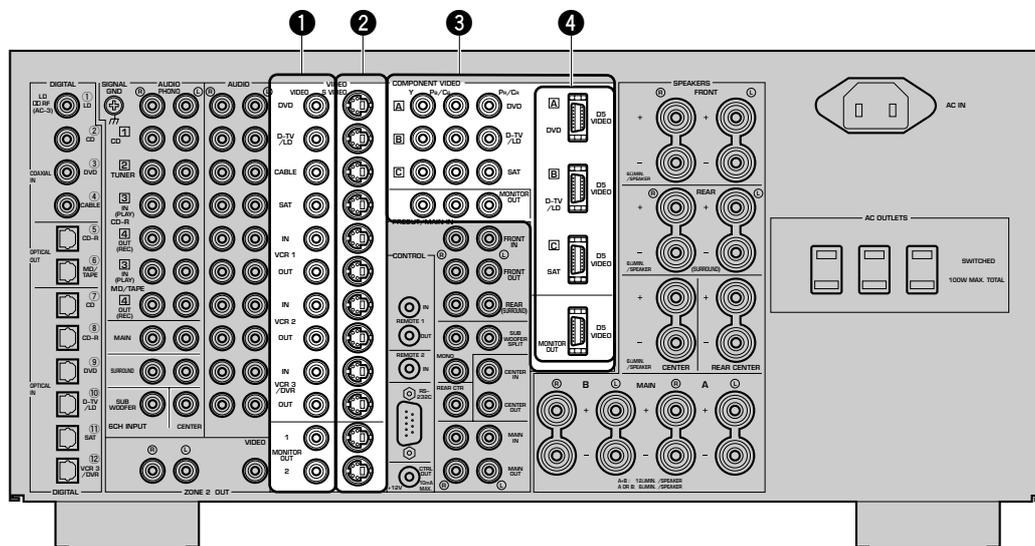
MMカートリッジ、または高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。

ご注意

- SIGNAL GND端子は、アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するためのもので、安全アースではありません。
- レコードプレーヤーによっては、アース線をSIGNAL GND端子に接続しないほうがハムノイズが減少することがあります。

ビデオ機器の接続

• 左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)を確認し、正しく接続してください。

■本機のビデオ端子について

本機は3種類のビデオ端子を装備しています。

❶ VIDEO端子

通常のビデオ信号(コンポジット信号)を接続します。

❷ S VIDEO端子

S VIDEO信号は、ビデオ信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:C信号」に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると映像信号をロスなく伝えることができ、より美しい映像で録画/再生が行えます。S VIDEO端子の接続については、接続する機器の取扱説明書もあわせて参照してください。

ご注意

• S VIDEO端子の接続には、専用のSビデオケーブルを使用してください。

• 本機のS VIDEO端子とVIDEO端子(ピンジャック)は独立しています。VIDEO端子から入力された信号は、VIDEO端子から出力され、S VIDEO端子から入力された信号は、S VIDEO端子から出力されます。

❸ COMPONENT VIDEO端子

ビデオ信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:PB/CBおよびPR/CR信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれが独立しているため、色をより忠実に再現します。COMPONENT VIDEO端子の接続については、接続する機器の取扱説明書もあわせて参照してください。

❹ D5 VIDEO端子

コンポーネントビデオ信号にコントロール信号端子を加えたもので、プログレッシブ信号対応のテレビ(モニター)などに装備されています。

ご注意

• COMPONENT VIDEO端子の接続には、市販の専用ケーブルを使用してください。

• 本機のCOMPONENT VIDEO端子とVIDEO端子、S VIDEO端子はそれぞれ独立しています。COMPONENT VIDEO端子から入力された信号は、COMPONENT VIDEO端子にのみ出力されます。

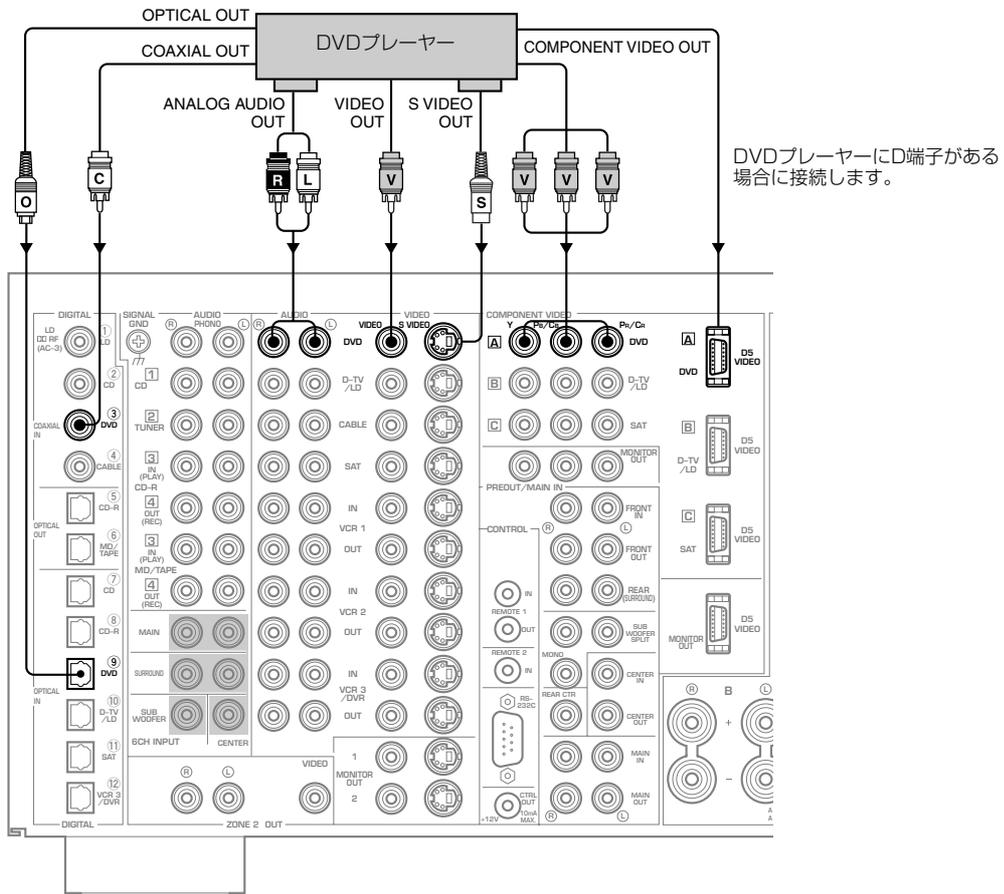
• COMPONENT VIDEO/D5 VIDEOのMONITOR OUT端子に接続したモニターには、オンスクリーン表示が出ません。

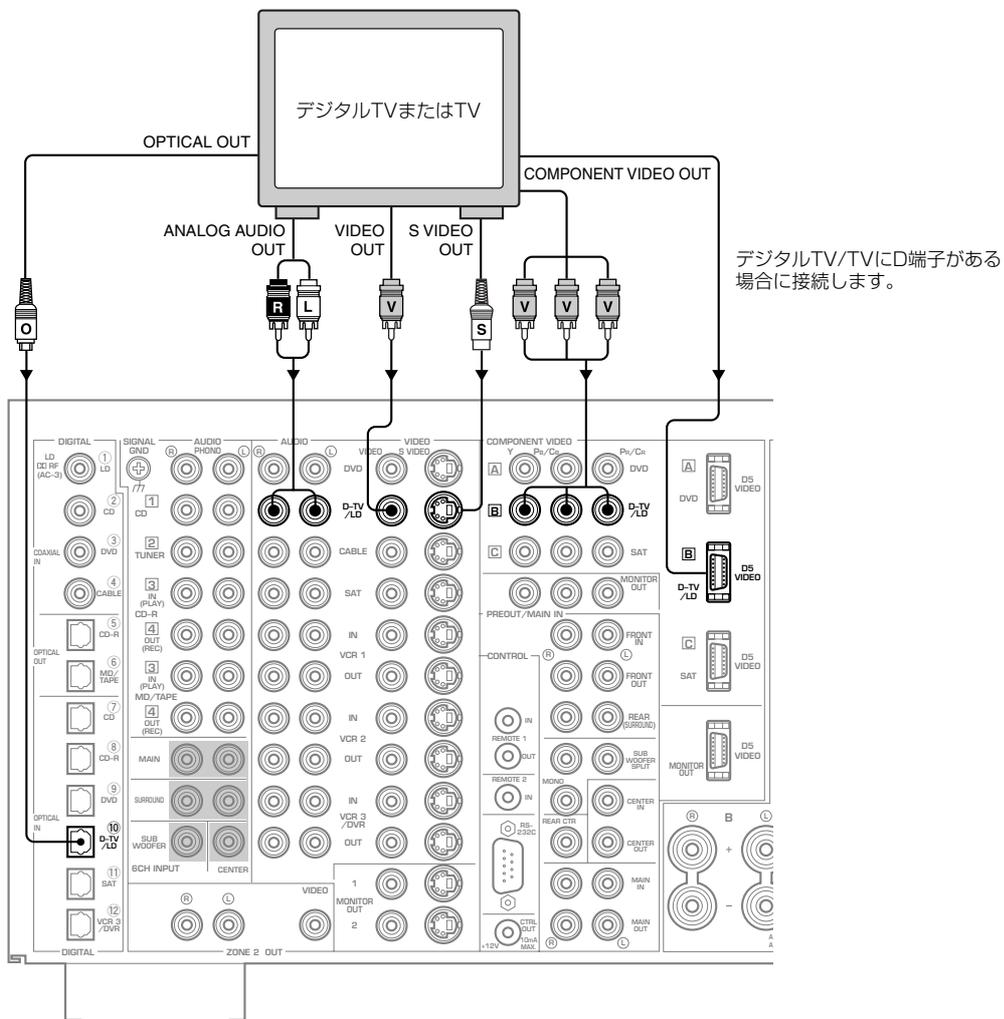
• COMPONENT VIDEO端子とD5 VIDEO端子は本機内部で並列接続されています。したがって、COMPONENT VIDEO端子から入力した映像信号をD5 VIDEO端子から出力したり、その逆に信号を入出力することもできます。ただし、同じ名称のCOMPONENT VIDEO端子とD5 VIDEO端子両方に同時に映像信号を入出力することはできません。

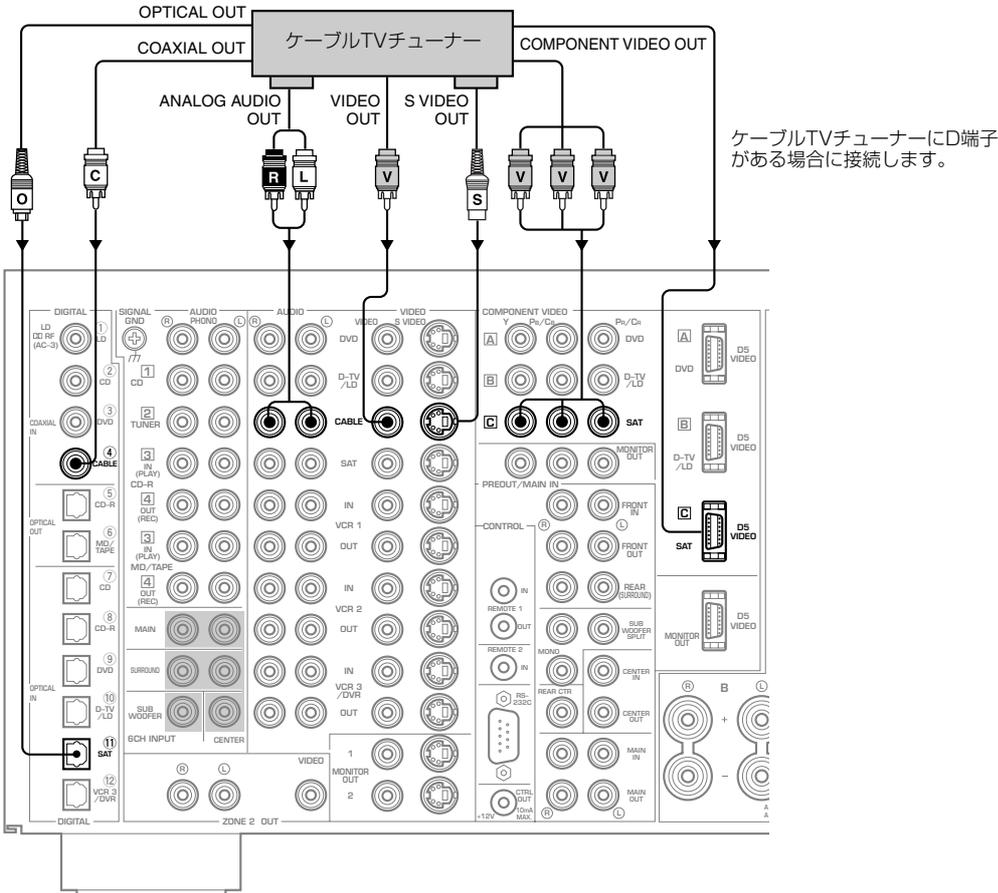
メモ

• COMPONENT VIDEO端子のAはDVD、BはD-TV/LD、CはＳＡＴに設定されていますが、セットメニュー「8　I/O ASSIGNMENT」で設定を変更することもできます(P.58参照)。

■DVDプレーヤーを接続する

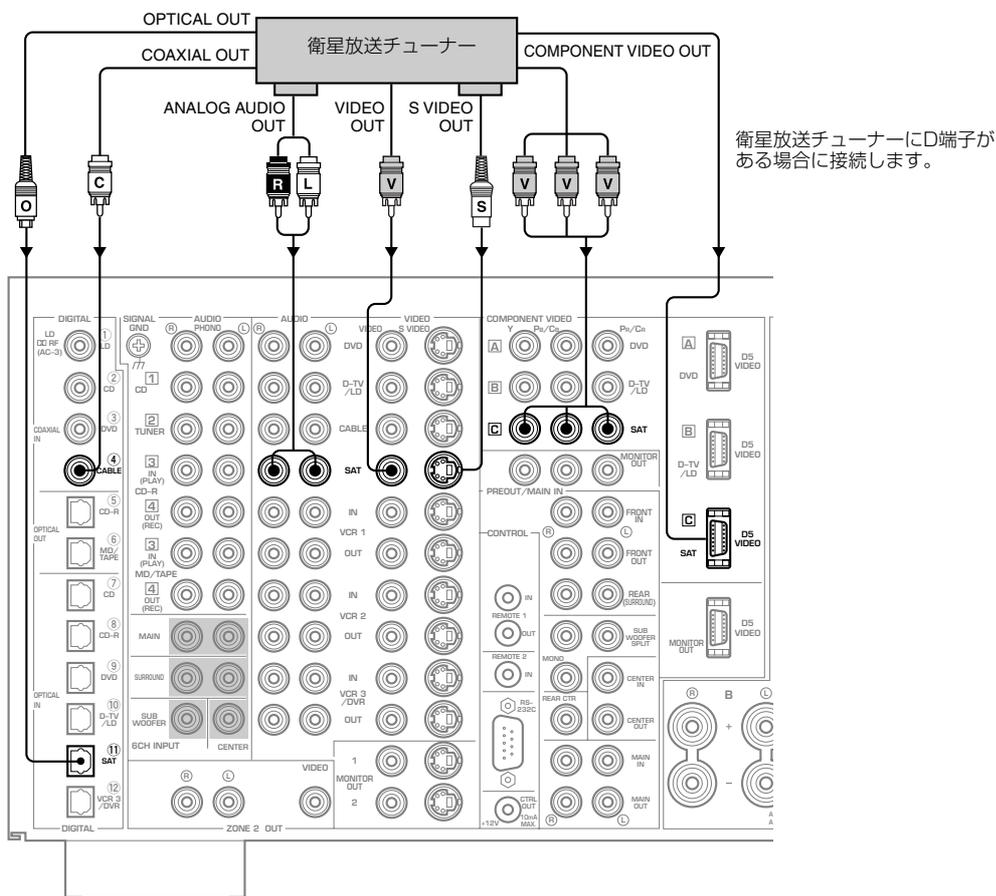
- お使いのDVDプレーヤーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO出力端子やCOMPONENT VIDEO出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子またはCOMPONENT VIDEO端子と接続します。
- OPTICAL出力端子がある場合は、市販の光ファイバーケーブルを使用して本機のOPTICAL IN端子と接続します。
- COAXIAL出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のCOAXIAL IN端子と接続します。

■デジタルTV/TVを接続する

- お使いのデジタルTV/TVのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO出力端子やCOMPONENT VIDEO出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子またはCOMPONENT VIDEO端子と接続します。
- OPTICAL出力端子がある場合は、市販の光ファイバーケーブルを使用して本機のOPTICAL IN端子と接続します。

■ケーブルTVチューナーを接続する

- お使いのケーブルTVチューナーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO出力端子やCOMPONENT VIDEO出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子またはCOMPONENT VIDEO端子（SAT）と接続します。
- OPTICAL出力端子がある場合は、市販の光ファイバーケーブルを使用して本機のOPTICAL IN端子（SAT）と接続します。
- COAXIAL出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のCOAXIAL IN端子と接続します。

ご注意

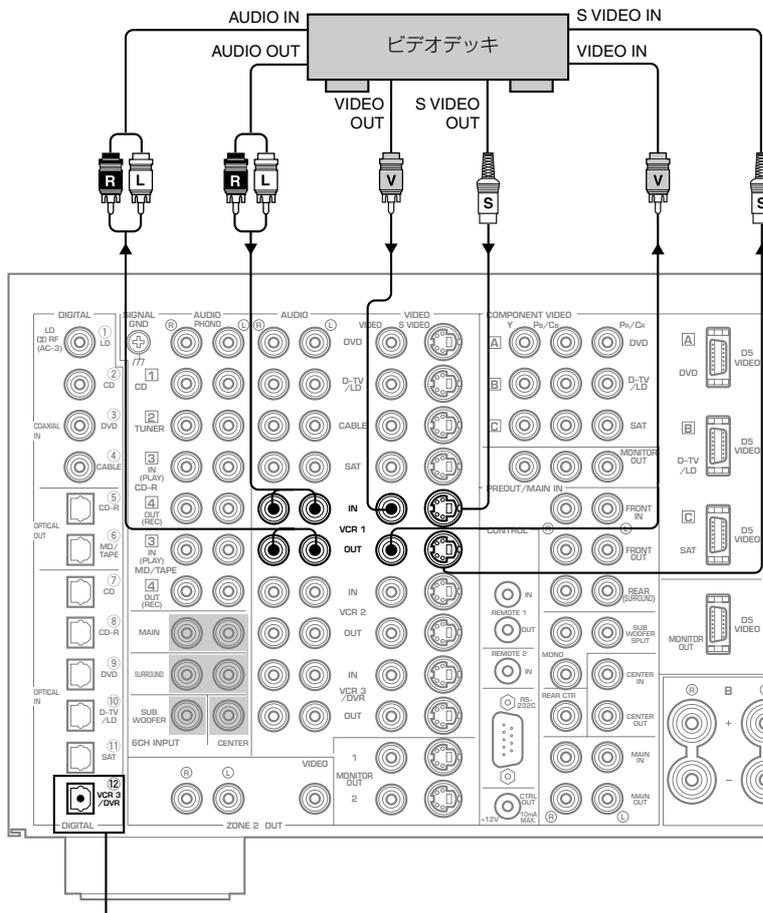
- OPTICAL出力端子を接続する場合、デジタルオーディオ系をSAT端子、ビデオ系信号をCABLE端子に接続することになるため、セットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」でOPTICAL IN端子（SAT）の設定を変更する必要があります（P.58参照）。
- COMPONENT VIDEO出力端子を接続する場合、オーディオ系信号をCABLE端子、コンポーネントビデオ系信号をSAT端子に接続することになるため、セットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」でCOMPONENT VIDEO端子（SAT）の設定を変更する必要があります（P.58参照）。

■衛星放送チューナーを接続する

- お使いの衛星放送チューナーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO出力端子やCOMPONENT VIDEO出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子またはCOMPONENT VIDEO端子と接続します。
- OPTICAL出力端子がある場合は、市販の光ファイバーケーブルを使用して本機のOPTICAL IN端子と接続します。
- COAXIAL出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のCOAXIAL IN端子(CABLE)と接続します。

ご注意

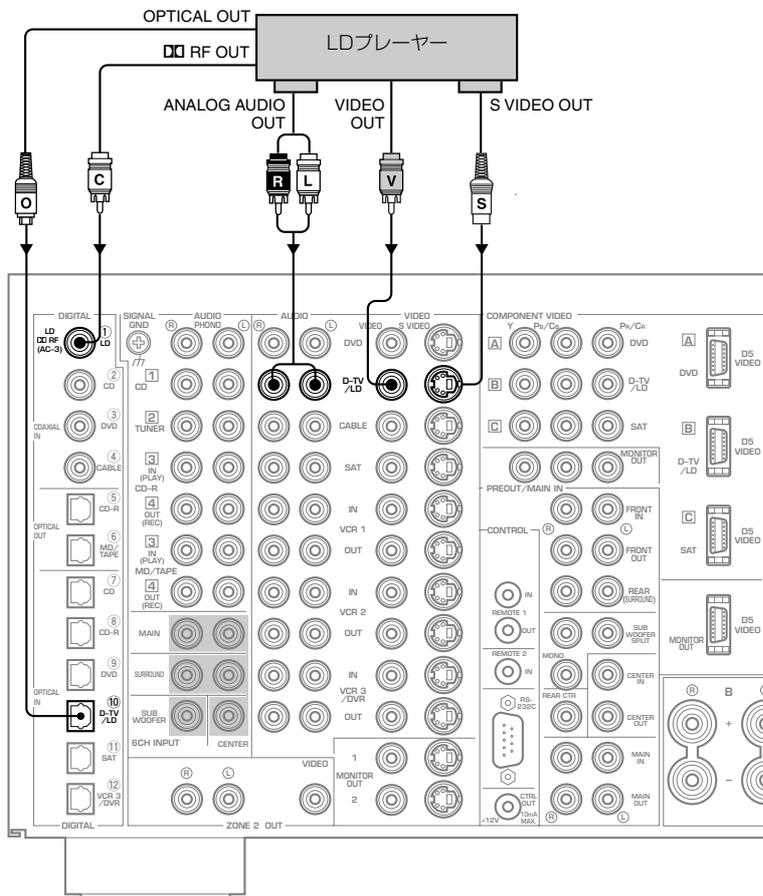
- COAXIAL出力端子を接続する場合、デジタルオーディオ系をCABLE端子、ビデオ系信号をSAT端子に接続することになるため、セットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」でCOAXIAL IN端子(CABLE)の設定を変更する必要があります(P.58参照)。

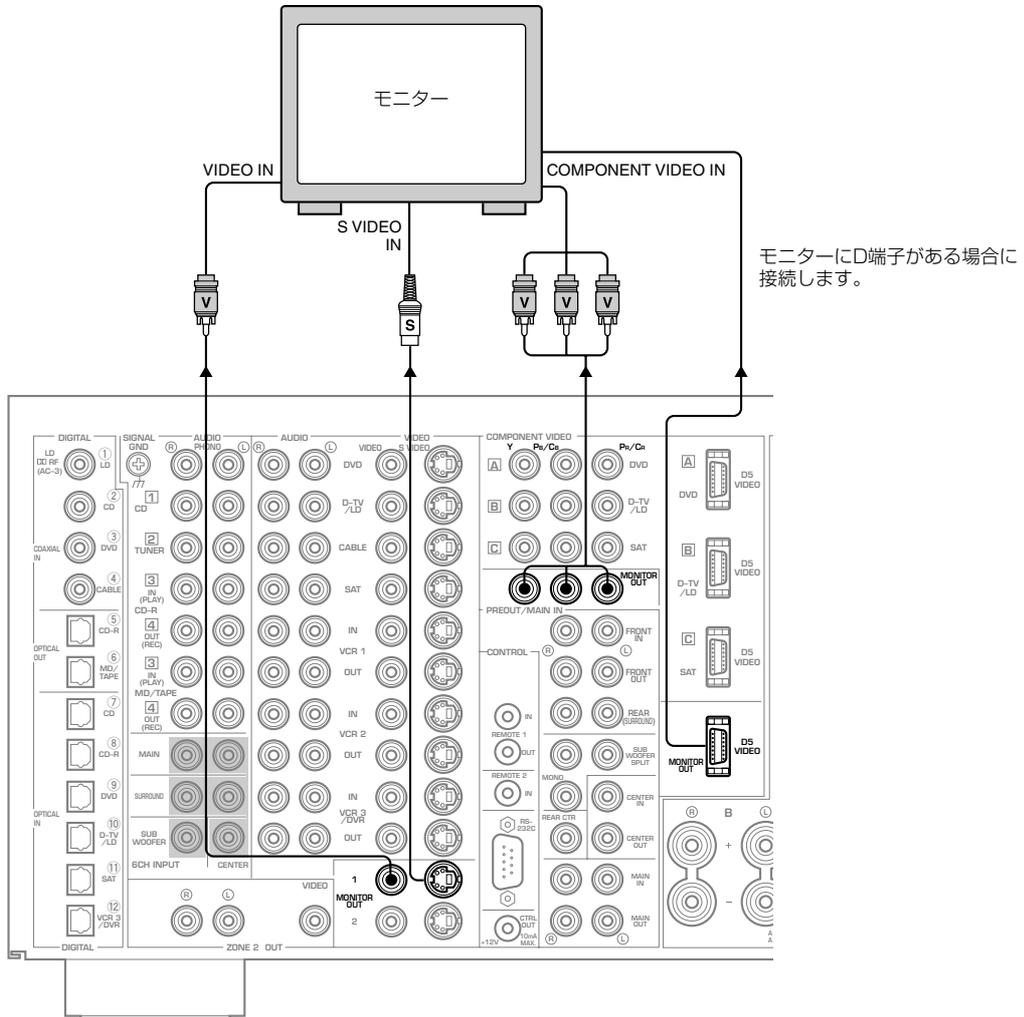
■ビデオデッキなどを接続する

- お使いのビデオデッキのビデオ入出力端子とオーディオ入出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO入出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子と接続します。
- お使いの録画機器にOPTICAL出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のOPTICAL IN端子（VCR 3/DVR）と接続します。

メモ

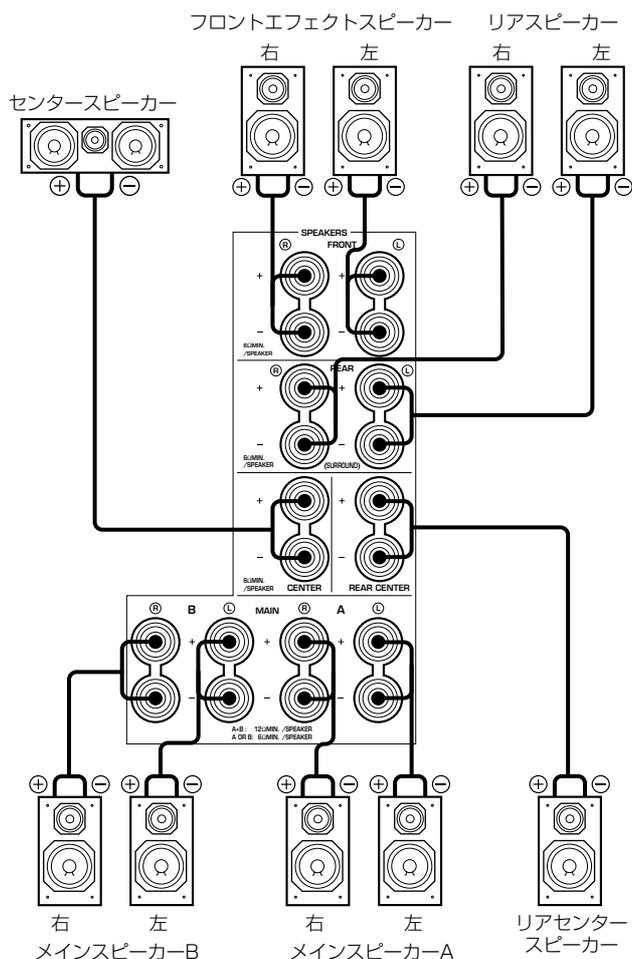
- VCR 2またはVCR 3/DVR端子を使ってビデオデッキを接続することもできます。

■LDプレーヤーを接続する

- お使いのLDプレーヤーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
- S VIDEO出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子と接続します。
- OPTICAL出力端子がある場合は、市販の光ファイバーケーブルを使用して本機のOPTICAL IN端子と接続します。
- AC-3 RF出力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のLD ⅮⅮ RF(AC-3)端子と接続します。

■モニターを接続する

• お使いのモニターのビデオ入力端子を、市販の接続コードを使用して本機に接続します。端子の色を合わせて、接続してください。
• S VIDEO入力端子やCOMPONENT VIDEO入力端子がある場合は、市販の接続コードを使用して本機のS VIDEO端子または COMPONENT VIDEO端子と接続します。

メモ

• MONITOR OUT 2端子を使ってモニターを接続することもできます。

スピーカーの接続

- 接続する際に、左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋/－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。
- スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて自動的に電源が切れますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA/Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続が終わったら、お使いのスピーカーの数や性能、大きさに応じて、セットメニュー「1 SPEAKER SET」でスピーカーモードを設定してください。

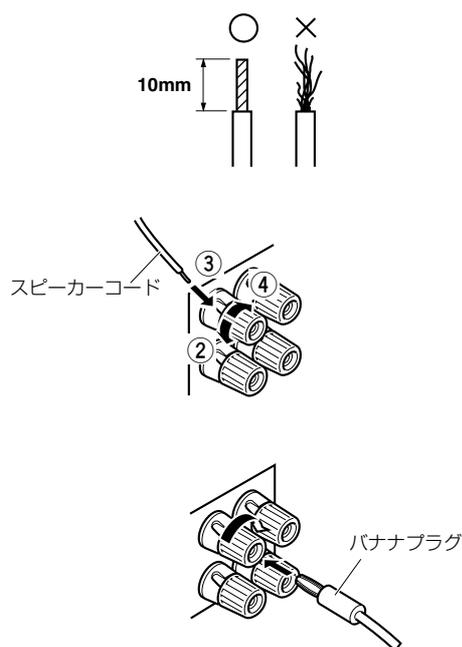
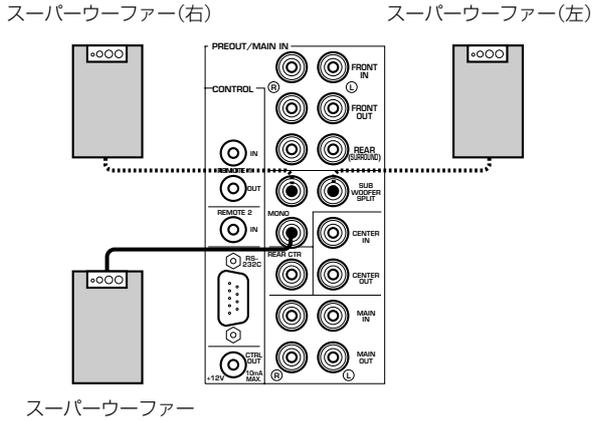
準備

■スピーカーコードの接続

一般的にスピーカーコードは平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうち、1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1. **スピーカーコード先端の絶縁部(被覆)を約10mm程度はがし、芯線をしっかりよじる**
   しっかりよじらないと、ショートの原因となります。
2. **スピーカー端子を左に回してゆるめる**
3. **スピーカー端子の穴に、スピーカーコードを差し込む**
4. **スピーカー端子を右に回してしめる**

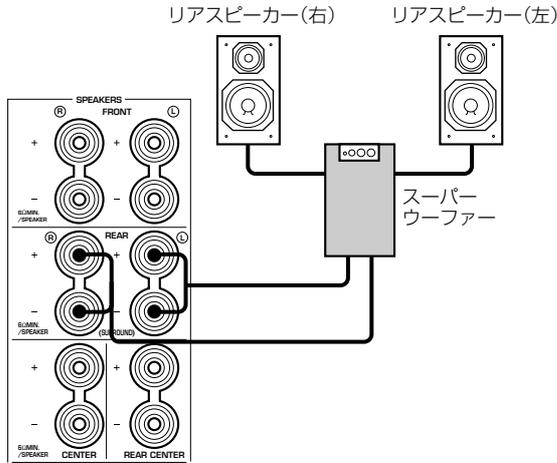
メモ

- 市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

■フロント側スーパーウーファーの接続

本機のリアパネルには、アンプ内蔵スーパーウーファー用のSUBWOOFER端子が設けられています。フロント側にスーパーウーファーを1台使用する場合は、MONO端子に接続します。2台使用する場合はSPLIT端子に接続します(どちらの端子にもピンコード使用)。2本のスーパーウーファーをSPLIT端子に接続すると、重低音における左右の微妙な方向感覚まで、リアルに再現することができます。

■リア側スーパーウーファーの接続

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。フロント側の低音と、リア側の低音が再生されると、迫力が増すだけでなく、CINEMA DSP音場プログラム(P.94参照)のリアリティが大きく改善されます。リア側専用のスーパーウーファーは、リアスピーカー端子からスピーカーコードで接続します。この場合、セットメニュー「1C REAR L/R SP」を「LRG」に設定してください。リア側にスーパーウーファーを設置しない場合は、リアスピーカーの大きさに応じて「SML」または「LRG」に設定してください。

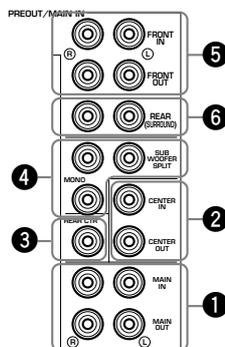
ご注意

- リア側スーパーウーファーのスピーカーレベル調節は、スーパーウーファー側で行います。本機では行えません。

他の機器の接続

■他のアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップする場合や、お手持ちのアンプを使用する場合などは、PREOUT/MAIN IN端子と外部パワーアンプを接続します。アンプ内蔵のスーパーウーファーは、SUBWOOFER端子に接続します。

ご注意

- 他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPREOUT端子に接続したときは、本機にスピーカーを接続しないでください。外部アンプに接続したスピーカーと、本機に接続したスピーカーの両方から音が出力されてしまいます。

❶ MAIN端子

- **MAIN OUT端子:** メインL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、メインスピーカーを駆動する場合に使用します。
- **MAIN IN端子:** 本機のメイン用パワーアンプの入力端子です。この端子を使用すると、本機のメイン用プリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。

❷ CENTER端子

- **CENTER OUT端子:** センターチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動する場合に使用します。
- **CENTER IN端子:** 本機のセンター用パワーアンプの入力端子です。この端子を使用すると、本機のセンター用プリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。

❸ REAR CTR端子

リアセンターチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、リアセンタースピーカーを駆動する場合に使用します。

❹ SUBWOOFER端子

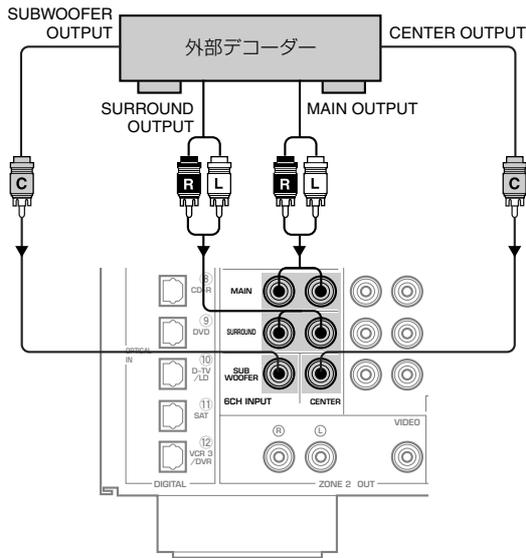
- **MONO端子:** セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、メイン、センターおよびリアチャンネルの低音信号(90Hz以下)が出力されます。ドルビーデジタル、DTSおよびAACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。
- **SPLIT端子:** メインおよびリアチャンネルの低音信号(90Hz以下)を左右に振り分け、センター、リアセンターチャンネルの低音信号(90Hz以下)およびLFE信号をミックスして出力します。

❺ FRONT端子

- **FRONT OUT端子:** フロントエフェクトチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、フロントエフェクトスピーカーを駆動する場合に使用します。
- **FRONT IN端子:** 本機のフロントエフェクト用パワーアンプの入力端子です。この端子を使用すると、本機のフロントエフェクト用プリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。

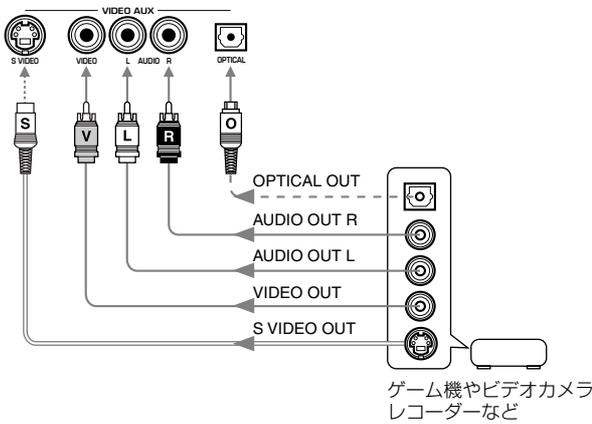
❻ REAR(SURROUND)端子

リアL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、リアスピーカーを駆動する場合に使用します。

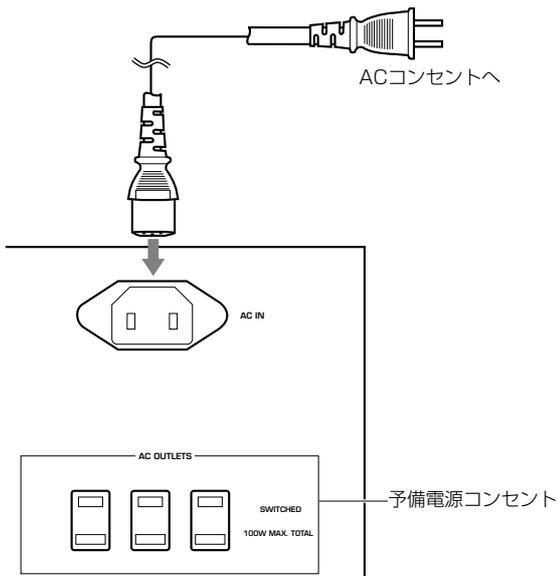
準備

■外部デコーダーを接続する

本機の6CH INPUT端子に、6(5.1)チャンネル出力端子を持った外部デコーダーやプロセッサーを接続することができます。

ご注意

- 外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号には、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定は、「1G MAIN LEVEL」を除き反映されません。

■ゲーム機などを接続する

フロントパネルのVIDEO AUX端子に接続すると便利です。

電源コードの接続

■電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■予備電源コンセント(AC OUTLETS SWITCHED)

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

オンスクリーン表示

本機にモニターを接続すると、本機の操作内容などを映像に重ねて表示させることができます。セットメニューや音場プログラムのパラメーターを設定する際にオンスクリーンを利用すると、項目や設定値が本体のディスプレイ表示に比べて見やすく表示されるため、便利です。

メモ

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- オンスクリーン表示はREC OUTに出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。

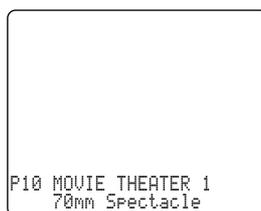
オンスクリーン表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示: 音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます。
ショート表示: 本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。
表示OFF: モニター画面の下に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

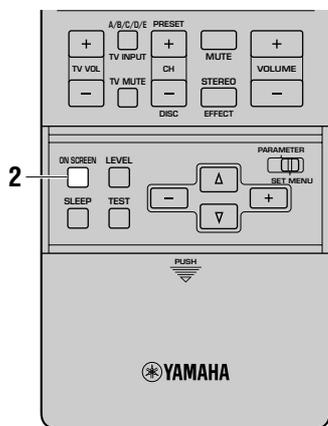
```
P10 MOVIE THEATER 1

 → 70mm Spectacle
   EFCT TRIM････0dB
   P.INIT.DLY･･13ms
   P.ROOM SIZE･･1.0
   S.DELAY･････23ms
   S.ROOM SIZE･･1.0
```

フル表示

```
P10 MOVIE THEATER 1
    70mm Spectacle
```

ショート表示

メモ

- セットメニューや「TEST DOLBY SUR.」、「TEST DSP」は表示の種類にかかわらずモニター表示されます。
- フル表示を選択すると、入力ソース選択や音量の調節などの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。

オンスクリーン表示の切り替え

1 本機とモニターの電源を入れる

2 リモコンのON SCREENキーを押す
押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

ご注意

- COMPONENT VIDEO/D5 VIDEOのMONITOR OUT端子に接続したモニターには、オンスクリーン表示が出ません。
- 本機とモニターをS VIDEO端子とVIDEO端子の両方で接続していて、両方から信号出力がある場合は、オンスクリーン表示はS VIDEO信号出力にのみ表示されます。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を受信した場合、オンスクリーンの表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、7種類のスピーカーモード（センタースピーカー、メインスピーカー、リアL/Rスピーカー、リアセンタースピーカー、バスアウト、フロントエフェクトスピーカー、メインレベル）を設定します。セットメニュー「1 SPEAKER SET」を呼び出し、各スピーカーモードの設定、および確認を行ってください。

■設定内容

項目	設定内容	可変範囲
1A CENTER SP	センタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します。	LRG/SML/NONE
1B MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE/SMALL
1C REAR L/R SP	リアスピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します。	LRG/SML/NONE
1D REAR CT SP	リアセンタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します。	LRG/SML/NONE
1E LFE/BASS OUT	LFE/BASS（低音）信号を出力するスピーカーを選択します。	SW/MAIN/BOTH
1F FRONT EFCT SP	フロントエフェクトスピーカーの有無に応じて、出力モードを選択します。	YES/NONE
1G MAIN LEVEL	メインスピーカーのレベルを選択します。	Normal/－10dB

メモ

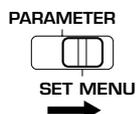
- 設定の目安として、ご使用になるスピーカーのウーファー口径が16cm以上の場合はLARGE、16cm未満の場合はSMALLに設定してください。スピーカーの性能により、設定がお好みに合わない場合は、実際の再生音を聴きながら設定しなおしてください。

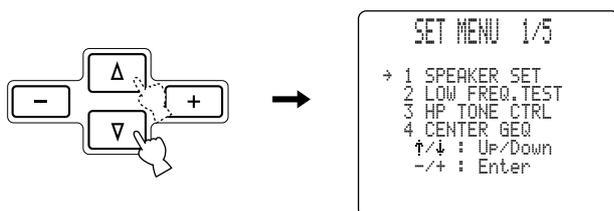
ご注意

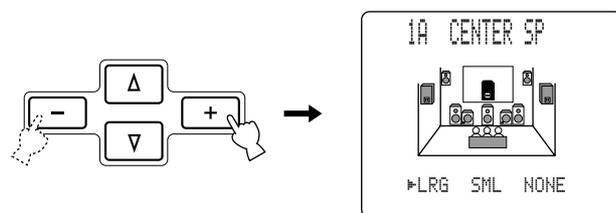
- 6CH INPUT端子に入力された信号には、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定は、「1G MAIN LEVEL」を除き反映されません。
- サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が入力された場合には、「1G MAIN LEVEL」のみ設定が有効になります。

■設定方法

リモコンでの操作を説明します。

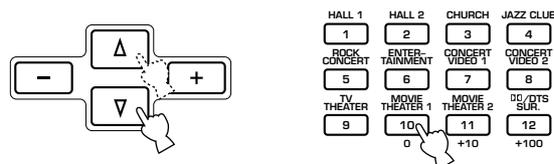
1 リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせる

2 セットメニュー「1 SPEAKER SET」を選択する

リモコンの△/▽キーを押すと、モニター画面がセットメニュー表示に切り替わります。繰り返し同じキーを押して、セットメニュー「1 SPEAKER SET」を選択します。

3 設定に入る

リモコンの＋/－キーを押すと、スピーカーモードの設定に入ります。現在の設定が本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。△/▽キーを押して、設定したい項目（1A～1G）を選択します。

4 設定値を変更する

リモコンの＋/－キーを繰り返し押して、選択した項目の設定値を変更します。

5 セットメニューの設定を終了する

終了するには、音場プログラム表示になるまでリモコンの△/▽キーを繰り返し押します。またはリモコンの音場プログラムキーを押します。

メモ

- 本体のNEXTキーやSET MENU＋/－キーでも操作ができます。

■ 1A CENTER SP（センタースピーカーモード）

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード（LRG/SML/NONE）を選択します。

モニター画面には、センタースピーカーモードの状態がイラスト表示されます。
「LRG」のとき、センタースピーカーは大型になります（観客3人）。「SML」のとき、センタースピーカーは小型になります（観客3人）。「NONE」のとき、センタースピーカーは表示されず、観客も1人になります。センタースピーカーを使用することで画像と音像が一致し、より多くの観客で楽しめることを表しています。

LRG（初期設定）: 大型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

SML: 小型のセンタースピーカーを使用するときに選択します。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE: センタースピーカーを使用しないときに選択します。センターチャンネル信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

メモ

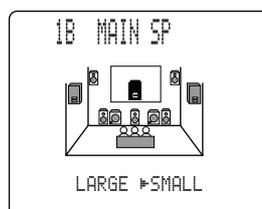
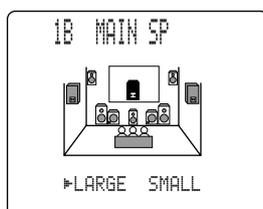
• センタースピーカーを「NONE」に設定した場合、他のスピーカーモードの設定に関わらず、モニター画面には観客が1人のみ表示されます。

■ 1B MAIN SP（メインスピーカーモード）

使用するメインスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

モニター画面には、メインスピーカーモードの状態がイラスト表示されます。
「LARGE」のとき、メインスピーカーは大型になり、「SMALL」のとき、メインスピーカーは小型になります。

LARGE（初期設定）: 大型のメインスピーカーを使用するときに選択します。メインL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL/Rスピーカーに出力されます。

SMALL: 小型のメインスピーカーを使用するときに選択します。メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

ご注意

• 「SMALL」設定時でも、「1E LFE/BASS OUT」の設定が「MAIN」の場合は、メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインL/Rスピーカーに出力されます。

準備

■ 1C REAR L/R SP(リアL/Rスピーカーモード)

使用するリアL/Rスピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

モニター画面には、リアL/Rスピーカーモードの状態がイラスト表示されます。
「LRG」のとき、リアL/Rスピーカーは大型になり、「SML」のとき、リアL/Rスピーカーは小型になります。「NONE」のとき、リアL/Rスピーカーは表示されません。

LRG(初期設定): 大型のリアL/Rスピーカーを使用するときや、リアL/Rスピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用するときに選択します。リアL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアL/Rスピーカーに出力されます。

SML: 小型のリアL/Rスピーカーを使用するときに選択します。リアL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE: リアL/Rスピーカーを使用しないときに選択します。リアL/Rチャンネル信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

ご注意

- 「NONE」に設定した場合、音場効果を入れると、バーチャルシネマDSPモードになります(P.49参照)。
- 「NONE」に設定すると、自動的にリアセンタースピーカーも使用しない設定になり、セットメニューから「1D REAR CT SP」がスキップされます。

■ 1D REAR CT SP(リアセンタースピーカーモード)

使用するリアセンタースピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

モニター画面には、リアセンタースピーカーモードの状態がイラスト表示されます。
「LRG」のとき、リアセンタースピーカーは大型になり、「SML」のとき、リアセンタースピーカーは小型になります。「NONE」のとき、リアセンタースピーカーは表示されません。

LRG(初期設定): 大型のリアセンタースピーカーを使用するときに選択します。リアセンターチャンネル信号の全帯域が、そのままリアセンタースピーカーに出力されます。

SML: 小型のリアセンタースピーカーを使用するときに選択します。リアセンターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE: リアセンタースピーカーを使用しないときに選択します。リアセンターチャンネル信号は、リアL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

ご注意

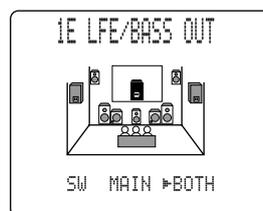
- 「1C REAR L/R SP」が「NONE」に設定されていると、セットメニューから「1D REAR CT SP」がスキップされ、設定できません。

■ 1E LFE/BASS OUT(LFE/BASS信号の出力モード)

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを選択します。
(LFE信号: ドルビーデジタル、DTSおよびAAC動作時に出力される、90Hz以下の低域効果音)

SW: スーパーウーファーを使用するときに選択します。LFE信号と、1A〜1Dの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、スーパーウーファーに出力されます。

MAIN: スーパーウーファーを使用しないときに選択します。LFE信号と、1A〜1Dの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)がメインL/Rスピーカーに出力されます。

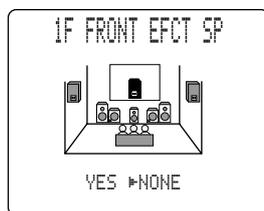
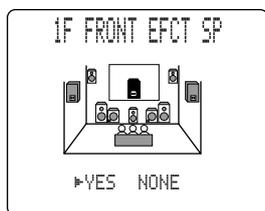
BOTH(初期設定): スーパーウーファーを使用し、さらにメインスピーカーの設定に関わりなく、メインL/Rチャンネル信号の低音域(90Hz以下)をLFEチャンネルにミックスするときに選択します。メインL/Rチャンネルの低音域がメインL/Rスピーカーとスーパーウーファーの両方に出力されます。

ご注意

- 1A〜1Dの設定を「SML」にすると、「SML」に設定したチャンネルの低音域(90Hz以下)がLFE信号に加わって「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

■ 1F FRONT EFCT SP(フロントエフェクトスピーカーモード)

フロントエフェクトスピーカーの有無を選択します。

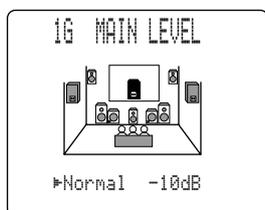
YES(初期設定): フロントエフェクトスピーカーを使用するときに選択します。フロントエフェクトチャンネル信号が、そのままフロントエフェクトスピーカーに出力されます。

NONE: フロントエフェクトスピーカーを使用しないときに選択します。フロントエフェクトチャンネル信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

■ 1G MAIN LEVEL(メインスピーカーのレベル設定)

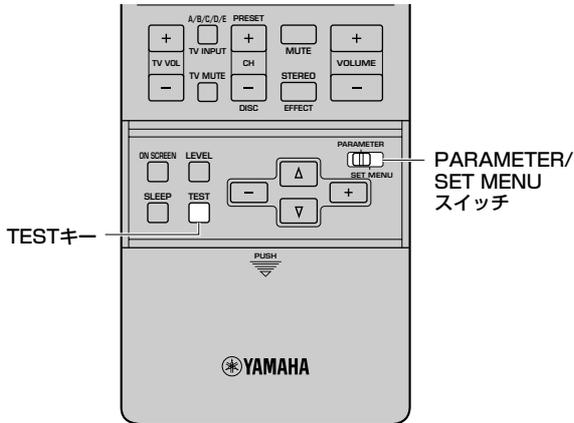
メインスピーカーの音量レベルが他のスピーカーと合わないときは、メインスピーカーの音量レベルを下げてバランスを調節します。

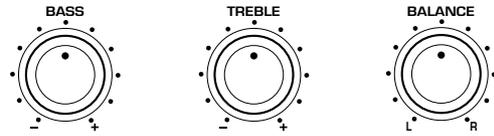
Normal(初期設定): 通常はこの設定にします。

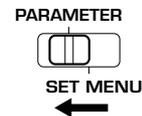
−10dB: テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、他のスピーカーの音量レベルを最大(+10dB)にしても、メインスピーカーより音が小さい場合は、この設定にします。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。

準備

スピーカーレベルの調節

本機内蔵のテストトーンを使ってスピーカーの出力レベルを調節します。調節にはサラウンド音場のための「TEST DOLBY SUR.」と、DSP音場効果のための「TEST DSP」があります。本機の音場プログラムを楽しむにはこれら2つの調節が必要です。

■調節に使用するキー/スイッチ

■調節の前に

❶ 本体のBASSコントロールとTREBLEコントロール、BALANCEコントロールを中央にセットする

❷ 本体のBASS EXTENSIONスイッチが「ON」になっている場合は「OFF」にする

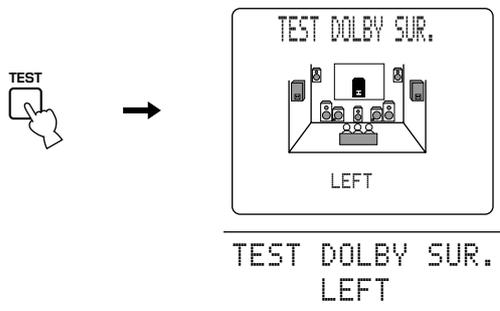
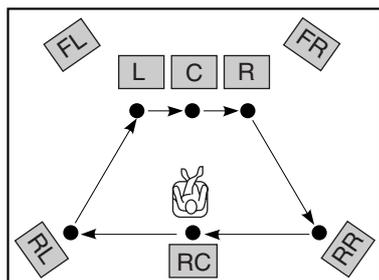
❸ リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる

ご注意

- ヘッドホン接続時は「TEST DOLBY SUR.」「TEST DSP」モードには入れません。
- 「TEST DOLBY SUR.」「TEST DSP」実行中にヘッドホンを接続すると、テストモードが解除されます。

TEST DOLBY SUR.

センタースピーカーとリアL/Rスピーカーの音量をメインスピーカーに合わせるためのテストモードです。テストトーンを出力するチャンネル(スピーカー)は、LEFT→CENTER→RIGHT→RIGHT SURROUND→REAR CENTER→LEFT SURROUND→…の順で循環し、それに合わせてモニター画面のスピーカーが点滅します。

1 TESTキーを押す

モニター画面および本体ディスプレイに「TEST DOLBY SUR.」と表示されます。

テストトーンは、LEFT(メインL)→CENTER(センター)→RIGHT(メインR)→RIGHT SURROUND(リアR)→REAR CENTER(リアセンター)→LEFT SURROUND(リアL)→…の順で循環し、それぞれ約2.5秒間ずつ聞こえます。また△/▽キーで調節したいスピーカーを選択することもできます。

ご注意

- セットメニュー「1 SPEAKER SET」(「1A CENTER SP」を除く)で「NONE」に設定されているスピーカーはスキップされ、テストトーンは出力されません。

2 VOLUME+/−キーで音量を調節する

ご注意

- テストトーンが聞こえない場合は、音量を絞ってから本機をスタンバイ状態にして、スピーカーの接続を確認してください。

3 調節したいスピーカーからテストトーンが出力されている間に+キーまたは−キーを押して、メインスピーカーの音量と同じになるように調節する

各スピーカーのレベルは、±10dBの範囲で調節できます。テストトーンは調節中のスピーカーからのみ出力されます。

ご注意

- セットメニュー「1A CENTER SP」が「NONE」に設定されていると、センタースピーカーの信号はメインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられ出力されます。この場合、センタースピーカーのレベルは調節できません。
- セットメニュー「1D REAR CT SP」が「NONE」に設定されていると、リアセンタースピーカーの信号はリアL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられ出力されます。この場合、リアセンタースピーカーのレベルは調節できません。
- メインL/Rスピーカーのレベルは単独では調節できません。全体の音量はVOLUMEコントロールで調節してください。

4 TESTキーを押して、「TEST DSP」モードに入る

もう一度TESTキーを押すと、テストトーンが止まり、モニター画面および本体ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

メモ

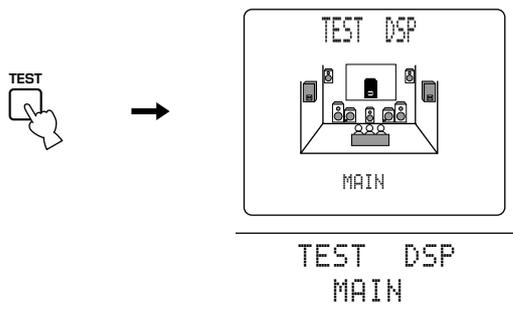
- 各スピーカーの音色が異なる場合は、セットメニュー「4 CENTER GEQ」、「5 REAR CT GEQ」および「6 CINEMA EQ」で音色が合うように調節してください(P.55〜57参照)。
- エフェクトスピーカー(リアL/R、センターおよびリアセンタースピーカー)の音量レベルを+10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1G MAIN LEVEL」を「−10dB」に設定します(P.37参照)。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインスピーカーの音量レベル変更後は、リアL/R、センターおよびリアセンタースピーカーのレベルをもう一度調節してください。
- センタースピーカー、リアL/Rスピーカーのレベルを調節すると、6CH INPUT端子に接続しているソース再生時の各スピーカーレベルにも反映されます。

TEST DSP

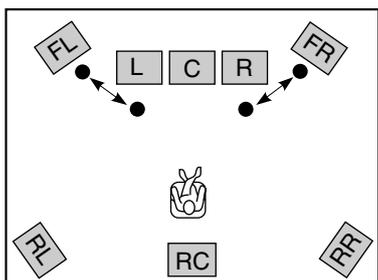
フロントエフェクトスピーカーの音量をメインスピーカーに合わせるためのテストモードです。テストトーンを出力するチャンネル(スピーカー)は、MAIN↔FRONTが交互に入れ替わり、それに合わせてモニター画面のスピーカーが点滅します。

ご注意

• セットメニュー「1F FRONT EFCT SP」が「NONE」に設定されていると、「TEST DSP」モードには入れません。

1 TESTキーを繰り返し押す
モニター画面および本体ディスプレイに「TEST DSP」と表示されます。

テストトーンは、FRONT(フロントエフェクト)↔MAIN(メインL/R)が交互に、約2.5秒間ずつ繰り返し聞こえます。また△キーを押すとFRONT L(フロントエフェクトL)からのみ、▽キーを押すとFRONT R(フロントエフェクトR)からのみテストトーンが出力されます。

2 VOLUME+/−キーで音量を調節する

ご注意

• テストトーンが聞こえない場合は、音量を絞ってから本機をスタンバイ状態にして、スピーカーの接続を確認してください。

3 フロントエフェクトスピーカーからテストトーンが出力されている間に+キーまたは−キーを押して、メインスピーカーの音量と同じになるように調節する
フロントエフェクトスピーカーのレベルは、±10dBの範囲で調節できます。テストトーンはフロントエフェクトスピーカーからのみ出力されます。

ご注意

• メインL/Rスピーカーのレベルは調節できません。

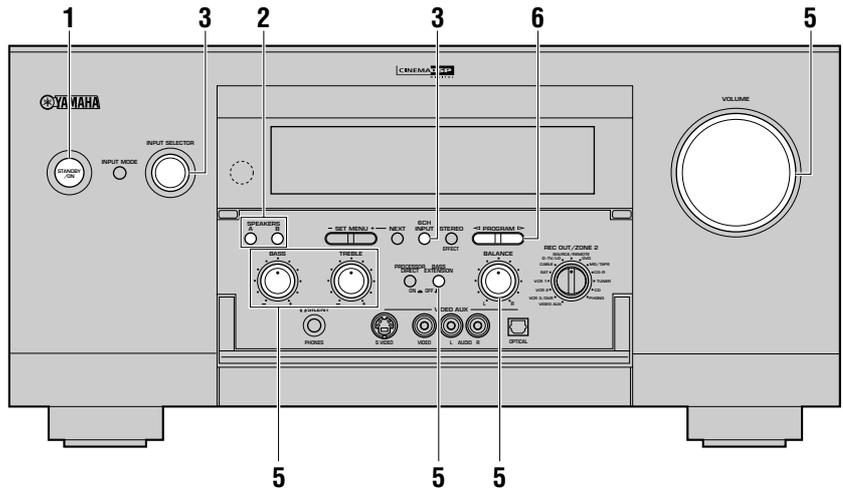
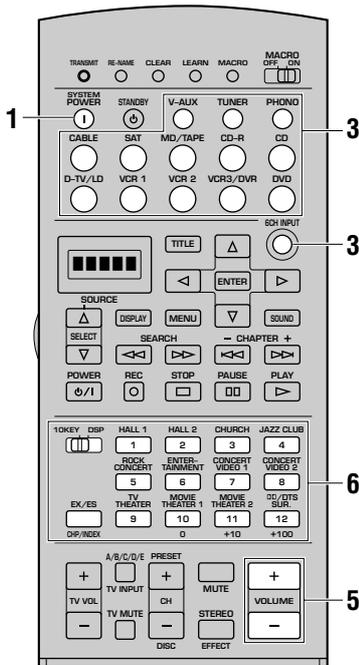
4 TESTキーを押して、「TEST DSP」を終了する
テストトーンが止まり、モニター画面および本体ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

メモ

• フロントエフェクトスピーカーの音色が異なる場合は、セットメニュー「6 CINEMA EQ」で音色が合うように調節してください(P.56〜57参照)。
• フロントエフェクトスピーカーの音量レベルを+10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1G MAIN LEVEL」を「−10dB」に設定します(P.37参照)。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインスピーカーの音量レベル変更後は、前項の「TEST DOLBY SUR.」でリアL/R、センターおよびリアセンタースピーカーのレベルをもう一度調節してください。

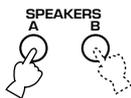
基本操作

再生操作、音場プログラムの選択、および録音/録画操作について解説します。

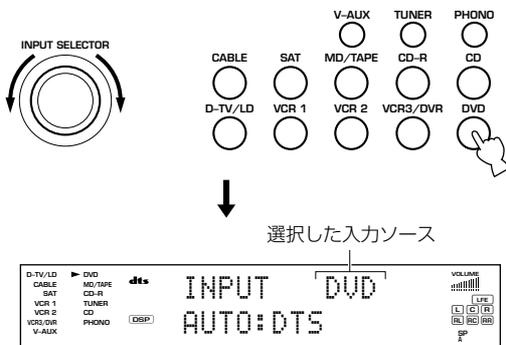
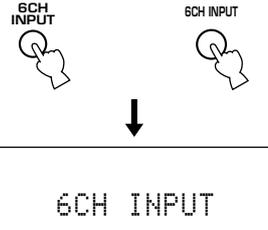
再生

❶ 電源を入れる

本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSYSTEM POWERキーを押して電源を入れます。本体ディスプレイに音量レベルが数秒間表示されたあと、前回電源を切ったときのプログラムが表示されます。

❷ 音を出すメインスピーカーを選択する

本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押して、使用するメインスピーカーを選択します。

❸ 再生するソースを選択する

本体のINPUT SELECTORを回して（またはリモコンの入力選択キーを押して）、再生するソースを選択します。

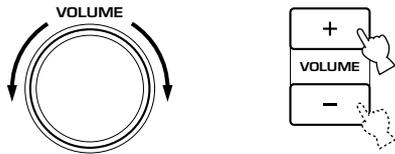
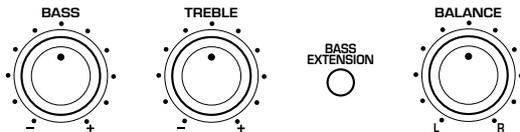
入力ソースを選択すると、本体ディスプレイとモニター画面に入力ソース名と入力モードを数秒間表示したあと、元の画面に戻ります。

6CH INPUT端子に接続したソースを選択するには、6CH INPUTキーを押します。

ご注意

- 「6CH INPUT」が本体ディスプレイとモニター画面に表示されているときは、6CH INPUT端子に接続したソース以外のソースを再生することができません。他のソースを再生する場合は、6CH INPUTキーを押して、「6CH INPUT」の表示を消してください。
- 入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と入力機器を合わせて接続していない場合は、入力ソース名と再生される音声が異なります（例えば、CDプレーヤーをMD入力端子に接続した場合、ソースとして「MD」を選択したときにCDプレーヤーの音声が出力されます）。このような場合は、セットメニューの「7 INPUT RENAME」で入力ソース名を変更することができます。

❹ ソースの再生を始める

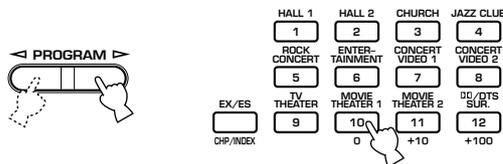
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

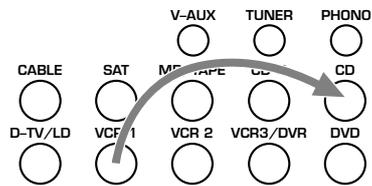
5 音量を調節する

本体のVOLUMEコントロールを回して(またはリモコンのVOLUME＋/－キーを押して)音量を調節します。

BASSコントロールやTREBLEコントロールを回したり、BASS EXTENSIONスイッチを押して、メインスピーカーの音質を調節することもできます。またBALANCEコントロールを回して、メインL/Rスピーカーの音量レベルのバランスを調節することもできます。

ご注意

- REC OUT端子に接続されている機器の電源が切れている場合、再生音が歪んだり、音量が下がることがあります。このような場合は、接続されている機器の電源を入れてご使用ください。
- PROCESSOR DIRECTスイッチを押している場合は、トーンコントロール(BASS、TREBLE)、BASS EXTENSIONスイッチやBALANCEコントロールははたらきません。

6 音場プログラムを選択する

本体のPROGRAM◁/▷キー(またはリモコンの音場プログラムキー)を押して、音場プログラムを選択します。詳しくはP.46『音場プログラムを選択する』を参照してください。

■BGV(バックグラウンドビデオ)機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。
ビデオ系ソースを選択してから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選択します。

メモ

- 本体のINPUT SELECTORでソースを選択した場合は、BGV機能ははたらきません。

■一時的に消音する

リモコンのMUTEキーを押します。消音を解除するには、もう一度MUTEキーを押します。

メモ

- リモコンのVOLUME＋/－キーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除されます。
- 消音中は、本体ディスプレイに「MUTE ON」と表示されます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、消音は解除されます。

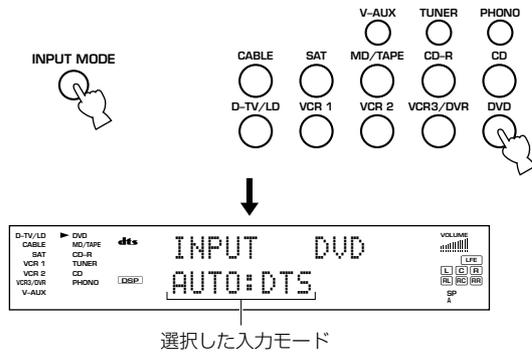
■本機の使用を終了する

本体のSTANDBY/ONスイッチまたは、リモコンのSTANDBYキーを押してスタンバイ状態にします。

入力モードの表示と切り替え

本機は、多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、これらの端子に入力される信号の優先順位を設定したり、入力信号を特定の系統に固定したりすることができます。

本体のINPUT MODEキー、またはリモコンの入力選択キーを押すと、現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。

選択した入力モード

AUTO：以下の順序で入力信号が選択されます。

① デジタル信号
② アナログ信号

D-TV/LDが入力ソースとして選択されている場合は、以下の順序で入力信号が選択されます。

① ドルビーデジタルRF信号
② デジタル信号
③ アナログ信号

D.D.RF：ドルビーデジタルRF信号に固定されます（D-TV/LD選択時のみ）。

DTS：DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC：AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

DGTL：デジタル信号に固定されます（D-TV/LD選択時のみ）。

ANALOG：アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ご注意

- セットメニュー「9 INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回設定した入力モードを適用するか、「AUTO」にリセットするか設定することができます。
- COAXIAL IN端子とOPTICAL IN端子へ同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL IN端子への入力信号が優先されます。

■ デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数192kHzまでのデジタル信号に対応しています。96kHzまでのデジタル信号の入力にはOPTICAL/COAXIAL両方の入力端子が使用できますが、96kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオ音声として出力されます。
- スーパーウーファーを除いて、エフェクトスピーカーの音量調節ができなくなります。
- 96kHzを超えるデジタル信号を入力する場合には同軸入力（COAXIAL IN）端子から入力してください。光入力（OPTICAL IN）端子から入力すると正常に再生できない場合があります。

また、96kHzのデジタル信号は、48kHzにダウンサンプリング（変換）したあと、音場処理を行います。

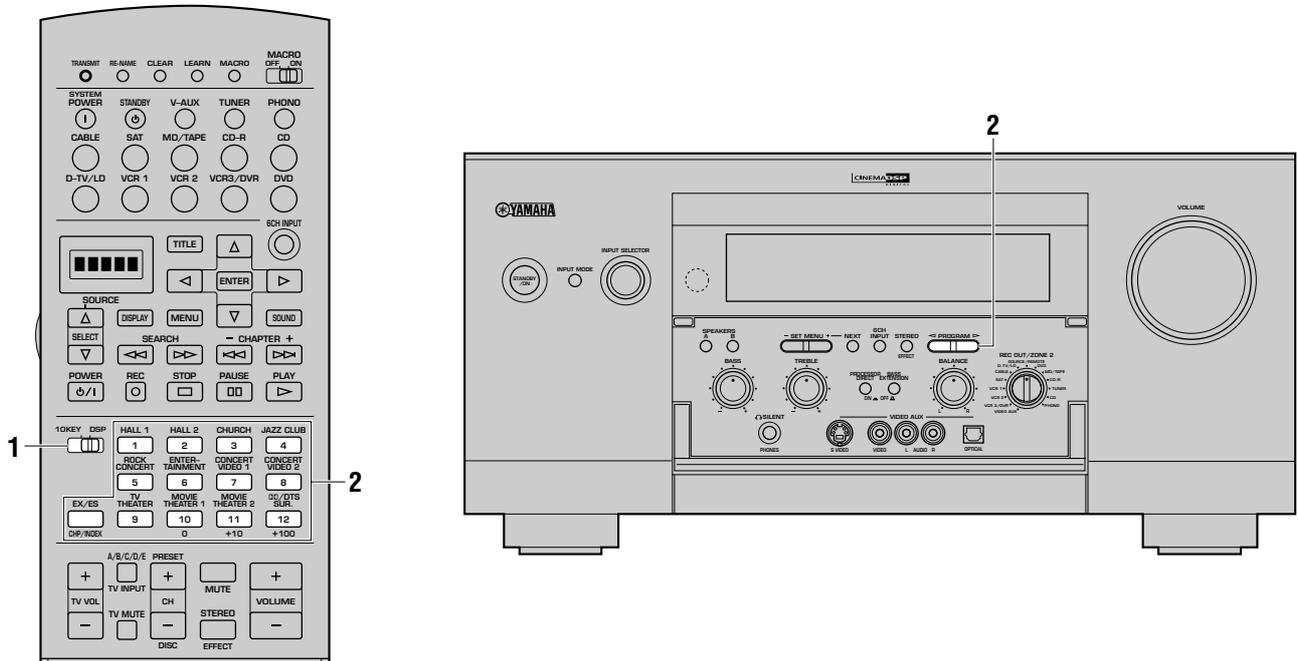
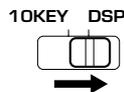
■DTS CD/LDの再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。
- 入力モードを「ANALOG」にしてDTS音声を再生すると、ノイズが発生することがあります。DTS音声を再生するには、ソースをデジタル入力端子に接続して、入力モードを「AUTO」、「DTS」、または「DGTL」(D-TV/LD選択時のみ)に設定してください。
- DTS音声を再生中に入力モードを「ANALOG」に切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードを「AUTO」または「DGTL」に設定してDTS音声を再生すると、本機はDTS信号を検出し、自動的にDTSモード(dtsインジケーター点灯)に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dtsインジケーターが点滅することがありますが、点滅中はDTS音声のみ再生できます。すぐに通常のPCM信号を再生したいときは、入力モードを「AUTO」または「DGTL」に設定しなおしてください。
- 入力モードを「AUTO」または「DGTL」に設定してDTS音声を再生中に、プレーヤー側でのサーチまたはスキップ操作により、DTS信号がとぎれると、dtsインジケーターが点滅することがあります。この状態が数十秒続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)モードに切り替わり、dtsインジケーターは消灯します。

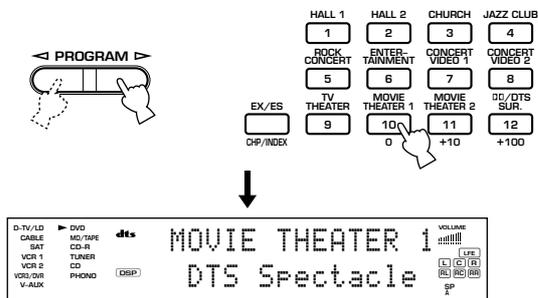
■LDの再生に関するご注意

- デジタル音声が入っていないLDソフトを再生する場合は、LDプレーヤーをアナログ入力端子に接続し、入力モードを「AUTO」または「ANALOG」に設定してください。
- LDプレーヤーが非標準方式で信号を伝送している場合、本機はドルビーデジタルまたはDTS信号を検出することができません。このような場合は、デコーダーが自動的にPCMまたはアナログに切り替わります。
- LDプレーヤーは、アナログ出力端子とデジタル出力端子で異なった信号を出力する場合があります。必要に応じて入力モードを切り替えてください。
- ドルビーデジタルディスクの再生時にポーズ/チャプター送りから、再生に切り替えると、ドルビーデジタル音声が出力される前に、PCMまたはアナログ音声が瞬間的に再生されることがあります。このような場合は、入力モードを「D.D.RF」に設定してください。

音場プログラムを選択する

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムを内蔵しています。再生するときに好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。音場プログラムついて詳しくは、P.88～100を参照してください。

1 リモコンの10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせる

2 音場プログラムを選択する

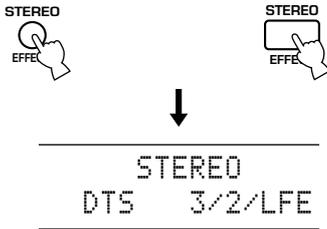
本体のPROGRAM◁/▷キー、またはリモコンの音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選択します。
音場プログラム内のサブプログラムを選択するには、本体のPROGRAM◁/▷キー、またはリモコンの同じ音場プログラムキーを押します。

- 例：MOVIE THEATER 1を押すごとにサブプログラム（「Spectacle」と「Sci-Fi」）が切り替わります。

ご注意

- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合に、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、対応した音場プログラムに自動的に切り替わります。
- 音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選択してください。
- 入力ソースを選択すると、前回そのソースに対して設定された音場プログラムを自動的に選択します。
- 本機をスタンバイにしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の設定を選択します。
- 6CH INPUT端子に接続されているソースには、音場効果はかかりません。
- サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が入力されている場合は、音場効果はかかりません。通常のステレオ再生となります。また96kHzのデジタル信号入力時は、48kHzにダウンサンプリングしたあと、音場処理を行います。

■通常のステレオ再生

STEREO/EFFECTキーを押すと、音場効果が切れ、通常のステレオ再生になります。ディスプレイには「STEREO」と表示されます。

```
STEREO
DTS   3/2/LFE
```

ドルビーデジタルやDTS、AAC、PCM音声再生時に「STEREO」にすると、ディスプレイには図のように表示されます。

ドルビーデジタル再生時：
「Dolby D」＋チャンネル数（フロント/リア/LFEの有無）

```
STEREO
Dolby D 2/0/---
```

DTS再生時：
「DTS」＋チャンネル数（フロント/リア/LFEの有無）

```
STEREO
DTS   3/2/LFE
```

AAC再生時：
「AAC」＋チャンネル数（フロント/リア/LFEの有無）

```
STEREO
AAC   3/2/LFE
```

PCM再生時：
「PCM」＋サンプリング周波数

```
STEREO
PCM 48kHz
```

アナログ音声再生時：

```
STEREO
Analog
```

メモ

- 二重/多重音声入力時のチャンネル数はそれぞれ「1＋1」（主＋副の二重音声）、「MLT」（3音声以上の多重音声）と表示されます。

ご注意

- 「STEREO」時には、メインスピーカーL/R以外のスピーカーから音は出ません。ただし、セットメニュー「1B MAIN SP」が「SMALL」で「1F LFE/BASS OUT」が「SW」、または「1F LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されている場合は、スーパーウーファーからも音が出ます。
- ドルビーデジタル、DTSおよびAAC音声の再生中に音場効果を切ると、ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。センターおよびリアチャンネル信号はメインスピーカーL/Rにミックスされて出力されます。
- ドルビーデジタルソフトによっては、セットメニュー「12 DYNAMIC RANGE」を「MIN」に設定した場合や、音場効果を切った場合に、音量が極端に下がる場合があります。このような場合はSTEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を入れてください。

■入力信号情報の表示

ステレオ再生時にPARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせてから△キーまたは▽キーを押すと、再生中の信号の情報を表示させることができます。
▽キーを押すごとに、以下の3つの情報が切り替わり表示されます。

fs: 入力信号のサンプリング周波数（デジタル信号入力時のみ）。不明な場合は「unknown」と表示されます。

```
STEREO
fs:48kHz
```

rate: 入力信号のビットレート（ドルビーデジタル/DTSのみ）。不明な場合は「unknown」と表示されます。

```
STEREO
rate:1920kbps
```

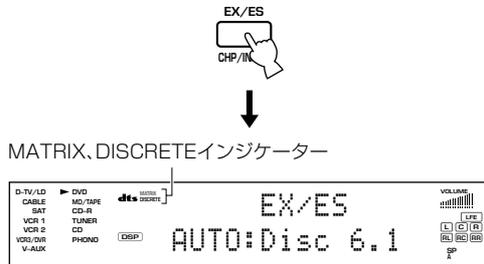
flg: 入力信号に含まれている、信号処理に使用されるフラグ（ドルビーデジタル/DTSのみ）。認識できない場合は「None」と表示されます。

```
STEREO
flg:ES Mtrx 6.1
```

基本操作

■ ドルビーデジタルEX音声/DTS-ES音声の再生

ドルビーデジタルEX方式やDTS-ES方式(ディスクリート6.1、マトリクス6.1)のソフトを6.1チャンネル再生するときは、EX/ESキーを押します。

キーを押すごとに、AUTO(自動判別)→Discrete 6.1(ディスクリート音声)→Matrix 6.1(マトリクス音声)→OFF→AUTO→…の順にディスプレイ表示が変わります。

AUTO:本機が認識できる信号で記録されたソースが入力されると、ディスクリート音声とマトリクス音声にそれぞれ自動的に切り替わります。

Discrete 6.1:ディスクリート方式の音声の場合、ディスクリート6.1方式で再生し、DTS-ES(ディスクリート6.1)音声以外のリアエフェクトL/R成分のある入力ソースに切り替わると、マトリクス6.1方式で再生します。入力ソースがDTS-ES(ディスクリート6.1)音声に戻ると、ディスクリート6.1方式で再生します(DISCRETEインジケーター点灯)。

Matrix 6.1:ドルビーデジタルEXやDTS-ES(マトリクス6.1)などの5.1チャンネルのソフトをドルビーデジタルEXやDTS-ESデコーダーなどを通して、6.1チャンネルで再生します(MATRIXインジケーター点灯)。リアエフェクトL/R成分のあるソースであれば、AACを含めたいずれの信号でもマトリクス6.1方式で再生できます。

OFF:ディスクリート6.1/マトリクス6.1再生をオフにします。リアセンタースピーカーから音声は出力されません。

ご注意

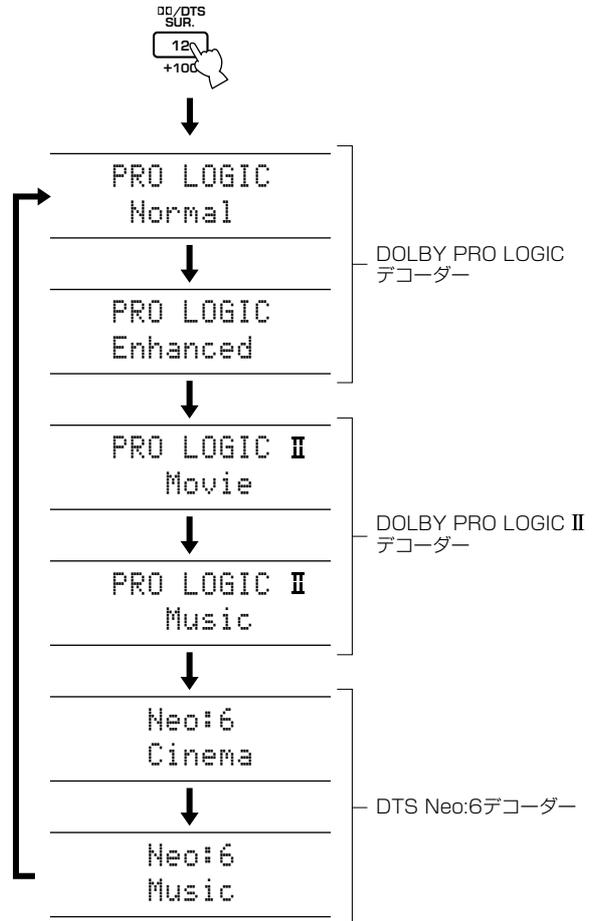
- 6.1チャンネル対応ディスクには、本機が自動的に認識できる信号(フラグ)が記録されていないものがあります。このようなディスクを6.1チャンネルで再生するには「Matrix 6.1」を選択してください。
- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1チャンネル再生はできません。
  - ① セットメニュー「1C REAR L/R SP」を「NONE」に設定している。
  - ② 音場効果を切っている(「STEREO」と表示されている)。
  - ③ 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生している。
  - ④ ドルビーデジタルKARAOKEソースを再生している。

■ DOLBY PRO LOGIC/DOLBY PRO LOGIC II/DTS Neo:6デコーダー

本機は2チャンネル音声をマルチチャンネル化して再生することができる、DOLBY PRO LOGIC、DOLBY PRO LOGIC IIおよびDTS Neo:6の3つのデコーダーを搭載しています。

1 本機に2チャンネル音声を入力する

2 デコーダーおよびサブプログラムを選択する

リモコンの□□/DTS SUR.キーを押すごとに、以下の順で切り替わります。

ご注意

- 2チャンネル信号以外の信号は、DOLBY PRO LOGIC IIおよびDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- AACの2チャンネルステレオ信号は、DTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- 本体のPROGRAM◁/▷キーを押して、これらのプログラムを選択することもできます。

■バーチャルシネマDSP

セットメニュー「1C REAR L/R SP」を「NONE」に設定すると、音場処理がバーチャルシネマDSPモードに切り替わります。入力ソースの音声は、選択している音場プログラムでメインスピーカーL/Rから出力されます。

ご注意

- 以下の場合は、セットメニュー「1C REAR L/R SP」を「NONE」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードにはなりません。
  ① 8ch StereoやPRO LOGIC Normal、DOLBY DIGITAL Normal、DTS Normal、AAC Normal、PRO LOGIC Ⅱ、Neo:6を音場プログラムとして選択している。
  ② 音場効果を切っている(「STEREO」と表示されている)。
  ③ ヘッドホンを接続している。
  ④ 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生している。
  ⑤ サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が入力されている。

■サイレントシアター

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現する、サイレントシアターで音声を楽しむことができます。

ご注意

- 以下の場合は、サイレントシアターははたらきません。
  ① サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が入力されている。
  ② 音場効果を切っている(「STEREO」と表示されている)。
  ③ 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生している。

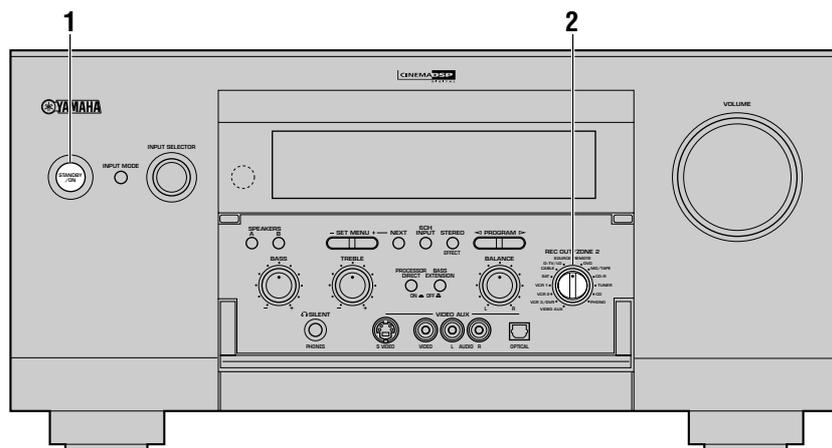
■DTS 96/24について

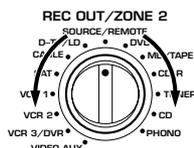
DTS 96/24信号入力時には以下の点にご注意ください。

- DTS 96/24信号を正常にデコードするには、CINEMA DSP音場プログラム「DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND」のサブプログラム「Normal」を選択してください。
- DTS 96/24信号入力時に、EX/ESキーを押すとマトリクス6.1方式で再生します。
- 上記以外の場合は、DTS 96/24デコーダーははたらきません。入力信号のサンプリング周波数に対応して、音場効果付加やダウンミックス等の各処理を行います。

DTS 96/24信号入力時にはディスプレイの96kHz/24bitインジケーターが点灯します。

録音/録画

本機はREC OUT/ZONE 2セレクターを装備しているため、再生中のソースを録音/録画、または再生中のソースとは別のソースを録音/録画することができます。

1. 本機および本機に接続されているすべての機器の電源を入れる

2. REC OUT/ZONE 2セレクターを回して、録音/録画したいソースを選択する

見ている（聴いている）ソースを録音/録画する場合：
REC OUT/ZONE 2セレクターを「SOURCE/REMOTE」の位置に合わせます。
見ている（聴いている）ソースとは別のソースを録音/録画する場合：
REC OUT/ZONE 2セレクターを録音/録画したいソースの位置に合わせます。

3. ソースの再生を始める
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

4. 録音/録画を開始する
録音/録画する機器の取扱説明書を参照してください。

録音/録画中に見ている（聴いている）ソースを別のソースに変更する場合は、INPUT SELECTORでソースを選択することができます（REC OUT/ZONE 2セレクターを「SOURCE/REMOTE」以外に合わせているときのみ）。

メモ

- 録音/録画をする前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画することはできません。
- 録音中にBASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチ、BALANCEコントロール、VOLUMEコントロールや音場プログラムなどを操作しても、録音される音声には影響しません。
- REC OUT/ZONE 2セレクターを「SOURCE/REMOTE」に合わせてBGV機能（P.43参照）を使用すると、異なったソースの映像と音声を組み合わせて録音/録画することができます。

ご注意

- 入力ソースのREC OUT端子からは、信号は出力されません。
- S VIDEO端子に入力されたSビデオ信号はS VIDEO端子からのみ録画できます。同様に、VIDEO端子に入力されたビデオ信号はVIDEO端子からのみ録画できます。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 6CH INPUT端子に入力された信号は録音できません。
- ドルビーデジタルRF信号はREC OUT出力されません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

■DTSソフトの録音に関するご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音しても、ノイズのみが録音されます。DTSソフトの信号を録音するには、お使いのプレーヤー側でアナログ信号で出力するように設定し、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

応用操作

セットメニューの設定、リモコンの機能、その他の機能などについて解説します。

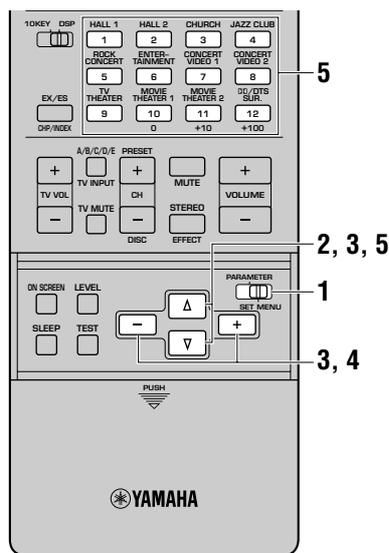
セットメニューの設定

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただくために、19項目のセットメニューの設定ができます。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

メモ

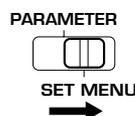
- 再生中でも、セットメニューの設定ができます。
- セットメニューはモニター画面を見ながら設定することをおすすめします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面のほうがわかりやすく設定できます。

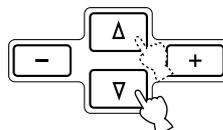
項目		内容
1 SPEAKER SET	1A CENTER SP	センタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します（P.35参照）。
	1B MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します（P.35参照）。
	1C REAR L/R SP	リアスピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します（P.36参照）。
	1D REAR CT SP	リアセンタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選択します（P.36参照）。
	1E LFE/BASS OUT	LFE/BASS（低音）信号を出力するスピーカーを選択します（P.37参照）。
	1F FRONT EFCT SP	フロントエフェクトスピーカーの有無に応じて、出力モードを選択します（P.37参照）。
	1G MAIN LEVEL	メインスピーカーのレベルを選択します（P.37参照）。
2 LOW FREQ. TEST	スーパーウーファーと各スピーカーの音のつながりを確認します。	
3 HP TONE CTRL	ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。	
4 CENTER GEQ	メインL/Rスピーカーの音色と合わせるために、センタースピーカーの特性を調節します。	
5 REAR CT GEQ	リアL/Rスピーカーの音色と合わせるために、リアセンタースピーカーの特性を調節します。	
6 CINEMA EQ	メインL/センター/メインR、フロントエフェクト、リアL/R、リアセンターチャンネルの音質を調節します。	
7 INPUT RENAME	入力ソース名の変更をします。	
8 I/O ASSIGNMENT	使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	
9 INPUT MODE	電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。	
10 PARAMETER INI	音場プログラムの設定値を、初期設定値に戻します。	
11 LFE LEVEL	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	
12 DYNAMIC RANGE	ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定します。	
13 SP DELAY	センタースピーカーとリアセンタースピーカーのディレイタイム（遅延時間）を設定します。	
14 AUDIO DELAY	音声出力のディレイタイムを設定します。	
15 DISPLAY SET	オンスクリーン表示の背景や表示位置、本体ディスプレイの明るさなどを設定します。	
16 MEMORY GUARD	変更した設定値を保護します。	
17 ZONE2 SET	ZONE2 OUTレベル調整の設定をします。	
18 6CH INPUT SET	6CH INPUT端子に入力されたセンター成分とスーパーウーファー成分の振り分け先を設定します。	
19 DUAL MONO	二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。	

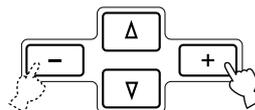
セットメニューの操作手順

リモコンでの操作を説明します。

メモ

- 選択するメニューによっては、さらに別の操作が必要となる場合もあります。
- 本体のNEXTキーやSET MENU＋/−キーでも操作ができます。

1 リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせる

2 設定したいセットメニューを選択する

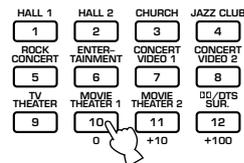
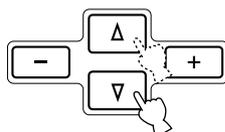
リモコンの△/▽キーを押すと、モニター画面がセットメニュー表示に切り替わります。繰り返し同じキーを押して、1〜19のセットメニューから変更したいセットメニューを選択します。

3 セットメニューの設定に入る

リモコンの＋/−キーを押すと、選択したメニューの設定モードに入ります。現在の設定が本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。項目によっては△/▽キーを押して、サブメニューを選択します。

4 設定値を変更する

リモコンの＋/−キーを繰り返し押して、設定値を変更します。

5 セットメニューの設定を終了する

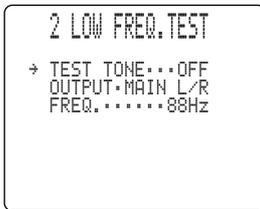
終了するには、音場プログラム表示になるまでリモコンの△/▽キーを繰り返し押します。またはリモコンの音場プログラムキーを押します。

応用操作

1 SPEAKER SET(スピーカーセット)

お使いになるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。設定項目の内容について詳しくは、P.34〜37『スピーカーモードの設定』を参照してください。

2 LOW FREQ. TEST(ローフリークエンシーテスト)

スーパーウーファーの動作やスーパーウーファーと各スピーカーの音のつながりを、周波数の低いテストトーンで確認します。

```
2 LOW FREQ.TEST

→ TEST TONE･･･OFF
  OUTPUT･MAIN L/R
  FREQ.･･････88Hz
```

1 ＋または－キーを押して、「TEST TONE」を「ON」に設定する
テストトーンが出力されます。

ご注意
- ヘッドホンを接続していると、「ON」に設定できません。
- テスト中にヘッドホンを接続すると、「OFF」になります。
- ソースの再生中は、テストトーンが優先され、ソースの再生音は出力されません。

2 VOLUME＋/－キーを押して音量を調節する

ご注意
- 音量を上げ過ぎないように注意してください。
- テストトーンが聞こえない場合は、ボリュームを絞ってから本機をスタンバイ状態にし、スピーカーの接続を確認してください。

3 ▽キーを押して、「OUTPUT」を選択し、＋または－キーを押して比較したいスピーカーを選択する
SWFR選択時は、90Hz以上のテストトーンはハイカットフィルターでカットされます。また、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、90Hzを境にテストトーン出力チャンネルが変わることがあります。

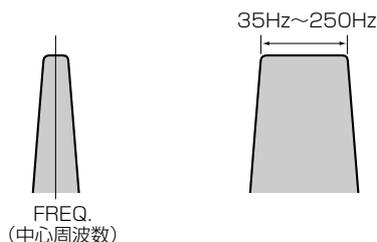
4 ▽キーを押して、「FREQ.」を選択し、＋または－キーを押して中心周波数を設定する
スーパーウーファーとの音のつながりがスムーズであることを確認するため、中心周波数(35〜250Hzまたは「35-250Hz」)を設定します。

5 スーパーウーファーの音量やハイカットフィルターを、スーパーウーファー側で調節する

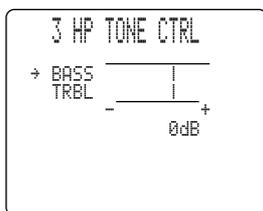
■テストトーンについて

デジタルトーンジェネレーター・広帯域ノイズ発生

バンドパスフィルター

FREQ.
(中心周波数)

- 本機のテストトーンはトーンジェネレーターにより作り出しています。全体域フラットな広帯域ノイズから、指定された周波数を中心とした帯域をバンドパスフィルターで切り出しています。
- 中心周波数は35Hz→39Hz→44Hz→「1/6オクターブステップ」で設定できます。
- スーパーウーファーのレベル調節だけでなく、リスニングルームの低域特性チェックにも応用できます。特に超低域ではリスニングポジションやスピーカーの設置場所、スーパーウーファーの位相により状態が大きく変化します。いろいろお試しください。

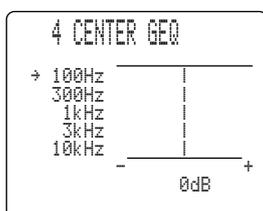
3 HP TONE CTRL(ヘッドホントーンコントロール)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲: −6dB〜+3dB
初期設定: 0dB(低音域、高音域とも)

1 **△または▽キーを押して、調節したい音域を選択する**
「BASS」(低音域)または「TRBL」(高音域)を選択します。

2 **+または−キーを押して、レベルを調節する**
+キーを押すとレベルが増強し、−キーを押すとレベルが減衰します。

4 CENTER GEQ(センターグラフィックイコライザー)

メインL/Rスピーカーの音色と合わせるために、センタースピーカーの特性をセンターチャンネルのグラフィックイコライザーで調節します。

可変範囲: −6dB〜+6dB
初期設定: 0dB(5バンドとも)

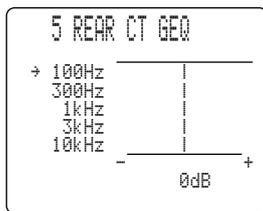
1 **△または▽キーを押して、調節したい周波数を選択する**
100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHzの周波数が選択できます。

2 **+または−キーを押して、レベルを調節する**
+キーを押すとレベルが増強し、−キーを押すとレベルが減衰します。

メモ

• 「TEST DOLBY SUR.」、「TEST DSP」実行中に、「4 CENTER GEQ」で調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「4 CENTER GEQ」で調節を行う前に、TESTキーを押して、「TEST DOLBY SUR.」を実行します。「4 CENTER GEQ」で調節を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定され、周波数を変えながら音色の変化を試すことができます。テストトーンを終了するには、音場プログラム表示になるまでTESTキーを繰り返し押します。

5 REAR CT GEQ(リアセンターグラフィックイコライザー)

リアL/Rスピーカーの音色と合わせるために、リアセンタースピーカーの特性をリアセンターチャンネルのグラフィックイコライザーで調節します。

可変範囲: −6dB〜+6dB
初期設定: 0dB(5バンドとも)

1 **△または▽キーを押して、調節したい周波数を選択する**
100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHzの周波数が選択できます。

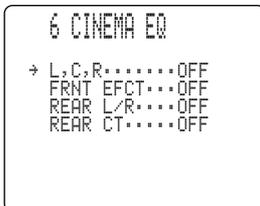
2 **+または−キーを押して、レベルを調節する**
+キーを押すとレベルが増強し、−キーを押すとレベルが減衰します。

メモ

• 「TEST DOLBY SUR.」、「TEST DSP」実行中に、「5 REAR CT GEQ」で調節を行うと、テストトーンを聞きながらリアセンタースピーカーの音色を調節できます。「5 REAR CT GEQ」で調節を行う前に、TESTキーを押して、「TEST DOLBY SUR.」を実行します。「5 REAR CT GEQ」で調節を始めると、テストトーンの出力はリアセンタースピーカーに固定され、周波数を変えながら音色の変化を試すことができます。テストトーンを終了するには、音場プログラム表示になるまでTESTキーを繰り返し押します。

6 CINEMA EQ(シネマイコライザー)

メインL/センター/メインRチャンネル、フロントエフェクトチャンネル、リアL/Rチャンネル、リアセンターチャンネルをそれぞれ個別に設定できるイコライザーです。
シネマイコライザーは、なだらかに高域特性を調節できるハイシェルビングフィルター(HIGH)と、任意の帯域を増幅/減衰できるパラメトリックイコライザー(PEQ)で構成されています。それぞれ周波数(FRQ)とゲイン(GAIN)を組み合わせて設定できます。使用するスピーカーや設置状況の違いによる音色の違いを合わせたり、ソースの音をお好みに調節するなど、多彩な使い方が可能です。

```
6 CINEMA EQ

→ L,C,R·······OFF
  FRNT EFCT···OFF
  REAR L/R····OFF
  REAR CT·····OFF
```

1 △または▽キーを押して、調節したいチャンネルを選択し、+または−キーを押して「ON」にする

2 △または▽キーを数回押して、調節したいチャンネルの設定画面を表示する
4つのグループ(6A〜6D)から選択し、設定ができます。

ご注意

- 手順1で設定を「OFF」にしたグループは設定画面が表示されません。

3 △または▽キーを押して、調節したい項目を選択する
「HIGH」の「FRQ」/「GAIN」、「PEQ」の「FRQ」/「GAIN」を選択します。

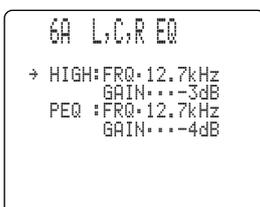
4 +または−キーを押して、各項目の調節をする
「FRQ」(周波数)は、「HIGH」の場合はターンオーバー周波数の設定、「PEQ」の場合はバンドの中心周波数の設定です。
「GAIN」(ゲイン)は、値が大きくなるほど増幅量が多くなり、小さくなるほど減衰量が多くなります。0dBにすると変化しません。

メモ

- オンスクリーン表示では、初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク(*)が表示されます。
- 音場効果が切ってある場合(「STEREO」表示時)は、シネマイコライザーは効きません。
- 「TEST DOLBY SUR.」または「TEST DSP」を実行中は、以下のように出力が固定されます。
  ① **6A L,C,R EQ:** テストトーンはメインL/R、センターチャンネルに出力固定(セットメニュー「1A CENTER SP」が「NONE」のときは、メインL/Rに出力固定)
  ② **6B FRNT EFCT EQ:** テストトーンはフロントエフェクトチャンネルに出力固定
  ③ **6C REAR L/R EQ:** テストトーンはリアL/Rチャンネルに出力固定
  ④ **6D REAR CT EQ:** テストトーンはリアセンターチャンネルに出力固定

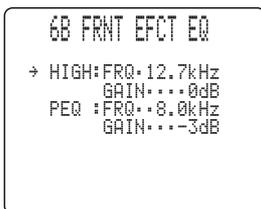
■6A L, C, R EQ(メインL/センター/メインRイコライザー)

メインL/Rチャンネルおよびセンターチャンネルの設定をします。

```
6A  L,C,R EQ

→ HIGH:FRQ·12.7kHz
       GAIN···-3dB
  PEQ :FRQ·12.7kHz
       GAIN···-4dB
```

可変範囲: 1.0kHz〜12.7kHz(HIGH: FRQ、PEQ:FRQ)、
−9dB〜+6dB(HIGH: GAIN、PEQ: GAIN)

初期設定: 12.7kHz(HIGH: FRQ、PEQ: FRQ)、−3dB(HIGH: GAIN)、
−4dB(PEQ: GAIN)

■6B FRNT EFCT EQ(フロントエフェクトイコライザー)

フロントエフェクトチャンネルの設定をします。

```
6B FRNT EFCT EQ

→ HIGH:FRQ・12.7kHz
       GAIN・・・・0dB
  PEQ :FRQ・・8.0kHz
       GAIN・・・-3dB
```

可変範囲: 1.0kHz〜12.7kHz(HIGH: FRQ、PEQ:FRQ)、
－9dB〜＋6dB(HIGH: GAIN、PEQ: GAIN)

初期設定: 12.7kHz(HIGH: FRQ)、8.0kHz(PEQ: FRQ)、0dB(HIGH:GAIN)、
－3dB(PEQ: GAIN)

■6C REAR L/R EQ(リアL/Rイコライザー)

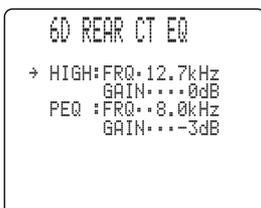
リアL/Rチャンネルの設定をします。

```
6C REAR L/R EQ

→ HIGH:FRQ・12.7kHz
       GAIN・・・・0dB
  PEQ :FRQ・・8.0kHz
       GAIN・・・-3dB
```

可変範囲: 1.0kHz〜12.7kHz(HIGH: FRQ、PEQ:FRQ)、
－9dB〜＋6dB(HIGH: GAIN、PEQ: GAIN)

初期設定: 12.7kHz(HIGH: FRQ)、8.0kHz(PEQ: FRQ)、0dB(HIGH:GAIN)、
－3dB(PEQ: GAIN)

■6D REAR CT EQ(リアセンターイコライザー)

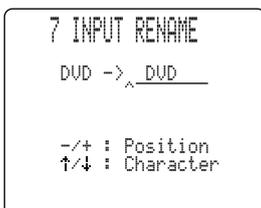
リアセンターチャンネルの設定をします。

```
6D REAR CT EQ

→ HIGH:FRQ・12.7kHz
       GAIN・・・・0dB
  PEQ :FRQ・・8.0kHz
       GAIN・・・-3dB
```

可変範囲: 1.0kHz〜12.7kHz(HIGH: FRQ、PEQ:FRQ)、
－9dB〜＋6dB(HIGH: GAIN、PEQ: GAIN)

初期設定: 12.7kHz(HIGH: FRQ)、8.0kHz(PEQ: FRQ)、0dB(HIGH:GAIN)、
－3dB(PEQ: GAIN)

7 INPUT RENAME(インプットリネーム)

入力ソース名の変更をします。変更後は、その名前で入力が表示されます。

```
7 INPUT RENAME

 DVD -> DVD

 -/+ : Position
 ↑/↓ : Character
```

1. **入力選択キーを押して、名前を変更する入力ソースを選択する**
   1文字目のカーソル(^)が点滅します。
2. **＋または－キーを押して、変更したい文字またはスペースにカーソルを移動する**
3. **△または▽キーを押して、文字を選択する**
   ▽キーを押すと、アルファベット大文字(A〜Z)→スペース→数字(0〜9)→スペース→アルファベット小文字(a〜z)→スペース→＃＊＋，－．／：＜＞?→スペースの順序に表示されます。△キーを押すと逆の順序で表示されます。文字は最大8文字まで入力できます。
4. **＋または－キーを押して、カーソルを移動する**
5. **入力が終了したら、8文字目にカーソルを移動して、＋キーを押す**

8 I/O ASSIGNMENT(アイオーアサインメント)

使用する機器と、本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合などに、端子の割り当てを変更することで、より多くの機器を使用することができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選択できます。

ご注意

• それぞれの項目(8A〜8D)の中で、同一の端子名を指定することはできません。

■8A <1>〜<4> COAXIAL INPUT端子

初期設定: <1>LD RF、<2>CD、<3>DVD、<4>CABLE
選択項目: LD RF(<1>のみ)、V-AUX、VCR3/DVR、VCR2、VCR1、SAT、CABLE、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R、TUNER、CD、PHONO

■8B <5><6> OPTICAL OUT端子

初期設定: <5>CD-R、<6>MD/TAPE
選択項目: CD-R、TUNER、CD、PHONO、V-AUX、VCR3/DVR、VCR2、VCR1、SAT、CABLE、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE

■8C <7>〜<12> OPTICAL INPUT端子

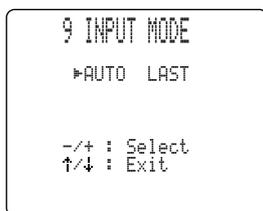
初期設定: <7>CD、<8>CD-R、<9>DVD、<10>D-TV/LD、<11>SAT、<12>VCR3/DVR
選択項目: CD、PHONO、VCR3/DVR、VCR2、VCR1、SAT、CABLE、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R、TUNER

■8D [A]〜[C] COMPONENT VIDEO端子

初期設定: [A]DVD、[B]D-TV/LD、[C]SAT
選択項目: DVD、V-AUX、VCR3/DVR、VCR2、VCR1、SAT、CABLE、D-TV/LD

9 INPUT MODE(インプットモード)

デジタルとアナログ両方の形式の再生機器を接続している場合などに、電源を入れたときの入力モードを設定します。

```
9 INPUT MODE
▶AUTO  LAST

-/+ : Select
↑/↓ : Exit
```

初期設定: AUTO
選択項目: AUTO、LAST

AUTO: 最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モードが自動的に「AUTO」に設定されます。
LAST: 最後に操作したときの入力モード設定が、そのまま適用されます。

ご注意

- 「LAST」を選択しても、EX/ESキーの設定は記憶されません。

10 PARAMETER INI(パラメーターイニシャライズ)

音場プログラムの設定値を、プログラムグループごとに初期設定値に戻します。

```
10 PARAMETER INI
 1   2   3   4
 5   6   7   8
 9  10  11  12
Press  No. Key
```

設定値が変更されている音場プログラムは、そのプログラムナンバーのまえにアスタリスク(＊)がついています。リモコンの音場プログラムキー(1〜12)を押すと、その音場プログラムが初期設定値に戻ります。

ご注意

- 初期設定値に戻したプログラムを、初期化前の状態に戻すことはできません。
- 音場プログラムにサブプログラムがある場合でも、サブプログラムごとに初期設定値に戻すことはできません。
- アスタリスクがついていない音場プログラムを初期設定値に戻しても、何も変わりません。
- 「16 MEMORY GUARD」を「ON」に設定している場合は、初期化できません。

11 LFE LEVEL(LFEレベル)

ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。LFE信号とは、意図されたシーンでのみ出力される重低音による効果音です。

```
11 LFE LEVEL
→ SPEAKER·····0dB
  HEADPHONE···0dB
```

可変範囲: −20〜0dB
初期設定: 0dB(スピーカー、ヘッドホンとも)

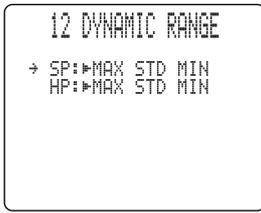
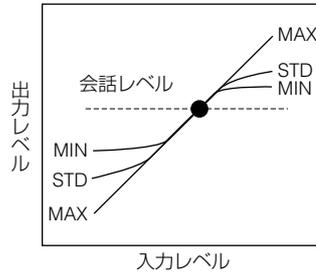
1. **△または▽キーを押して、「SPEAKER」または「HEADPHONE」を選択する**
2. **+または−キーを押して、レベルを調節する**
   +キーを押すとレベルが増強し、−キーを押すとレベルが減衰します。

メモ

- 使用するスーパーウーファーやヘッドホンの能力に応じて、レベル調節を行ってください。

12 DYNAMIC RANGE(ダイナミックレンジ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を、3段階から選択します。

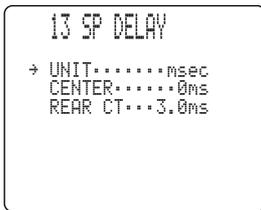
```
12 DYNAMIC RANGE

→ SP:▶MAX STD MIN
  HP:▶MAX STD MIN
```

初期設定: MAX(スピーカー、ヘッドホンとも)
選択項目: MAX、STD、MIN

MAX: 信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。
STD: ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
MIN: 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

- ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジの「MIN」に対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このような場合は、ダイナミックレンジを「MAX」または「STD」に設定してご使用ください。

13 SP DELAY(スピーカーディレイ)

センタースピーカーとリアセンタースピーカーのディレイタイム(遅延時間)を設定します。ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時など、センタースピーカーから音声を出力する場合に有効になります。

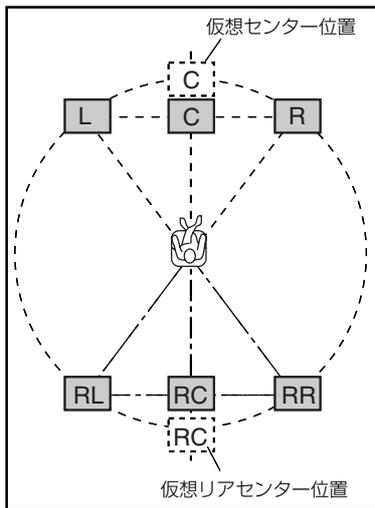
```
13 SP DELAY

→ UNIT·······msec
  CENTER······0ms
  REAR CT···3.0ms
```

通常センタースピーカーはメインL/Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイを設定することにより、仮想的にセンタースピーカーまたはリアセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと前後3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

1. **△または▽キーを押して、「UNIT」を選択する**
2. **+または−キーを押して、ディレイ設定する単位を選択する**
   「msec」、「meters」、「feet」から選択します。

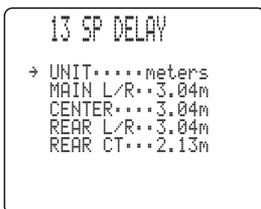
   メモ

   - 選択する単位により、設定内容(初期設定、設定項目など)が変わります。
   - 単位「meters」「feet」選択時は、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を入力します。
3. **△または▽キーを押して、ディレイ設定をするスピーカーを選択する**
4. **+または−キーを押して、ディレイを設定する**
   +キーを押すと数値が大きくなり、−キーを押すと数値が小さくなります。

■「msec」で設定する

```
13 SP DELAY

→ UNIT·······msec
  CENTER······0ms
  REAR CT···3.0ms
```

可変範囲: 0〜5.0ms（センター）、0〜30.0ms（リアセンター）
初期設定: 0ms（センター）、3.0ms（リアセンター）

■「meters」で設定する

```
13 SP DELAY

→ UNIT·····meters
  MAIN L/R··3.04m
  CENTER····3.04m
  REAR L/R··3.04m
  REAR CT···2.13m
```

可変範囲: 0.15〜30.48m（メインL/R、センター、リアL/R、リアセンター）
初期設定: 3.04m（メインL/R、センター、リアL/R）、2.13m（リアセンター）

■「feet」で設定する

```
13 SP DELAY

→ UNIT·······feet
  MAIN L/R·10.0ft
  CENTER···10.0ft
  REAR L/R·10.0ft
  REAR CT···7.0ft
```

可変範囲: 0.5〜100ft（メインL/R、センター、リアL/R、リアセンター）
初期設定: 10.0ft（メインL/R、センター、リアL/R）、7.0ft（リアセンター）

ご注意

- 「meters」や「feet」選択時には、メインL/Rとセンター、またはリアL/Rとリアセンターに等距離を入力すると、ディレイは設定されません。また、メインL/Rとセンター、またはリアL/Rとリアセンターの距離差が大きい場合、実際に設定されるディレイの上限は、msec換算でセンターが5.0ms、リアセンターが30.0msまでとなります。

応用操作

14 AUDIO DELAY（オーディオディレイ）

モニターやプロジェクターの映像が、デジタル処理等により音声より若干遅れる場合があります。このような場合に、音声の出力を遅らせて、このズレを補正します。

```
14 AUDIO DELAY

           0ms
```

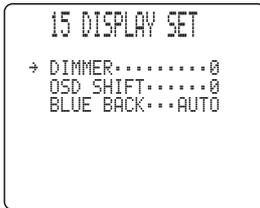
可変範囲: 0ms〜160ms
初期設定: 0ms

メモ

- ドルビーデジタル、DTS、AACおよびPCM（サンプリング周波数96kHz以下）信号再生時に効果があり、設定値はこれらのフォーマット共用で、すべてのチャンネルに適用されます。

15 DISPLAY SET(ディスプレイセット)

オンスクリーン表示の背景や表示位置、本体ディスプレイの明るさなどを設定します。

```
15 DISPLAY SET

→ DIMMER·········0
  OSD SHIFT······0
  BLUE BACK···AUTO
```

■DIMMER(ディマー)

本体ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲: −4〜0
初期設定: 0

−キーを押すと本体ディスプレイが暗くなります。

■OSD SHIFT(OSDシフト)

オンスクリーン表示位置を上下に調節します。

可変範囲: −5(上方)〜+5(下方)
初期設定: 0

+キーを押すと表示位置を下方向に移動します。−キーを押すと表示位置を上方向に移動します。

■BLUE BACK(ブルーバック)

オンスクリーン表示の設定をします。

初期設定: AUTO
選択項目: AUTO、OFF

AUTO: ビデオ信号が入力されていない場合に、青い背景を表示します。
OFF: ビデオ信号が入力されていない場合に、何も表示しません。

ご注意

- 「OFF」に設定すると、ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示も表示されません。

16 MEMORY GUARD(メモリーガード)

変更した設定値を保護します。「ON」に設定すれば、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

```
16 MEMORY GUARD

  ▶OFF   ON

  −/+ : Select
  ↑/↓ : Exit
```

初期設定: OFF

「ON」に設定したときに保護される設定は、以下のとおりです。

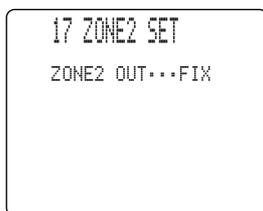
- 音場プログラムのパラメーター設定値
- 「16 MEMORY GUARD」以外のセットメニュー設定値
- センター、フロントエフェクト、リア、リアセンター、スーパーウーファーの音量
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

- 設定を「ON」にすると、他のセットメニューは呼び出せません。
- 設定を「ON」にすると、テストモードに入れません。

17 ZONE2 SET(ゾーン2セット)

ZONE2 OUTの音声出力レベルの設定をします。

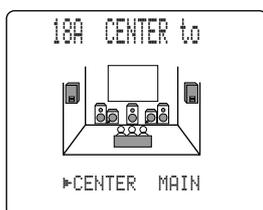
17 ZONE2 SET
ZONE2 OUT･･･FIX

初期設定: FIX
選択項目: VAR.、FIX

VAR.: リモコンのVOLUME＋/－キーでZONE2 OUTのレベル調節ができます。
FIX: ZONE2 OUTのレベルは本機のVOLUMEレベルに固定されます。

18 6CH INPUT SET(6チャンネルインプットセット)

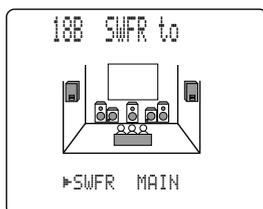
6CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号のうち、センター成分とスーパーウーファー成分の振り分け先を設定します。

■ 18A CENTER to(センター成分の振り分け)

CENTER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

初期設定: CENTER
選択項目: CENTER、MAIN

CENTER: 入力された信号は、センタースピーカーに出力されます。
MAIN: 入力された信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられて出力されます。

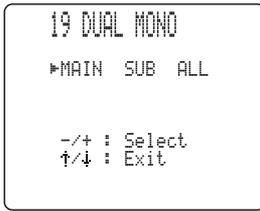
■ 18B SWFR to(スーパーウーファー成分の振り分け)

SUBWOOFER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

初期設定: SWFR
選択項目: SWFR、MAIN

SWFR: 入力された信号はスーパーウーファーに出力されます。
MAIN: 入力された信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられて出力されます。

19 DUAL MONO(デュアルモノ)

BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

```
19 DUAL MONO
▶MAIN  SUB  ALL

 -/+ : Select
 ↑/↓ : Exit
```

初期設定: MAIN
選択項目: MAIN、SUB、ALL

MAIN: 主音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。
SUB: 副音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。
ALL: 主音声と副音声をメインL/Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL/Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- モノラルでない二重音声の出力は、本機で設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- この設定は、AAC、ドルビーデジタル、DTS信号の二重音声(デュアルモノ)信号およびAACの多重音声(マルチモノ)信号受信時のみ有効になります。ただし、AAC信号音声の第3、第4チャンネルを選択することはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などの、アナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選択してください。

リモコンで操作する

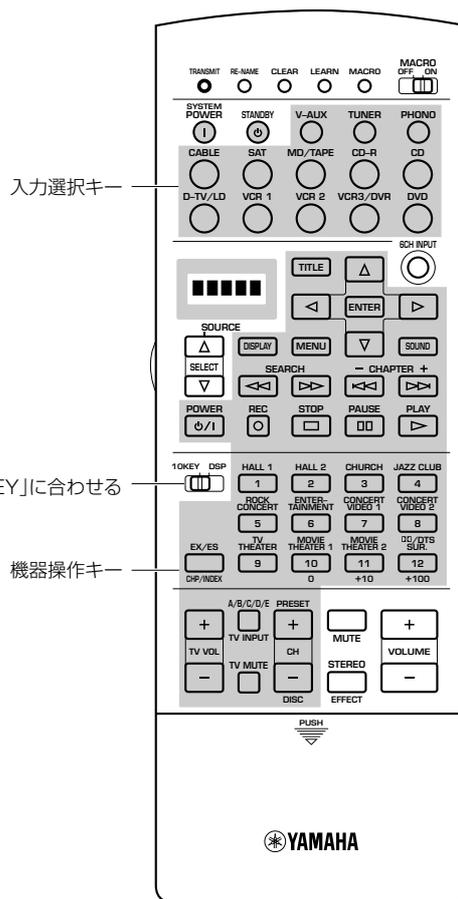
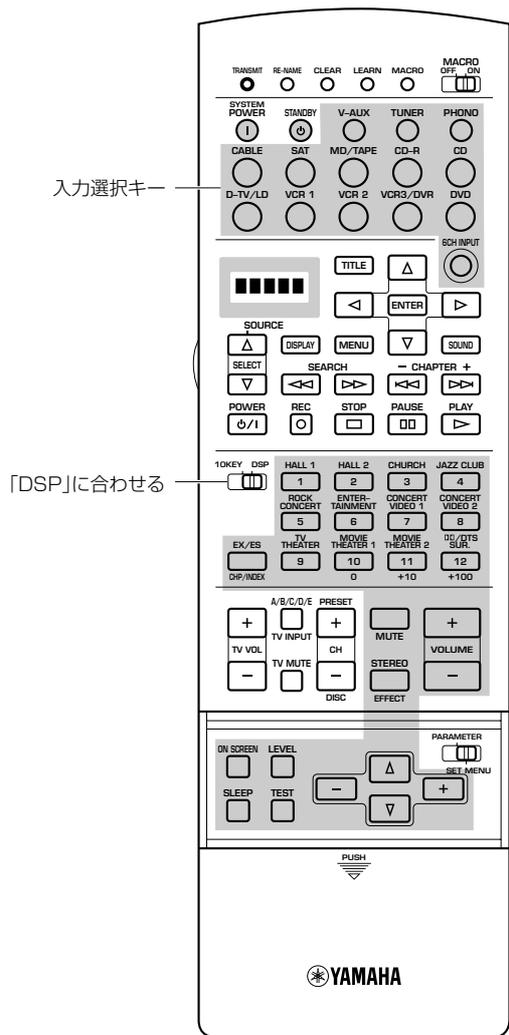
本機のリモコンは、他の機器のリモコン信号を学習するラーニング機能や、メーカーコードの設定機能を持っています。また一連のキー操作を1つのキーでできるようにするマクロ機能を設定することにより、操作性が格段に向上します。

リモコンを使う

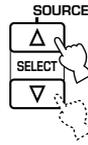
■アンプ操作エリア

本機の操作に使用するエリアは、下図の灰色で示したエリアです。どの入力機器が選択されていても、このエリアのキーは本機の操作に使用できます。

■機器操作エリア

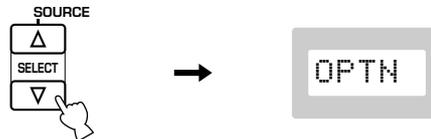
本機に接続された機器の操作に使用するエリアは、下図の灰色で示したエリアです。入力選択キーで選択された機器の操作に使用します。選択された機器により、エリア内の各キーの機能は変わります。

応用操作

■操作する機器の切り替え

SELECT△/▽キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。

■ゾーン2について

SELECT△キーを押して「Zone2」を選択すると、リスニングルームの機器をセカンドルームで鑑賞することができます。
詳しくはP.85～86『ゾーン2』を参照してください。

■OPTN（オプション）モードについて

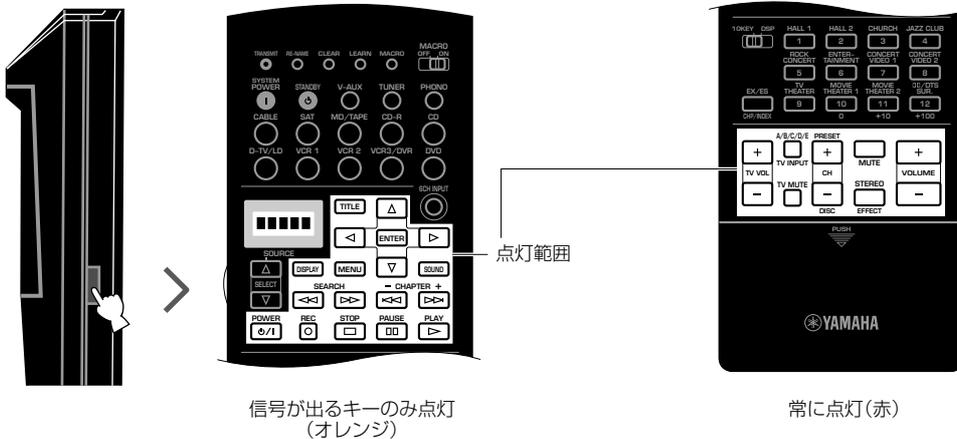
SELECT▽キーを押して「OPTN」を選択すると、ラーニング機能を使ってプリセットした機器を操作することができます。

ご注意

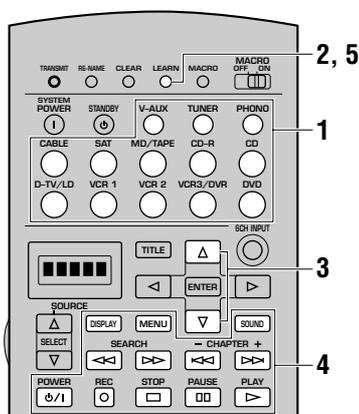
• OPTNモードには、メーカーコードを登録できません。

■点灯機能について

LIGHTキーを押すと、操作できるキーとリモコンディスプレイが約10秒間点灯します。すぐに消したいときは、LIGHTキーをもう一度押します。

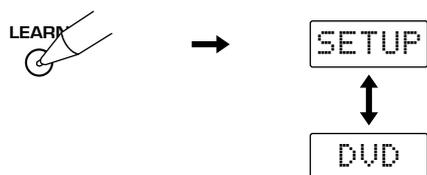
信号が出るキーのみ点灯
（オレンジ）

常に点灯（赤）

メーカーコードの設定

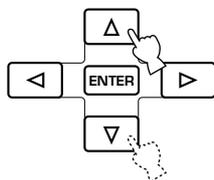
メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードはOPTN以外の各機器操作キーに設定することができます。TUNER、MD/TAPE、CD-R、CD、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。

1 設定を変更したい入力選択キーを押す

2 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にメーカーコード設定モードは解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。
- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わってしまいます。

3 △または▽キーを押して、メーカーコードを選択する

5文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。

4 動作確認をする

POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順3で同じメーカーの別のメーカーコードを選択してみてください。

5 LEARNボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

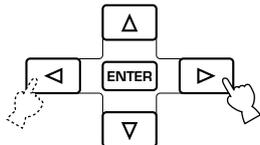
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器（ヤマハAV機器を含む）のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能（P.69）を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、メーカーコードは1つしか設定できません。
- すでにラーニングやマクロを設定している場合、ラーニングまたはマクロによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■機器の種類(ライブラリ)を変更する

各入力選択キーには、あらかじめ対応する機器の種類(ライブラリ)が設定されていますが、これを変更することができます。例えば、V-AUXキーにはあらかじめ「VCR」が設定されていますが、「V-AUXでTVを操作したい」という場合に、ここでライブラリを「TV」に変更できます。

1 「メーカーコードの設定」の手順1と2の操作をする

2 ◁または▷キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリ)を選択する

本機のリモコンには、AMP、TV、CAB(CABLE)、DBS、SAT、VCR、DVD、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリが用意されています。

3 「メーカーコードの設定」の手順3から操作する

■アンプライブラリについて(L:AMP)

本機のリモコンにはあらかじめ本機を操作するためのコードが設定されていますが、必要に応じてアンプのライブラリを変更することができます。

アンプのライブラリは以下の3種類です。

YPC: 本機のコード

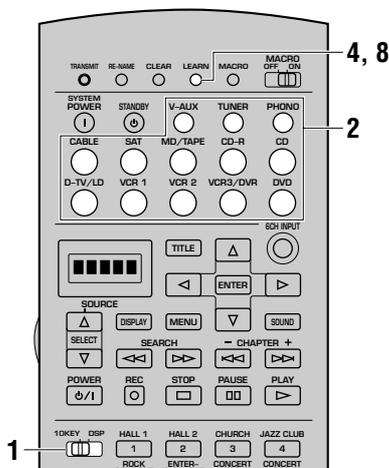
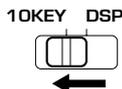
DSP: YPC(本機のコード)で操作できない、ヤマハDSPアンプのコード

No: ヤマハ以外のアンプを本機のリモコンで操作するとき

■工場出荷時のライブラリ/メーカーコード設定

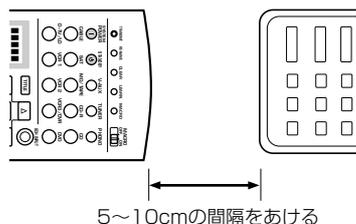
入力選択キー	ライブラリ	メーカーコード
V-AUX	VCR	なし
TUNER	TUN	YAMAHA
PHONO	TV	なし
CABLE	CAB	なし
SAT	SAT	なし
MD/TAPE	MD	YAMAHA
CD-R	CDR	YAMAHA
CD	CD	YAMAHA
D-TV/LD	TV	なし
VCR1	VCR	なし
VCR2	VCR	なし
VCR3/DVR	VCR	なし
DVD	DVD	YAMAHA

新しいリモコン機能を学習する（ラーニング）

メーカーコードに対応していない機器を使用する場合や、メーカーコードが用意されていない場合は、リモコンに機能を学習（ラーニング）させることができます。入力選択ごとに別の機能をラーニングさせることができます。

1 10KEY/DSPスイッチを「10KEY」に合わせる

ご注意
- 10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせると、アンプ操作エリア（P.65）にもラーニングすることができますが、本機の操作や、音場プログラムの選択もできなくなります。

2 操作したい機器の入力選択キーを押す

3 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く

5〜10cmの間隔をあける

4 LEARNボタンを押す
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意
- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にラーニングモードは解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。
- LEARNボタンを3秒以上押すと、メーカーコードの設定の操作モードに切り替わってしまいます。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す
リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

6 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押す

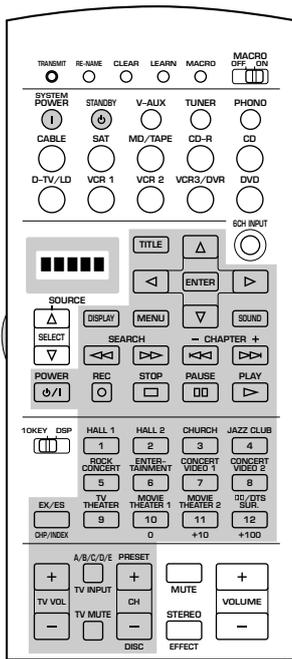
ご注意
- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

7 別の機能をラーニングするには、続けて手順5〜6を繰り返す

8 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - ① 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - ② 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - ③ リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - ④ リモコンに直射日光が当たっている場合
  - ⑤ 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

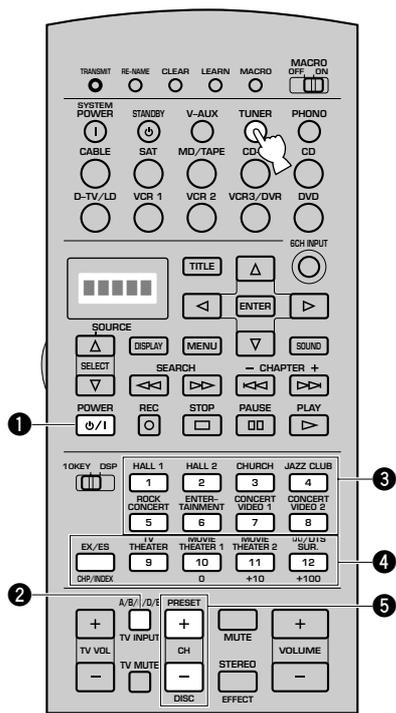
■ ラーニングに対応しているキーについて

入力選択キーごとにラーニングに対応しているキーは、下図の灰色で示したエリア内のキーです。

機器別の操作をする

操作する機器別に、基本操作に使用するキーを説明します。

ご注意

- ご使用の機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをするか、もしくはご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 工場出荷時、TUNER、CD、CD-R、MD、DVDにはヤマハメーカーコードが設定されています。他社製の機器を操作する場合は、メーカーコードを変更する必要があります。また上記以外の機器を操作するには、ライブラリ/メーカーコードをあらかじめ設定しておく必要があります。詳しくはP.67, 68『メーカーコードの設定』を参照してください。

■チューナーを操作する

入力選択キーのTUNERキーを押すと、チューナーを操作できます。

操作例

❶ 電源を入/切する

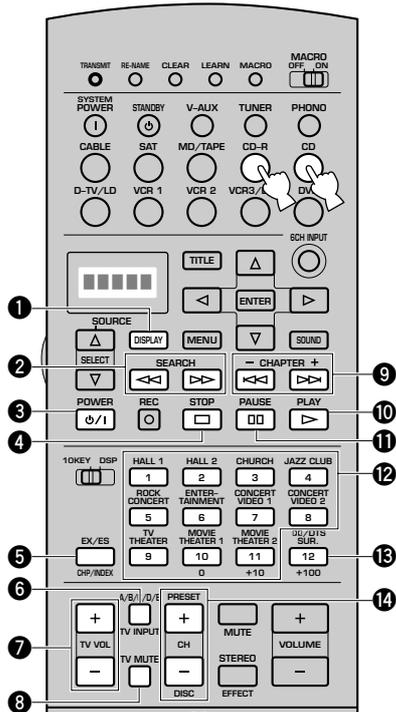
❷ プリセットグループ(A/B/C/D/E)や受信バンド(AM/FM)を切り替える

❸ プリセット番号を直接指定する

❹ プリセットグループを直接指定する(左から順にA、B、C、D、E)

❺ プリセット局を切り替える

応用操作

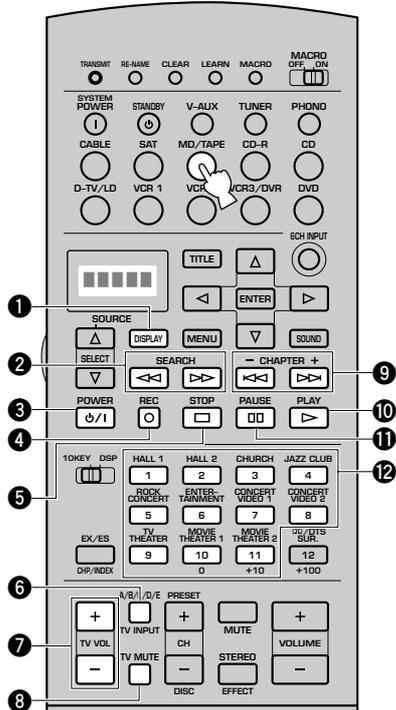
■CDプレーヤー/CDレコーダーを操作する

入力選択キーのCDキーを押すと、CDプレーヤー、CD-Rキーを押すと、CDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ 停止する
❺ インデックスを表示する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ (テレビ)音量を調節する
❽ (テレビ)消音する
❾ 次/前の曲の頭出しをする
❿ 再生を開始する
⓫ 再生を一時停止する
⓬ 数字を入力する
⓭ 入力値を取り消す
⓮ (CDチェンジャー)ディスクを選択する

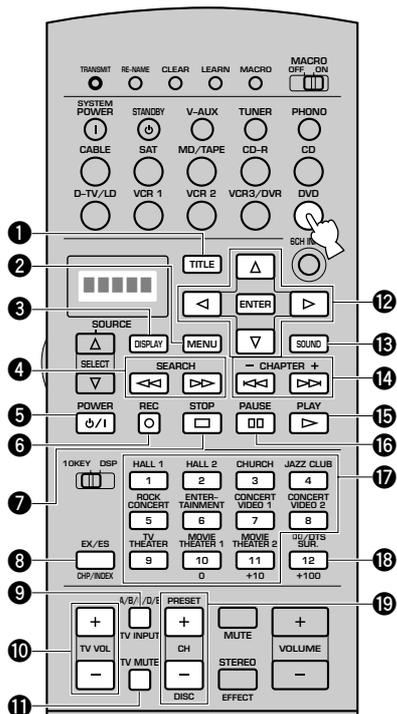
メモ

• ヤマハ製CDプレーヤーの場合、▯▯キーまたは□キーを一度押すと、一時停止になります。もう一度押すと、停止になります。

■MDレコーダーを操作する

入力選択キーのMD/TAPEキーを押すと、MDレコーダーを操作できます。

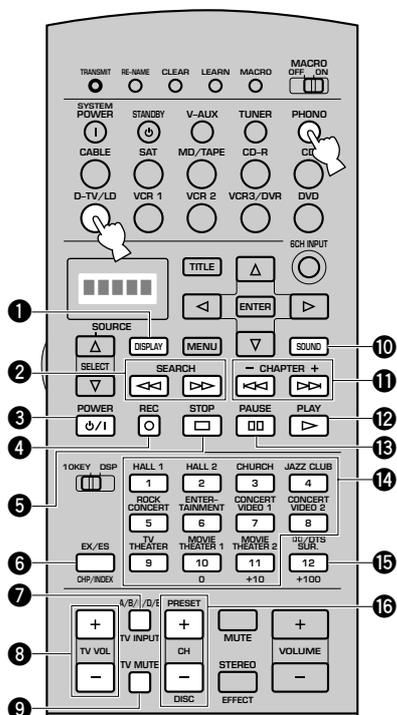
操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ 録音を開始する
❺ 停止する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ (テレビ)音量を調節する
❽ (テレビ)消音する
❾ 次/前の曲の頭出しをする
❿ 再生を開始する
⓫ 再生/録音を一時停止する
⓬ 数字を入力する

■DVDプレーヤーを操作する

入力選択キーのDVDキーを押すと、DVDプレーヤーを操作できます。

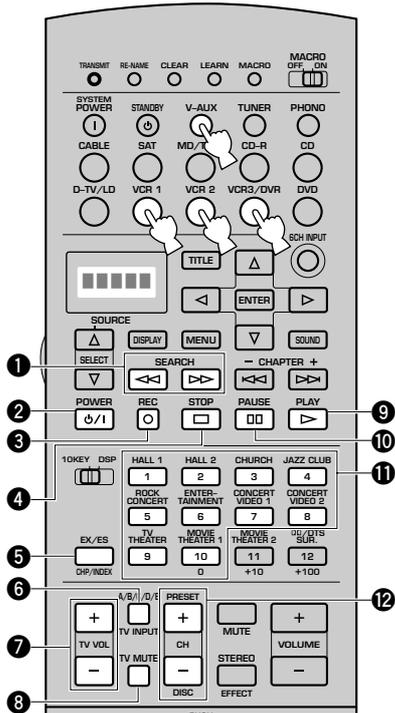
操作例

❶ タイトルメニューを表示する
❷ DVDメニューを表示する
❸ ディスプレイ表示を切り替える
❹ 早送り/早戻しをする
❺ 電源を入/切する
❻ 前の画面に戻る
❼ 停止する
❽ タイトル/インデックスを表示する
❾ (テレビ)入力を切り替える
❿ (テレビ)音量を調節する
⓫ (テレビ)消音する
⓬ メニュー項目を選択する/決定する
⓭ オーディオメニューを表示する
⓮ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓯ 再生を開始する
⓰ 再生を一時停止する
⓱ 数字を入力する
⓲ 入力値を取り消す
⓳ (DVDチェンジャー)ディスクを選択する

■LDプレーヤーを操作する

ライブラリ/メーカーコードを設定してから、入力選択キーのPHONOキーまたはD-TV/LDキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ (LDチェンジャー)ディスクを選択する
❺ 停止する
❻ チャプター/時間を表示する
❼ (テレビ)入力を切り替える
❽ (テレビ)音量を調節する
❾ (テレビ)消音する
❿ サウンドメニューを表示する
⓫ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓬ 再生を開始する
⓭ 再生を一時停止する
⓮ 数字を入力する
⓯ 入力値を取り消す
⓰ (テレビ)チャンネルを切り替える

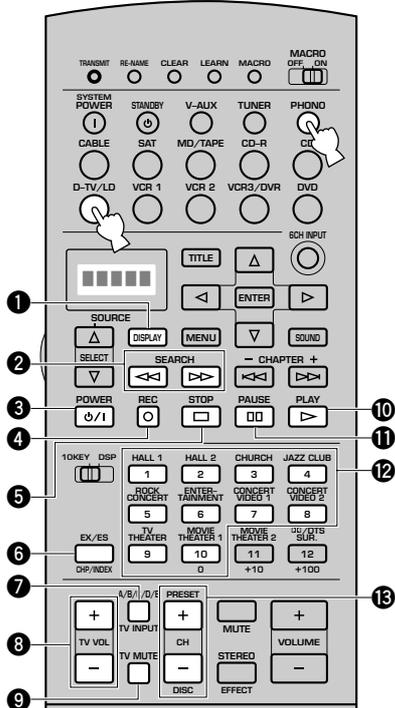
■ビデオデッキなどを操作する

メーカーコードを設定してから、入力選択キーのV-AUXキーまたはVCR1キー、VCR2キー、VCR3/DVRキーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

操作例

❶ 早送り/巻戻しをする
❷ 電源を入/切する
❸ 録画を開始する（2回押すと録画を開始します）
❹ 停止する
❺ テレビ/ビデオを切り替える
❻（テレビ）入力を切り替える
❼（テレビ）音量を調節する
❽（テレビ）消音する
❾ 再生を開始する
❿ 再生/録画を一時停止する
⓫ 数字を入力する
⓬ チャンネルを切り替える

メモ

• V-AUX、VCR 1、VCR 2またはVCR3/DVRキーにそれぞれ異なるビデオデッキのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードでは、VCR 1キーに設定したビデオのみ操作することができます。

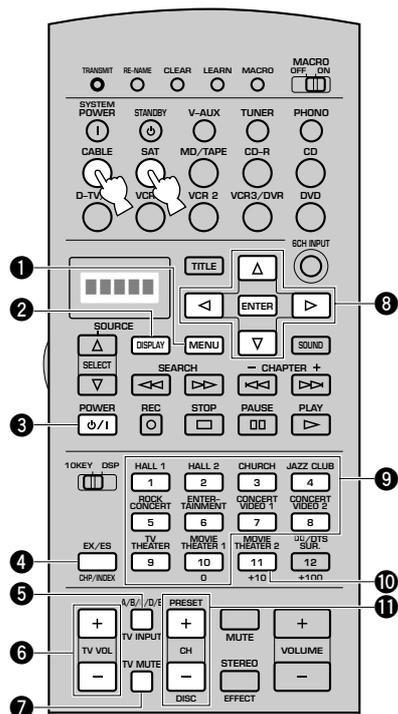
■テレビを操作する

メーカーコードを設定してから、入力選択キーのPHONOキーまたはD-TV/LDキーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷（ビデオ）早送り/巻戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹（ビデオ）録画を開始する（2回押すと録画を開始します）
❺（ビデオ）再生/録画を停止する
❻ チャンネルを決定する
❼ 入力を切り替える
❽ 音量を調節する
❾ 消音する
❿（ビデオ）再生を開始する
⓫（ビデオ）再生/録画を一時停止する
⓬ チャンネルを直接指定する
⓭ チャンネルを切り替える

メモ

• PHONOキーまたはD-TV/LDキーにそれぞれ異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードでは、D-TV/LDキーに設定したテレビのみ操作することができます。

■衛星放送のチューナーを操作する

ライブラリ/メーカーコードを設定してから、入力選択キーのCABLEキーまたはSATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

❶ メニューを表示する
❷ ディスプレイ表示を切り替える
❸ 電源を入/切する
❹ チャンネルを決定する
❺ (テレビ)入力を切り替える
❻ (テレビ)音量を調節する
❼ (テレビ)消音する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ チャンネルを直接指定する
❿ リコールする
⓫ チャンネルを切り替える

メモ

- 国内BSデジタルチューナー用のメーカーコードは、DBSライブラリのPanasonic2、Sony2、Toshiba2の3種類です。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
例えばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけで、このような一連の操作を済ますことができます。
本リモコンのマクロキー(入力選択キーおよびSYSTEM POWERキー、STANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

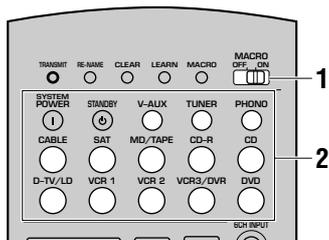
マクロキー	1番目	2番目	3番目
SYSTEM POWER	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*[1]	テレビの電源が入る(D-TV/LDキーに登録したメーカーコードのテレビ)*[2]	—
STANDBY	本機がスタンバイ状態になる	—	—
V-AUX	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*[1]	入力ソースの切り替え(V-AUX)	—
TUNER		入力ソースの切り替え(TUNER)*[4]	—
PHONO		入力ソースの切り替え(PHONO)	—
CABLE		入力ソースの切り替え(CABLE)	—
SAT		入力ソースの切り替え(SAT)	—
MD/TAPE		入力ソースの切り替え(MD/TAPE)	MD/TAPEの再生が始まる*[3]
CD-R		入力ソースの切り替え(CD-R)	CD-Rの再生が始まる*[3]
CD		入力ソースの切り替え(CD)	CDの再生が始まる*[3]
D-TV/LD		入力ソースの切り替え(D-TV/LD)	—
VCR1		入力ソースの切り替え(VCR1)	VCR1の再生が始まる*[3]
VCR2		入力ソースの切り替え(VCR2)	VCR2の再生が始まる*[3]
VCR3/DVR		入力ソースの切り替え(VCR3/DVR)	VCR3/DVRの再生が始まる*[3]
DVD		入力ソースの切り替え(DVD)	DVDの再生が始まる*[3]

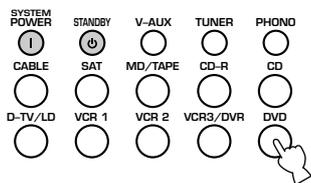
*[1] 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のAC OUTLETS SWITCHEDに接続し、電源の入/切を本機に同期させるようにします(機器によっては電源の入/切が本機に同期しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。

*[2] キーを押すごとに電源の入/切が切り替わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります(例: すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます)。

*[3] 再生が始まるのは、ヤマハのリモコンに対応するMDレコーダー、CDレコーダー、CDプレーヤー、DVDプレーヤーです。他の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリのPLAYキーにラーニング機能を割り当てる(P.69)か、メーカーコードやライブラリを登録する(P.67, 68)必要があります。

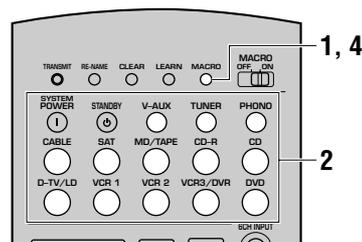
*[4] 入力ソースがTUNERに切り替わると、ヤマハ製チューナーはスタンバイ状態になる前に受信していた曲を受信します。

■マクロ機能を使う

1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる

2 希望のマクロキーを押す

ご注意

- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで（TRANSMITインジケーターが消灯するまで）、他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

■マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み（またはヤマハプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

1 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

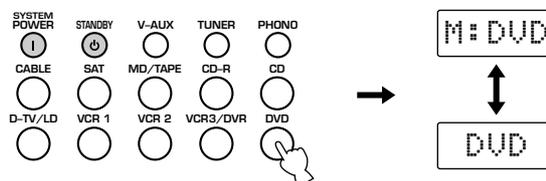
- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にマクロ設定モードは解除されます。その場合は、もう一度MACROボタンを押します。

2 設定したいマクロキーを押す

リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと今選択している入力ソース名が交互に表示されます。

例: DVDキーのマクロを設定する

「M:DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

応用操作

ご注意

- マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。
- 機器を変更したいときは、入力選択キーやSELECTキーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SELECTキーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

3 マクロの内容を設定する
最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、自動的にマクロ設定モードが解除されます。

例: DVDキーのマクロを設定する
マクロとして設定したい最初のキーを押すと、「MCR 1」と表示されます。しばらくすると「M:DVD」と「DVD」が表示され、次のキーを登録できるようになります。

ご注意

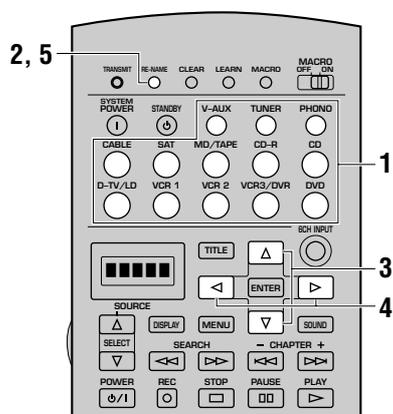
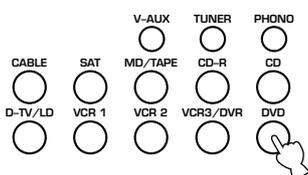
- 「NG」と表示されたときは、設定が正しく行われていません。手順2から操作をやりなおしてください。

4 MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

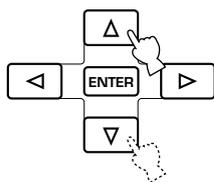
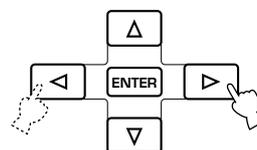
リモコンに表示される入力ソース名を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される入力ソース名を変更することができます。

1 入力ソース名を変更したい機器の入力選択キーを押す

2 RE-NAMEボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。

カーソル

3 △または▽キーを押して、入力する文字を選択する

選択できる文字は、アルファベット大文字（A～Z）、アルファベット小文字（a～z）、数字（0～9）、スペース、／、－です。

4 ◁または▷キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する

必要に応じて手順3と4を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。

メモ

- 引き続き他の機器の入力ソース名を変更する場合は、ENTERキーを押して、手順1、3～4を繰り返します。

5 RE-NAMEボタンを押して、入力ソース名の変更を終了する

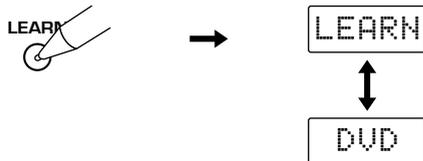
リモコンが通常の状態に戻ります。

ラーニングやマクロを消去する

■ラーニングを消去する

ラーニングさせた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することもできます。

1 取り消したい機器の入力選択キーを押す

2 LEARNボタンを押す
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意
- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的に消去は解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。

3 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す
リモコンディスプレイに「C:OK」と表示されます。

ご注意
- 「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

メモ
- 引き続き消去したいキーがある場合は、もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

4 LEARNボタンを押して、消去を終了する
リモコンが通常の状態に戻ります。

■マクロを消去する

登録したマクロ機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することもできます。

1 取り消したい機器の入力選択キーを押す

2 MACROボタンを押す
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意
- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的に消去は解除されます。その場合は、もう一度MACROボタンを押します。

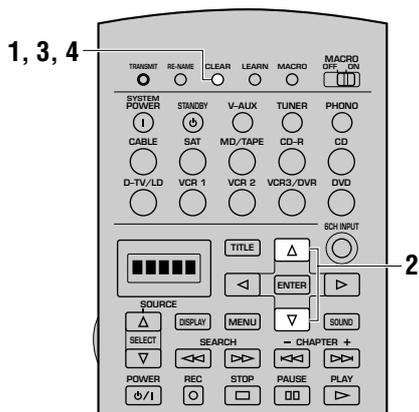
3 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す
リモコンディスプレイに「C:OK」と表示されます。

ご注意
- 「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

メモ
- 引き続き消去したいキーがある場合は、もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

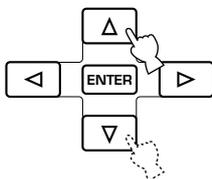
4 MACROボタンを押して、消去を終了する
リモコンが通常の状態に戻ります。

リモコンを初期化する

登録したライブラリやマクロ操作、メーカーコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 CLEARボタンを押す
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

ご注意

- 以下の手順は30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的に消去モードは解除されます。その場合は、もう一度CLEARボタンを押します。

2 △または▽キーを押して、消去モードを選択する

消去モードは以下の6種類です。

L:(機器名)：表示されている入力機器のラーニング機能をすべて消去します。入力選択キーで消去する入力機器を選択してください。
L:AMP：本機のラーニング機能をすべて消去します。
L:ALL：入力機器に関わらず、登録したラーニング機能をすべて消去します。
M:ALL：入力機器に関わらず、登録したマクロをすべて消去します。
RNAME：変更した入力ソース名をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：リモコンのメーカーコードを含む、すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

3 CLEARボタンを3秒以上押し続ける
リモコンディスプレイに「C:OK」と表示され、手順2で選択した機能や設定が消去されます。

ご注意

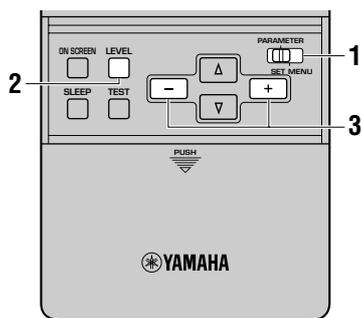
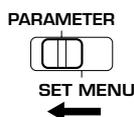
- 「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順2から操作しなおしてください。

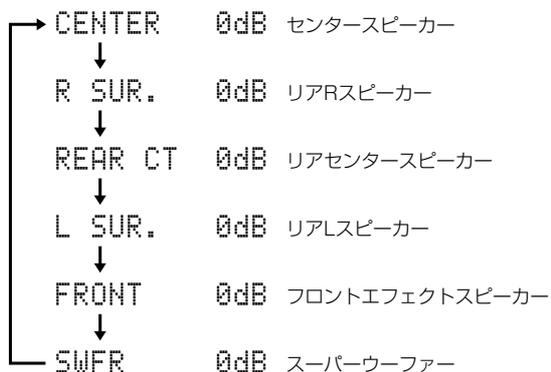
4 CLEARボタンを押して、消去を終了する
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

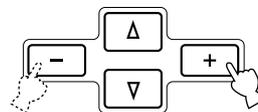
エフェクトスピーカーの音量調節

ソースの再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー(センター、リアL/R、リアセンター、フロントエフェクト、スーパーウーファー)の音量を調節できます。

1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる

2 LEVELキーを押して、調節するスピーカーを選択する

LEVELキーを押すごとに、以下の順序で調節するスピーカーが切り替わります。

メモ

- LEVELキーでレベル表示にすると、△または▽キーでもスピーカーを選択することができます。

3 ＋または－キーを押して、スピーカーの音量を調節する

センター、リアL/R、リアセンター、フロントエフェクトスピーカーの調節範囲は、－10～＋10dBです。スーパーウーファーの調節範囲は、－20～0dBです。

ご注意

- LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、「TEST DOLBY SUR.」や「TEST DSP」で調節したスピーカーレベルも変更されます。
- PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせると、レベルの調節はできませんが、LEVELキーを押すごとに各スピーカーのレベルが表示されるのでスピーカーレベルの確認ができます。
- セットメニュー「1A CENTER SP」、「1C REAR L/R SP」、「1D REAR CT SP」、「1F FRONT EFCT SP」が「NONE」に、「1E LFE/BASS OUT」が「MAIN」に設定されている場合は、そのスピーカーのレベルは調節できません。
- 6CH INPUT端子に接続しているソースの再生中は、独立してレベルの調節が可能です。この場合、調節できるスピーカーはセンタースピーカー、リアRスピーカー、リアLスピーカー、スーパーウーファーの4つとなります。

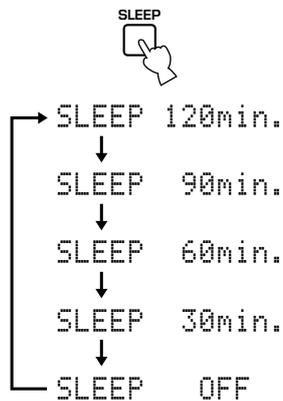
スリープタイマー

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の予備電源コンセント（AC OUTLETS SWITCHED）に接続した機器（ソース）の電源も切れます。

■スリープタイマーの設定

1 ソースを選択して、再生する

2 スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

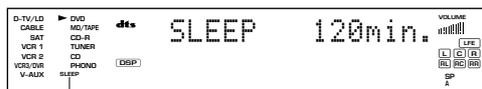
SLEEPキーを押すごとに、以下のように設定時間が切り替わります（min.=分表示）。

設定時間を数秒表示したあと、音場プログラム表示に戻ります。スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

SLEEPインジケーター

■スリープタイマーの解除

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「SLEEP OFF」を数秒表示したあと、音場プログラム表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。

メモ

- 本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSTANDBYキーを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

タイマー再生/録音

本機は、スタンバイ状態にする前の状態を内蔵のマイコンが記憶していますので、市販のオーディオタイマーを組み合わせて、タイマー再生/録音ができます。

メモ

- 使用する機器/オーディオタイマーにより、操作方法が異なる場合があります。詳しくは使用する機器/オーディオタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

■タイマー再生

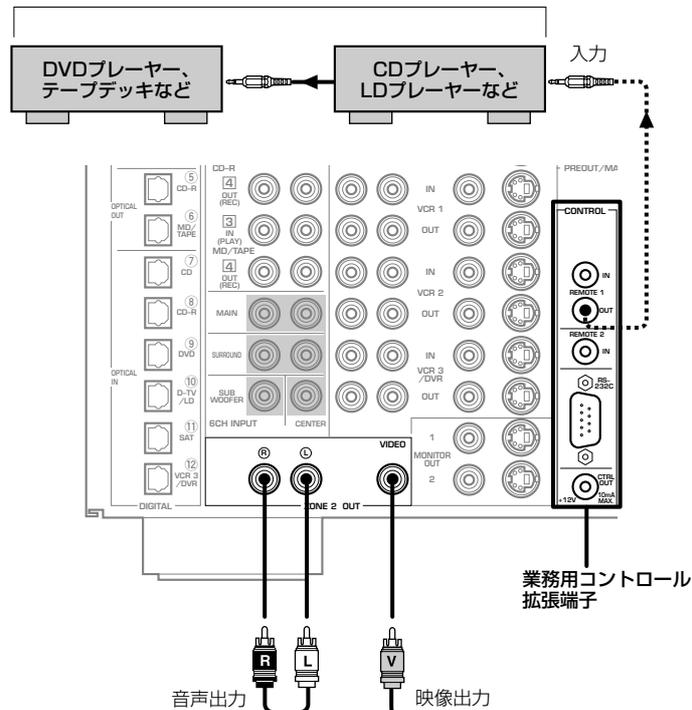
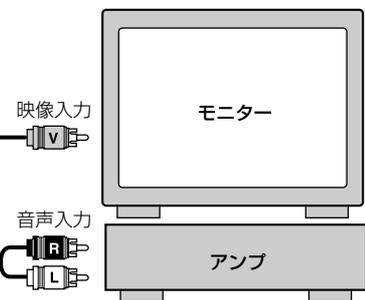
1. **本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する**
2. **本機の予備電源コンセント(AC OUTLETS SWITCHED)にタイマー再生する機器の電源プラグを接続する**
   本機に接続する機器の消費電力の合計が予備電源コンセントの供給電力を超えないようにご注意ください。
3. **すべての機器の電源を入れる**
4. **タイマー再生する機器を選択する**
   本体のINPUT SELECTORまたはリモコンの入力選択キーで選択します。
5. **再生する機器を操作して、タイマー再生が可能な状態にセットする**
6. **本機の音量を調節する**
7. **再生開始時間、および終了時間をオーディオタイマーでセットする**
   セットした時間になると、タイマー再生が始まります。

■タイマー録音

1. **本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する**
2. **本機の予備電源コンセント(AC OUTLETS SWITCHED)に関連する機器の電源プラグを接続する**
   本機に接続する機器の消費電力の合計が予備電源コンセントの供給電力を超えないようにご注意ください。
3. **すべての機器の電源を入れる**
4. **録音元の機器を選択する**
   本体のINPUT SELECTOR、リモコンの入力選択キー、および本体のREC OUT/ZONE 2セレクターで選択します。
5. **録音元の機器、および録音先の機器を操作して、タイマー録音が可能な状態にセットする**
6. **録音開始時間、および終了時間をオーディオタイマーでセットする**
   セットした時間になると、タイマー録音が始まります。

ゾーン2

リスニングルーム（本機を設置した部屋）の機器を別の場所（ゾーン2: セカンドルーム）で鑑賞することができます。例えば、リスニングルームでCDを聞いているとき、セカンドルームではDVDを見ることができるといった、複数の場所でのオーディオ/ビデオ鑑賞が可能です。

接 続

■ セカンドルームでのDTSソフトの再生/録音に関するご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、本機のZONE2 OUT（アナログ）端子からセカンドルームに送られたDTS信号を再生/録音してもノイズのみが再生/録音されます。セカンドルームにDTSソフトの信号を送るには、以下の事項にご注意ください。

DTS対応LDまたはDVD:
2チャンネルのアナログ信号のみ、セカンドルームに出力できます。
LDプレーヤー/DVDプレーヤーの音声出力をアナログ2チャンネルに設定してください。

DTS対応CD:
セカンドルームに音声信号を送ることはできません。

リモコンで操作する

リモコンを「Zone2」に設定すると、ZONE 2 OUT端子に出力する機器を独立して操作することができます。

ご注意

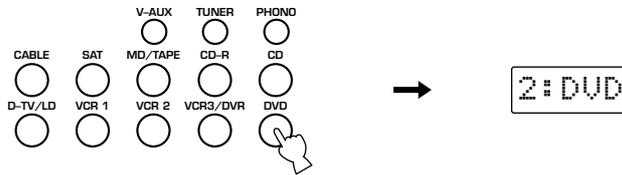
- 本体のREC OUT/ZONE 2セレクターを「SOURCE/REMOTE」の位置にしてから操作してください。
- リモコンはリスニングルームで操作してください。

1 SELECT∆キーを押して「Zone2」を選択する

入力選択キーとVOLUME＋/－キーだけがZone2信号に変わります。

2 セカンドルームで再生する機器を入力選択キーで選択する

リモコンディスプレイには「2:(機器名)」が表示されます。

例: DVDを選択したとき

3 入力機器操作エリアの各キーで操作をする

メモ

- セットメニュー「17 ZONE2 SET」の「ZONE2 OUT」が「VAR.」に設定されている場合は、VOLUME＋/－キーでセカンドルームの音量調節ができます。

音場プログラム

音場プログラムおよびパラメーターの内容などについて解説します。

音場プログラムについて

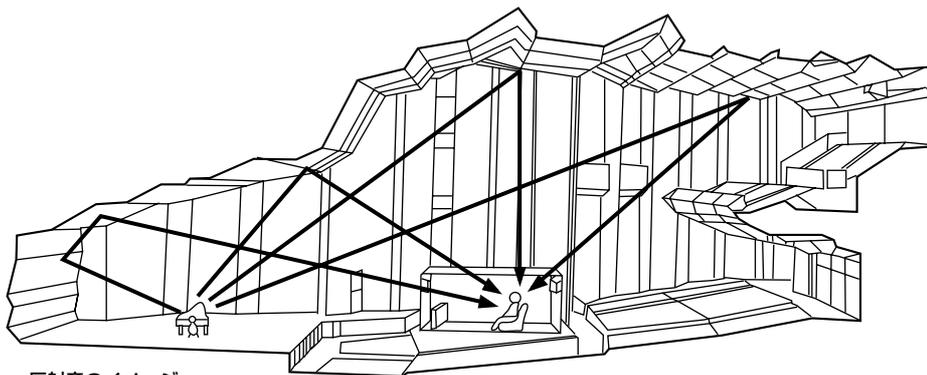
音場とは…

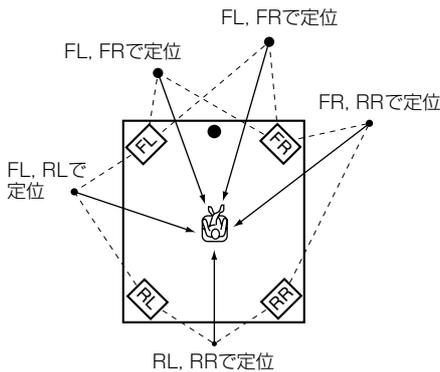
「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁･天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向･強さ･帯域特性･遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

■ 初期反射音

1つの表面(壁や天井など)に反射してから、極めて急速(直接音が発生してから50msから80ms後)にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

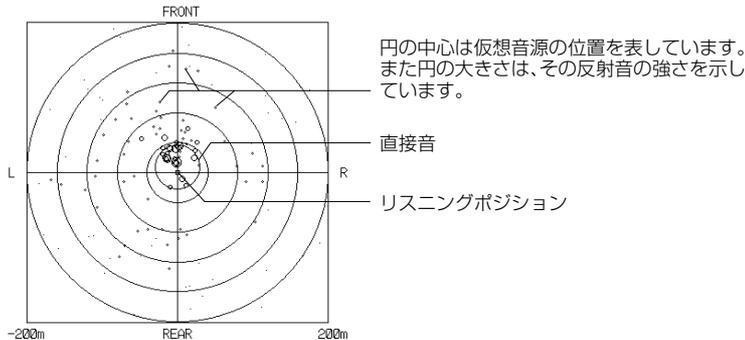
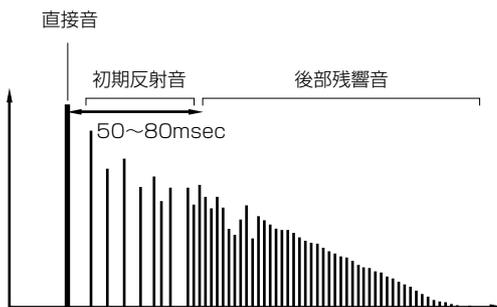
■ 後部残響音

2つ以上の表面(壁や天井、部屋の後部など)に何回も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

反射音のイメージ

仮想音源の再現

4本のエフェクトスピーカーによる360°全周方向への仮想音源の定位＝音場再生

コンサートホールやオペラハウスの音場をリスニングルームに再現するということは、コンサートホールやオペラハウスの仮想音源の分布をリスニングルームに定位させせること、とも言えるでしょう。
演奏会場での音場をリスニングルームに再現するには、2本のスピーカーによる従来のステレオ再生では不十分です。音場再生用には4本のエフェクトスピーカーを使って、音場データの仮想音源を定位させ、音場を再現するのがヤマハDSP(デジタル音場プロセッサー)です。
これは、4本のエフェクトスピーカーから出力させる信号の強さや遅延時間をコントロールすることによって、360°全周方向に分布する仮想音源を定位させ、音場を再現するものです。
例えば、右方向からの反射音は、フロントエフェクトRとリアRのスピーカーの音を空間合成して仮想音源位置に定位させ、左方向からの反射音は、フロントエフェクトLとリアLのスピーカーの音を空間合成し仮想音源位置に定位させています。
同様にして、フロントエフェクトL/Rスピーカーで前方向、リアL/Rスピーカーで後ろ方向の音を空間合成し、仮想音源図どおりの音場を再現しています。

仮想音源分布とエコーパターン

■仮想音源分布

■エコーパターン

Hi-Fi DSP音場プログラム

プログラムと特長

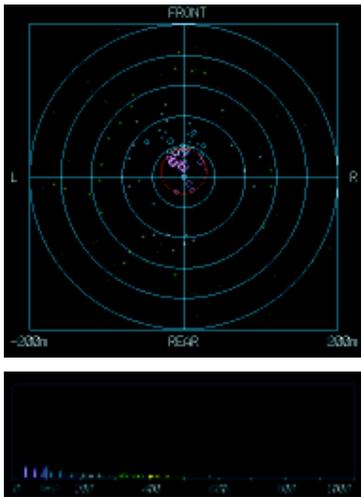
- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- メインスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー（フロントL/フロントR/リアL/リアR）で音場を再現します。
- 「8ch Stereo」選択時には、セットメニューで設定したすべてのスピーカーから出力されます。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

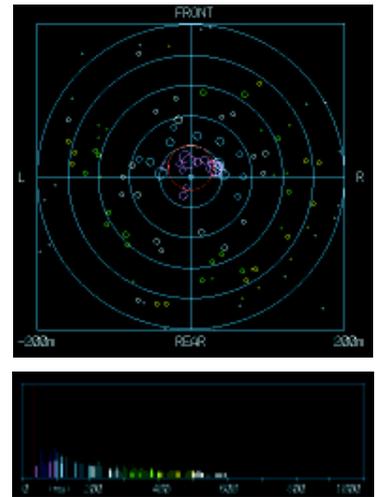
キーNo.	プログラム名	サブプログラム	特長または最適ソース
1	CONCERT HALL 1	Europe Hall A	広く奥行きのある大ホール
		Europe Hall B	縦長で力強い響きが特長のホール
		Europe Hall C	響きが豊かな古典的な中ホール
2	CONCERT HALL 2	U.S.A. Hall D	中高域の響きが豊かな大ホール
		Europe Hall E	響きが豊かな古典的な大ホール
		Live Concert	広大な円形ホール中央付近の音場、豊かな響き
3	CHURCH	Tokyo	適度な残響感を伴う教会の音場
		Freiburg	高い天井と細長い空間で、非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
		Royaumont	中世の美しいゴシック建築の修道院食堂大広間の音場
4	JAZZ CLUB	Village Gate	広いフロアを持つニューヨークの著名なライブハウス
		Village Vanguard	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
		The Bottom Line	ニューヨークで話題のライブハウス“ザ ボトムライン”の音場
5	ROCK CONCERT	Roxy Theatre	ロサンゼルスのホットなロックライブハウス
		Warehouse Loft	コンクリート造りの倉庫のような音場
		Arena	広大なアリーナの音場
6	ENTERTAINMENT	Disco	集中したエネルギーのホットなディスコの雰囲気
		Party	ホームパーティーでのBGMを演出する音場
		8ch Stereo	

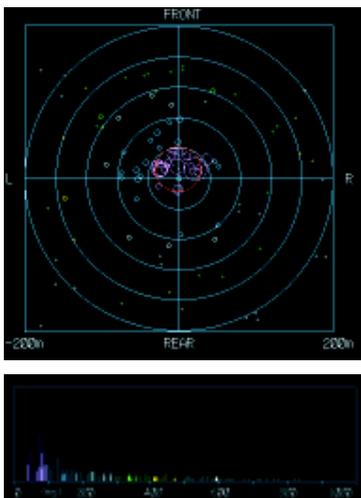
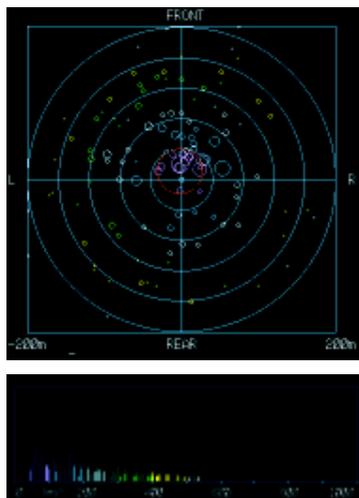
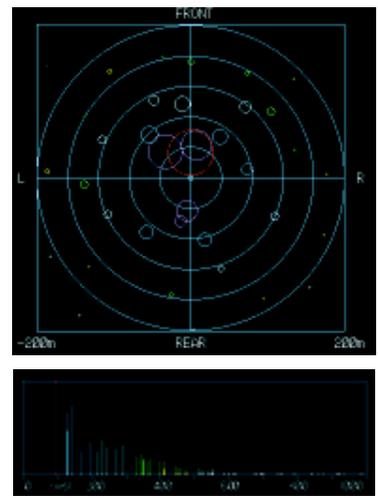
ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。

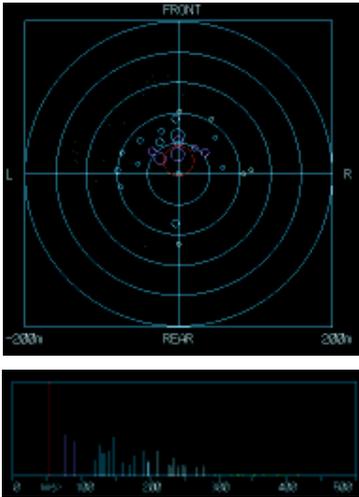
CONCERT HALL 1

■Europe Hall A
ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

■Europe Hall B
内装材が木製のフランクフルトにある2400席弱のシューボックス型コンサートホールです。ステージ上方のマホガニー色に塗装された幾層もの反射板によって、ステージ方向からの反射音が強く、直接音が増強される傾向にあり、力強い響きが特長です。座席の位置は1階中央右寄りです。

■Europe Hall C
1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。

CONCERT HALL 2

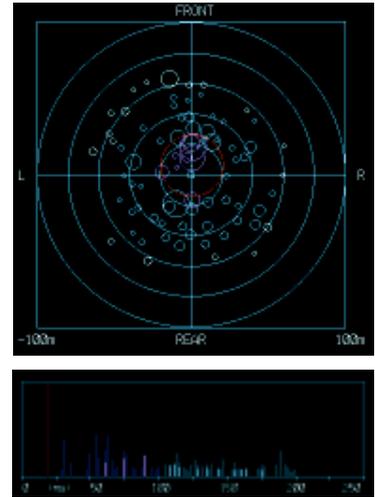
■U.S.A. Hall D
ヨーロッパの伝統をふまえて設計された、ボストンにある大規模なコンサートホールです。客席数は2600席程度で、内装はよりシンプルにまとめられ、アメリカ的な処理が感じられます。中高音の豊かな響きが特長です。

■Europe Hall E
アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり客席は2200程です。

■Live Concert
円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。

CHURCH

■Tokyo

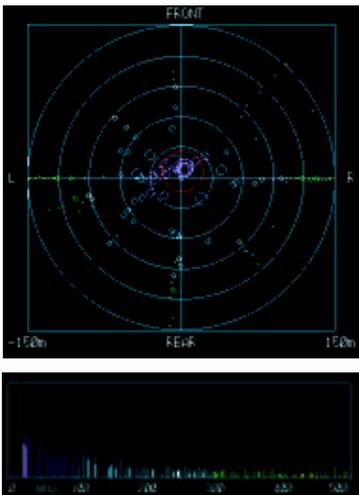
残響時間2.5秒と適度な残響音を伴う教会の音場感です。パイプオルガンや教会音楽などの再生に適しています。

■Freiburg

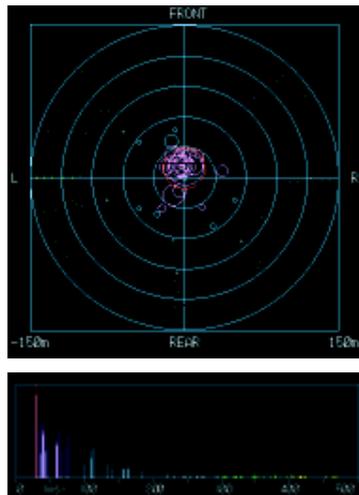
ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

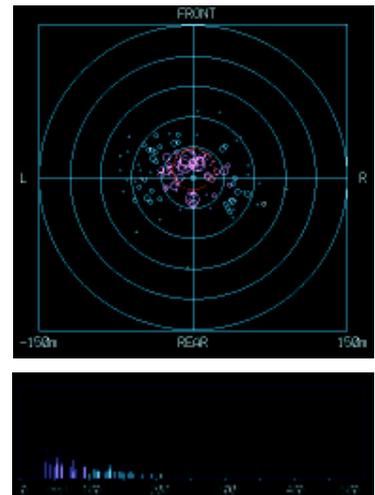
■Royaumont

パリ近郊ロワイヨーモンにある美しい中世ゴシック建築の修道院の食堂大広間の音場です。天井をささえる石柱ごとに構成されるドーム状の多くの天井空間に残響が響きあい、余韻の美しい音場です。

JAZZ CLUB

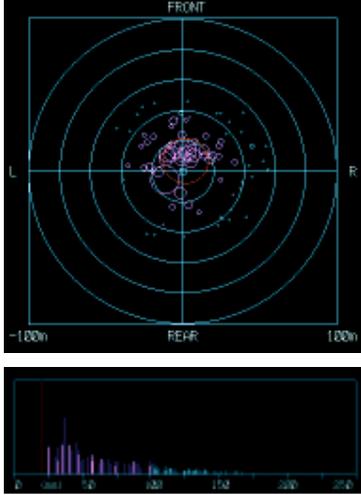
■Village Gate

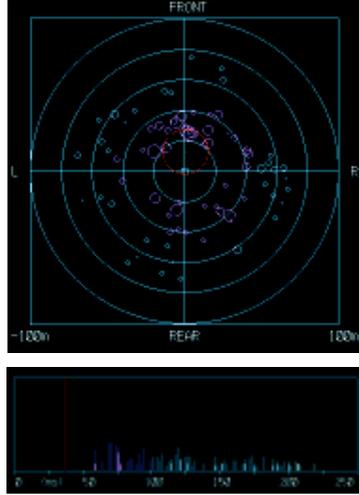
ニューヨークにあるライブハウスで、比較的広いことから小ホールのような響きです。ステージに向かい中央左寄りの音場です。

■Village Vanguard

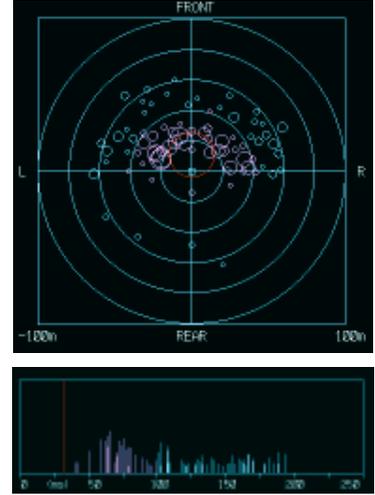
ニューヨークの7番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。

■The Bottom Line

ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。

ROCK CONCERT

■Roxy Theatre

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。

■Warehouse Loft

ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。

■Arena

広いアリーナの音場です。

ENTERTAINMENT

■Disco

ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

■Party

後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

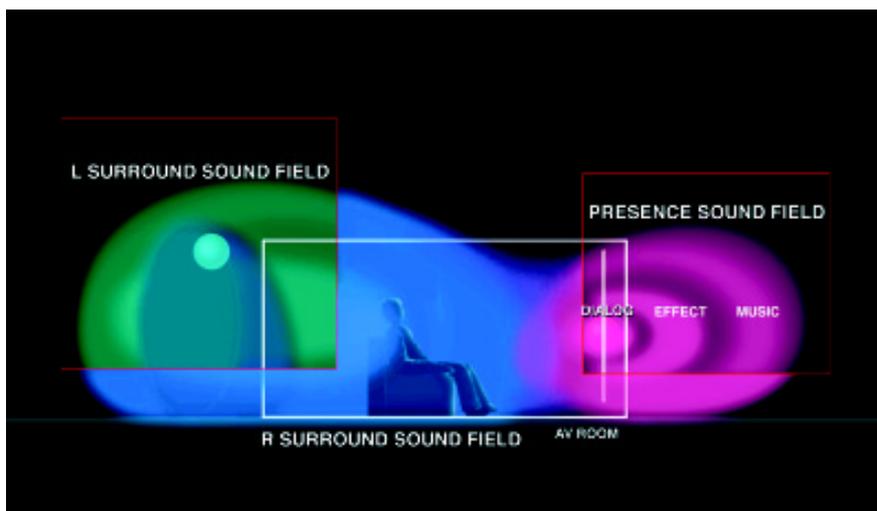
■8ch Stereo

後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大８つのスピーカーから音が出力されます。

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画サラウンドデコーダーであるDOLBY PRO LOGIC、ドルビーデジタルやDTS、またBSデジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントのL,C,Rチャンネルにもヤマハ DSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

CINEMA DSP音場プログラムの音場イメージ

CINEMA DSP音場プログラムは、音場処理ブロックがプログラムによって異なります。プレゼンス音場、サラウンド音場ともに、音場データは実測音場データをベースにしています。プレゼンス/サラウンド音場の音場データは、Hi-Fi DSPプログラムと同様に仮想音源分布とエコーパターンで表すことができますが、エネルギーバランスやミックスする信号の割合など複雑な処理が施されていることから、聴覚上の音場イメージで表しています。各CINEMA DSP音場プログラムの音場イメージについては、P.98〜100を参照してください。

プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- メインスピーカーL/Rも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、No.10〜12のCINEMA DSP音場プログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キーNo.	プログラム名	サブプログラム	特長または最適ソース
6	ENTERTAINMENT	Game	TVゲームの軽快なノリを、さらに加速する痛快なテンポの音場
7	CONCERT VIDEO 1	Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートの雰囲気を再現
		DJ	クリアなトークとポップな音場効果
8	CONCERT VIDEO 2	Classical/Opera	ステージの臨場感と音楽の美しさを演出
		Pavilion	丸天井の大きな空間を持つ音場
9	TV THEATER	Mono Movie	適度なDSP処理により往年のモノラル映画を自然に再生
		Variety/Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場効果
10	MOVIE THEATER 1	Spectacle	70mm大画面のスペクタクルな音場効果を再現
		Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場効果
11	MOVIE THEATER 2	Adventure	フィルムトラックにデザインされた演出を最良に再現アドベンチャー映画向き
		General	Adventureより大きい映画館の音場、情緒的なソフトに向く柔らかな響きの音場
12	DOLBY DIGITAL/DTS/ AAC SURROUND	Normal/EX/DTS-ES/ ES Matrix 6.1/ES Discrete 6.1/Dolby EX	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られる
		Enhanced/EX/ES	ドルビーデジタル、DTS、AACのサラウンド信号にDSPの音場効果を与える
	DOLBY PRO LOGIC	Normal	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
		Enhanced	
	DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	Movie	
		Music	
	DTS Neo:6	Cinema	
		Music	

ご注意

- DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND、DOLBY PRO LOGICのサブプログラム「Normal」を選択しているときやDOLBY PRO LOGIC ⅡおよびDTS Neo:6デコーダー動作時は、DSPインジケーターは表示されません。
- セットメニュー「1A CENTER SP」を「NONE」に設定すると、センタースピーカーから音は出力されません。
- モノラルソースをプログラムNo.6の「Game」、No.7〜11、No.12の「DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND」で再生した場合、メインスピーカーから音声は出力されません。
- モノラルソースをプログラムNo.12で再生した場合、サラウンド信号は出力されません。

■入力信号別音場プログラム名一覧

CINEMA DSP音場プログラムNo.10～12のプログラム名は、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

	プログラム ＼ 入力信号	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
10	MOVIE THEATER 1	70mm Spectacle	DGTL Spectacle *1Spectacle EX	DTS Spectacle *2Spectacle ES	AAC Spectacle *1Spectacle EX
		70mm Sci-Fi	DGTL Sci-Fi *1Sci-Fi EX	DTS Sci-Fi *2Sci-Fi ES	AAC Sci-Fi *1Sci-Fi EX
11	MOVIE THEATER 2	70mm Adventure	DGTL Adventure *1Adventure EX	DTS Adventure *2Adventure ES	AAC Adventure *1Adventure EX
		70mm General	DGTL General *1General EX	DTS General *2General ES	AAC General *1General EX
12	DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND	―	DOLBY DIGITAL/Normal *1DOLBY DIGITAL/EX	DTS DIGITAL SUR/Normal DTS DIGITAL SUR/96/24 Normal (DTS 96/24デコーダー動作時) *3DTS DIGITAL SUR/96/24 DTS-ES (DTS 96/24デコーダー動作時) *3DTS DIGITAL SUR/ES Matrix 6.1 *4DTS DIGITAL SUR/ES Discrete 6.1	AAC DIGITAL SUR/Normal *1AAC DIGITAL SUR/Dolby EX
		―	DOLBY DIGITAL/Enhanced *1DOLBY DIGITAL/Enhanced EX	DTS DIGITAL SUR/Enhanced *2DTS DIGITAL SUR/Enhanced ES	AAC DIGITAL SUR/Enhanced *1AAC DIGITAL SUR/Enhanced EX
	DOLBY PRO LOGIC	Normal	―	―	―
		Enhanced	―	―	―
	DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	Movie	―	―	―
		Music	―	―	―
	DTS Neo:6	Cinema	―	―	―
		Music	―	―	―

*1 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時（MATRIXインジケーター点灯時）
*2 DTS-ESデコーダー動作時（MATRIXまたはDISCRETEインジケーター点灯時）
*3 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時（MATRIXインジケーター点灯時）
*4 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時（DISCRETEインジケーター点灯時）

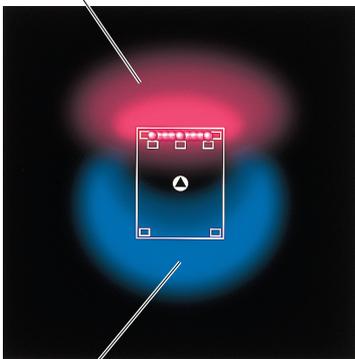
ご注意

- AACの2チャンネルステレオ信号は、DTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

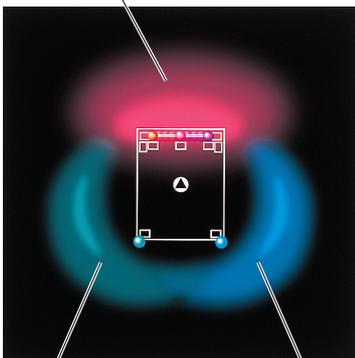
MOVIE THEATERプログラム

通常手にする映画のパッケージソフトは、ドルビーサラウンドのマトリクス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L/Rに収められています。それをデコード(復元)するのがDOLBY PRO LOGICデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード/デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。マトリクス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージのクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER 70mmプログラムです。

また、最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。そしてさらに、リアセンターチャンネルを設けることにより、新たなサウンドデザインが可能になりました。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンド、リアセンターチャンネルを追加したドルビーデジタルEX、DTS-ES等すべてに対応しており、家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場を楽しめます。

■入力信号がアナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)の場合

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に拡がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

- 70mm Spectacle
- 70mm Sci-Fi
- 70mm Adventure
- 70mm General

■入力信号がドルビーデジタル(5.1チャンネル)、DTS、AACの場合

ドルビーデジタル、DTSおよびAACのフロント、サラウンドL、サラウンドR信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現やサラウンド音の包囲感の再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。EX/ESデコーダー動作時は上記の3音場DSP処理に加え、リアセンター信号に専用の別音場DSP処理を施します。これにより、音の包囲感や移動感はよりリアリティを増します。

- DGTL/DTS/AAC Spectacle
- DGTL/DTS/AAC Sci-Fi
- DGTL/DTS/AAC Adventure
- DGTL/DTS/AAC General

メモ

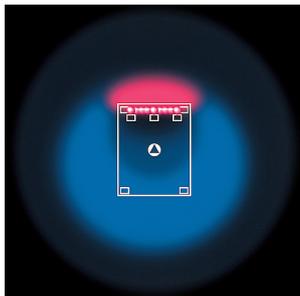
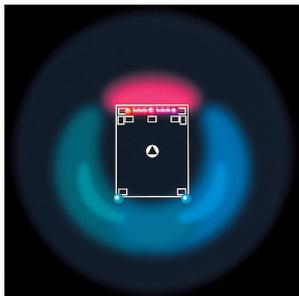
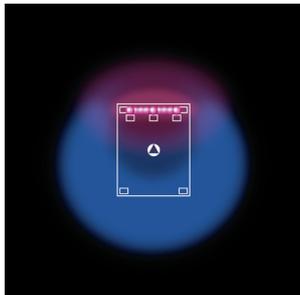
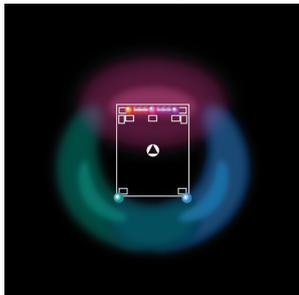
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号、AAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

ENTERTAINMENT

■Game

モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。

CONCERT VIDEO 1

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Pop/Rock

ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

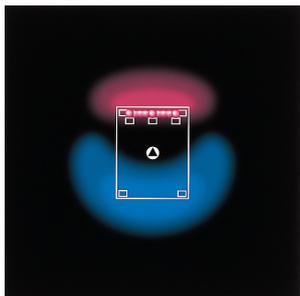
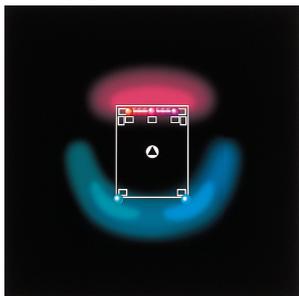
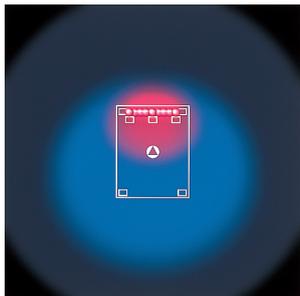
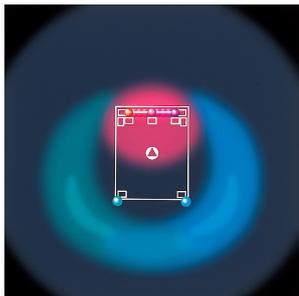
ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■DJ

プレゼンス音場にオペラハウス系、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しています。ディスクジョッキーのトークはクリアに、音楽は音場感豊かに楽しめます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

CONCERT VIDEO 2

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Classical/Opera

響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の美しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

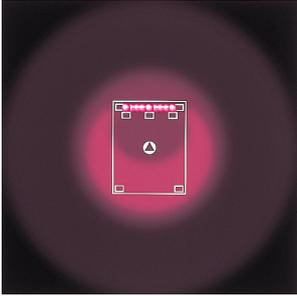
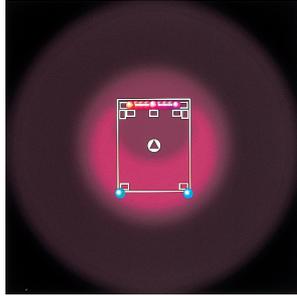
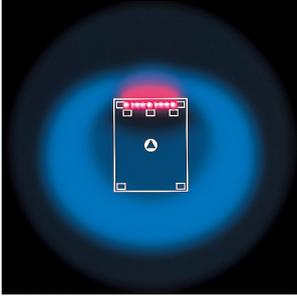
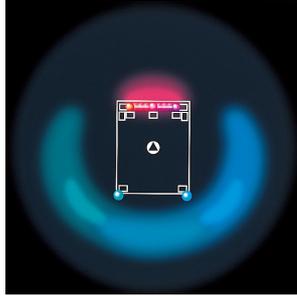
ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Pavilion

ボーカルは明瞭で実在感があり、大きく拡がりのある空間を感じさせる音場です。やや遅れてくる多くの残響は、パビリオン独特のライブ感ある音場を再現し、熱狂的なコンサートシーンを盛り上げます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

TV THEATER

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Mono Movie

古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源が加わります。

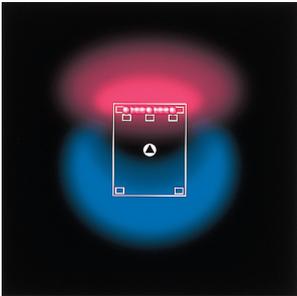
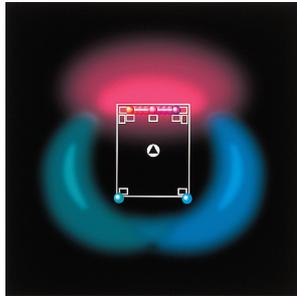
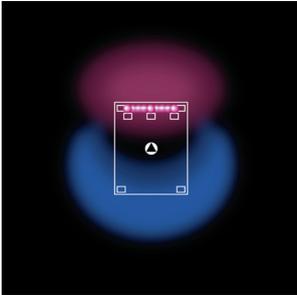
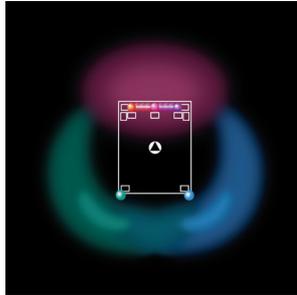
ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Variety/Sports

プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

MOVIE THEATER 1

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Spectacle

70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

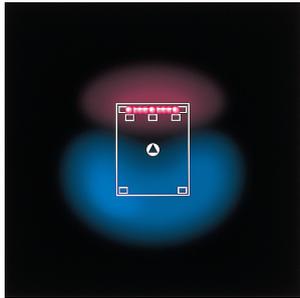
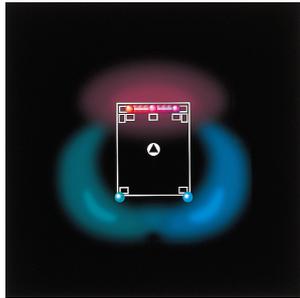
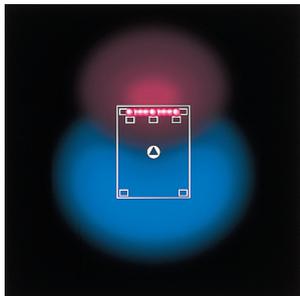
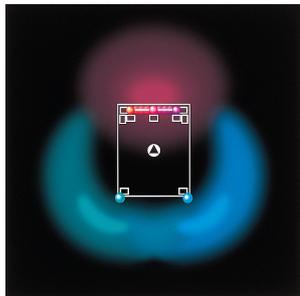
ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Sci-Fi

最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス･フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

MOVIE THEATER 2

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Adventure

最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

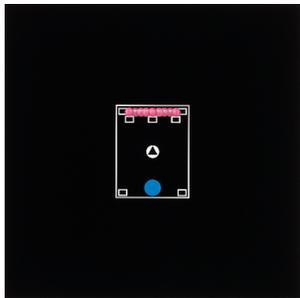
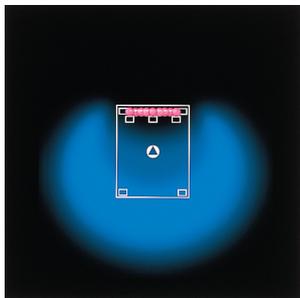
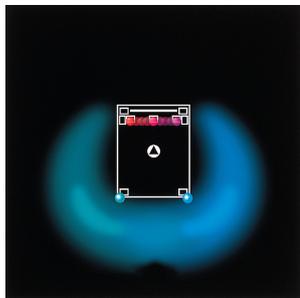
ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■General

70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND

ステレオ入力時

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Normal/EX/DTS-ES/ES Matrix 6.1/ES Discrete 6.1/Dolby EX

DOLBY PRO LOGIC/ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーまたはAACデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。EX/ESデコーダー動作時はリアセンター音源が加わります。

ステレオ入力時

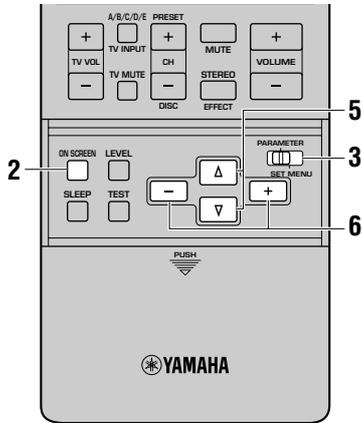
ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時

■Enhanced/EX/ES

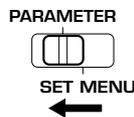
ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。EX/ESデコーダー動作時はリアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

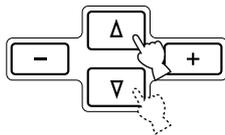
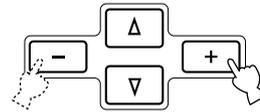
音場プログラムのパラメーターを設定する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定値のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて音場プログラムをアレンジすることができます。

パラメーターを変更する

1 本機に接続したモニターの電源を入れる

2 ON SCREENキーを押して、オンスクリーン表示を全表示にする

3 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる

4 音場プログラムを選択する
P.46『音場プログラムを選択する』を参照してください。

5 △または▽キーを押して、変更したい項目を選択する

6 ＋または－キーを押して、設定値を変更する
初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク（＊）が表示されます。

7 他の音場プログラムの設定値を変更したいときは、手順4～6を繰り返す

ご注意

- 音場プログラムによっては、パラメーターは数ページに分けて表示されます。△または▽キーを押して、ページをスクロールしてください。
- セットメニュー「16 MEMORY GUARD」（P.62）が「ON」に設定されている場合は、設定値を変更できません。設定値を変更する前に、「OFF」に設定してください。

■パラメーターの一部を初期設定に戻す

初期設定値に戻したいパラメーターを選択してから、初期設定値でいったん表示が止まるまで＋または－キーを押しつづけます。
初期設定値に戻ると、パラメーター名の前のアスタリスクの表示が消えます。

■すべてのパラメーターを初期設定値に戻す

セットメニュー「10 PARAMETER INI」（P.59）で、音場プログラムごとにパラメーターをすべて初期設定値に戻せます。

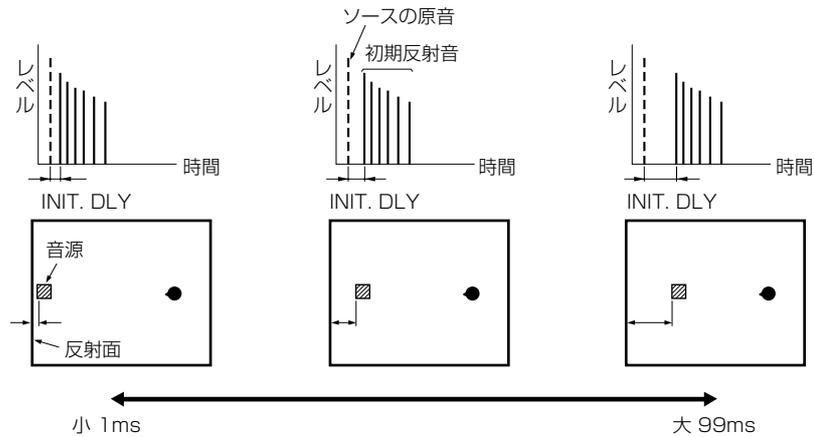
パラメーターガイド

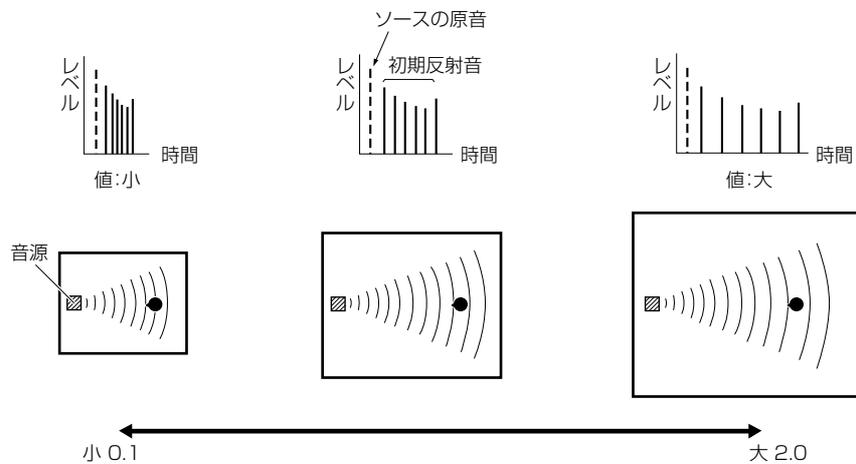
音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

■EFCT TRIM(エフェクト・トリム)

機能: エフェクトレベル(効果音)の微調節。
可変範囲: −3〜+3dB
解説: エフェクト音全体のレベルを微調節するパラメーターです。ヘッドホン再生中は調節できません。

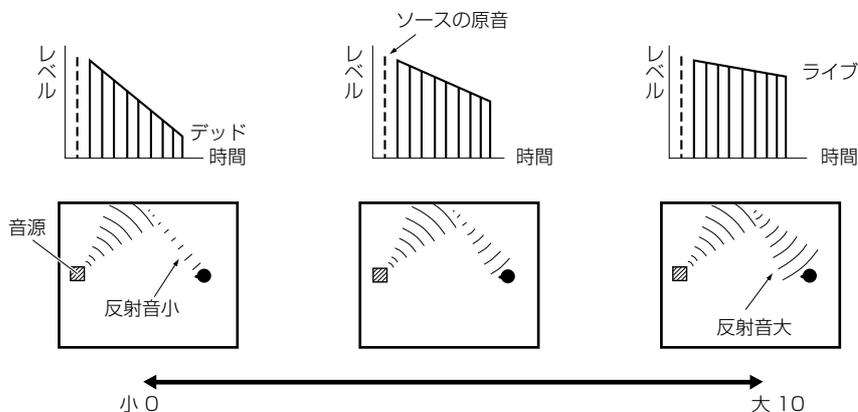
■INIT. DLY(イニシャル・ディレイ)

機能: 音源と壁面との距離感を調節
可変範囲: 1〜99ms
解説: 直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT. DLYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

■ROOM SIZE(ルーム・サイズ)

機能: 拡がり感の調節
可変範囲: 0.1〜2.0
解説: 空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

■LIVENESS(ライブネス)

機能: 響き具合の調節

可変範囲: 0〜10

解説: 初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

■P. INIT. DLY(プレゼンス・イニシャル・ディレイ)

機能: プレゼンス音場の遅延時間を調節

可変範囲: 1〜99ms

解説: 直接音からプレゼンス音場が始まるまでの時間をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

■P. ROOM SIZE(プレゼンス・ルーム・サイズ)

機能: プレゼンス音場の拡がり感の調節

可変範囲: 0.1〜2.0

解説: プレゼンスの拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に拡がり感が出てきます。

■S. INIT. DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節(「フロント2チャンネル(または3チャンネル)+リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時のみ有効)

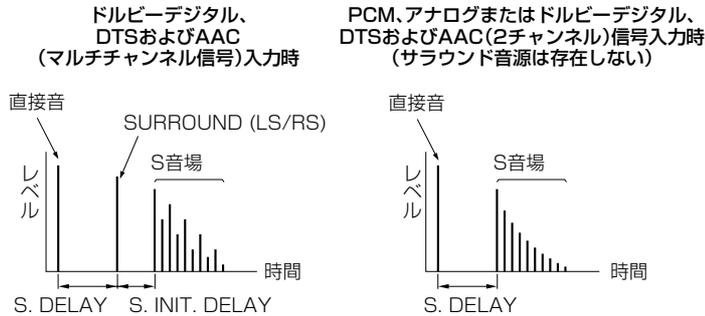
可変範囲: 1〜49ms

解説: 直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

■S. DELAY（サラウンド・ディレイ）

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節
可変範囲: 0〜49ms（信号により可変範囲が変わります）
解説: 直接音とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて出力されます。ドルビーデジタル、DTSおよびAAC以外の信号入力時は、サラウンド音源は存在しません。ドルビーデジタル、DTSおよびAACのマルチチャンネル音声を再生するときなどに有効になります。

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC（マルチチャンネル信号）入力時

PCM、アナログまたはドルビーデジタル、DTSおよびAAC（2チャンネル）信号入力時（サラウンド音源は存在しない）

■S. ROOM SIZE（サラウンド・ルーム・サイズ）

機能: サラウンド音場の拡がり感を調節
可変範囲: 0.1〜2.0
解説: サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

■S. LIVENESS（サラウンド・ライブネス）

機能: サラウンド音場の響き具合を調節
可変範囲: 0〜10
解説: サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

■RC INI. DLY（リア・センター・イニシャル・ディレイ）

機能: リアセンター音場の遅延時間を調節（EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効）
可変範囲: 1〜49ms
解説: 直接音とリアセンター音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどリアセンター音場が遅れて発生します。

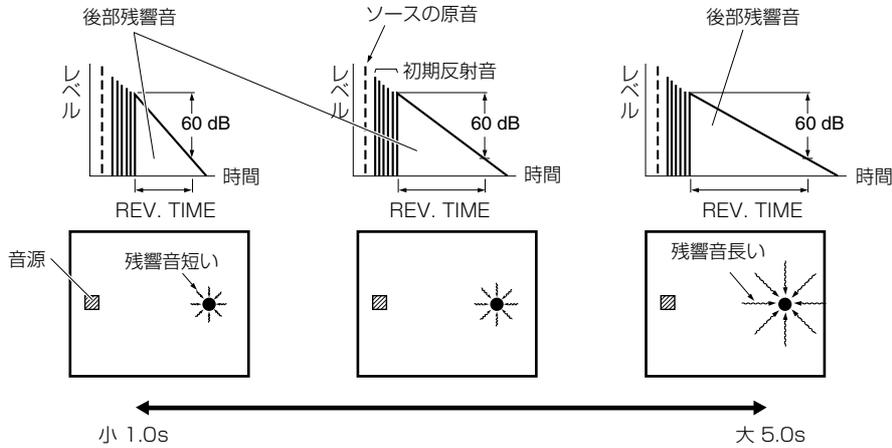
■RC ROOM SIZE（リア・センター・ルーム・サイズ）

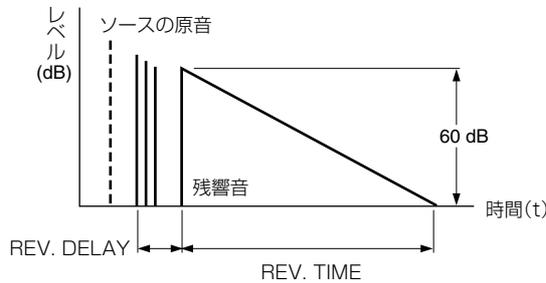
機能: リアセンター音場の拡がり感を調節（ドルビーデジタルEX方式およびDTS-ES方式入力時のみ有効）
可変範囲: 0.1〜2.0
解説: リアセンター音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンターの音場空間が拡がります。

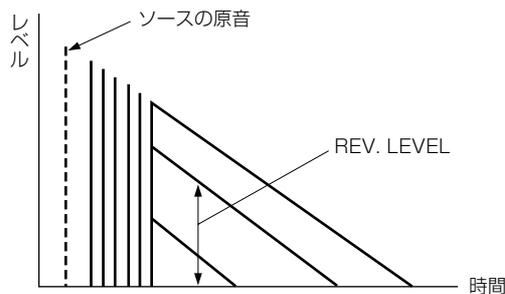
■RC LIVENESS（リア・センター・ライブネス）

機能: リアセンター音場の響き具合を調節（EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効）
可変範囲: 0〜10
解説: リアセンター音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンター音場の響きがつよくなります。

■REV. TIME（リバーブレーション・タイム）

機能: 余韻の長さを調節
可変範囲: 1.0〜5.0s
解説: 後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

■REV. DELAY（リバーブレーション・ディレイ）

機能: 残響音の遅延時間を調節
可変範囲: 0〜250ms
解説: 残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

■REV. LEVEL（リバーブレーション・レベル）

機能: 余韻の強さを調節
可変範囲: 0〜100%
解説: 後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

■CT LEVEL(センター・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■RL LEVEL(リア・レフト・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのリアLチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■RC LEVEL(リア・センター・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのリアセンターチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■RR LEVEL(リア・ライト・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのリアRチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■FL LEVEL(フロント・レフト・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのフロントLチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■FR LEVEL(フロント・ライト・レベル)
機能: 8ch Stereo音場でのフロントRチャンネルの出力レベルの調節
可変範囲: 0～100%

■PANORAMA(パノラマ)
機能: DOLBY PRO LOGIC Ⅱのフロント音場の拡がり感を調節(DOLBY PRO LOGIC Ⅱデコーダーのmusicモード再生時のみ有効)
可変範囲: ON/OFF
解説: メインL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような拡がり感を得ることができます。

■DIMENSION(ディメンション)
機能: DOLBY PRO LOGIC Ⅱのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節(DOLBY PRO LOGIC Ⅱデコーダーのmusicモード再生時のみ有効)
可変範囲: −3～STD～+3
解説: 再生するソフトによって生じる、フロントとリアのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。−にするとリア側、+にするとフロント側が強くなります。

■CENTER WIDTH(センター・ウィドゥス)
機能: DOLBY PRO LOGIC Ⅱのセンター音声の左右への拡がりを調節(DOLBY PRO LOGIC Ⅱデコーダーのmusicモード再生時のみ有効)
可変範囲: 0～7
解説: センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとL/Rチャンネルのみからセンター音声が出力されます。

■C. IMAGE(センター・イメージ)
機能: DTS Neo:6のフロント音場の拡がり感を調節(DTS Neo:6デコーダーのmusicモード再生時のみ有効)
可変範囲: 0～0.5
解説: 値を小さくするとフロント音場の拡がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。

参考資料

パラメーター一覧表

パラメーターを変更したときは、変更値を一覧表に記入しておいてください。
操作ミスで大事なパラメーターを初期化したときや、記憶した内容が消えたとき(2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたとき)に便利です。

パラメーター名	変更値1	変更値2
1. CONCERT HALL 1		
Europe Hall A		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
Europe Hall B		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
Europe Hall C		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		

パラメーター名	変更値1	変更値2
2. CONCERT HALL 2		
U. S. A. Hall D		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
Europe Hall E		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
Live Concert		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		

パラメーター名	変更値1	変更値2
3. CHURCH		
Tokyo		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Freiburg		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Royaumont		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		

パラメーター名	変更値1	変更値2
4. JAZZ CLUB		
Village Gate		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
Village Vanguard		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
The Bottom Line		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		

パラメーター名	変更値1	変更値2
5. ROCK CONCERT		
Roxy Theatre		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Warehouse Loft		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Arena		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		

パラメーター名	変更値1	変更値2
6. ENTERTAINMENT		
Disco		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Party		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Game		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
8ch Stereo		
CT LEVEL		
RL LEVEL		
RC LEVEL		
RR LEVEL		
FL LEVEL		
FR LEVEL		

パラメーター名	変更値1	変更値2
7. CONCERT VIDEO 1		
Pop/Rock		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
DJ		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		

パラメーター名	変更値1	変更値2
8. CONCERT VIDEO 2		
Classical/Opera		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
Pavilion		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		

パラメーター名	変更値1	変更値2
9. TV THEATER		
Mono Movie		
EFCT TRIM		
INIT. DLY		
ROOM SIZE		
LIVENESS		
◇S. DELAY		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		
Variety/Sports		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
REV. TIME		
REV. DELAY		
REV. LEVEL		

パラメーター一覧表

パラメーター名	変更値1	変更値2
10. MOVIE THEATER 1		
Spectacle		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
Sci-Fi		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		

パラメーター名	変更値1	変更値2
11. MOVIE THEATER 2		
Adventure		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
General		
EFCT TRIM		
P. INIT. DLY		
P. ROOM SIZE		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		

パラメーター名	変更値1	変更値2
12. DOLBY DIGITAL/DTS/AAC SURROUND		
Normal/EX/DTS-ES/ES Matrix 6.1/ ES Discrete 6.1/Dolby EX		
S. DELAY		
Enhanced/EX/ES		
S. DELAY		
◇S. INIT. DLY		
S. ROOM SIZE		
S. LIVENESS		
◆RC INI. DLY		
◆RC ROOM SIZE		
◆RC LIVENESS		
PRO LOGIC II Movie		
S. DELAY		
PRO LOGIC II Music		
S. DELAY		
PANORAMA		
DIMENSION		
CENTER WIDTH		
Neo:6 Cinema		
S. DELAY		
Neo:6 Music		
S. DELAY		
C. IMAGE		

ご注意

- ◇印のパラメーターは、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時のみ有効、◆印のパラメーターはEX/ESデコーダー動作時のみ有効となります。
- 7〜12までの音場プログラムは、マルチチャンネル信号（ドルビーデジタル、DTS、AAC）入力時と2チャンネル信号（アナログ、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC）入力時で個別に「S. DELAY」パラメーターを設定することができます（「Mono Movie」を除く）。
- 7〜11までの音場プログラムは、EX/ESデコーダー動作時および停止時で個別に「S. INIT. DLY」と「S. ROOM SIZE」パラメーターを設定できます（「Mono Movie」を除く）。
- 12の「Enhanced/EX/ES」では、ステレオ再生時、EX/ESデコーダーの動作時および停止時で個別に「S. ROOM SIZE」と「S. LIVENESS」パラメーターを設定することができます。
- ヘッドホンを接続しているときは、「EFCT TRIM」パラメーターは表示されません。
- ヘッドホン接続しているときと接続していないときで個別に各パラメーターを設定することができます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■全般

症状	原因	対策
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源がきれた。（本体ディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示された）	すべてのスピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください（P.33参照）。
	セットメニュー「15 DISPLAY SET」の「BLUE BACK」が「OFF」に設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、「AUTO」に設定してください（P.62参照）。
	S VIDEO端子とVIDEO端子両方に接続しているソースを選択し、さらにMONITOR OUTのS VIDEO端子とVIDEO端子両方を使用してモニターと接続している。	映像はS VIDEO端子とVIDEO端子の両方に出力されますが、オンスクリーンはS VIDEO側にのみ出力されます。映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。
音声や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT SELECTORや6CH INPUTキーで正しく選択をしてください（P.42参照）。
	スピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください（P.29参照）。
	SPEAKERS A/Bスイッチが正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONにしてください（P.42参照）。
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください（P.43参照）。
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。
	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入力、出力側ともに、VIDEOやS VIDEO、COMPONENTなど同じ種類の端子を使用して接続してください。
音声が突然出なくなる	消音した。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください（P.43参照）。
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーコードが断線していないか確認してください。
	BALANCEコントロールをLまたはR側に極端に回している。	バランスを正しく設定してください。

症状	原因	対策
エフェクトスピーカーから音声が出ない	ステレオ再生をしている（ディスプレイに「STEREO」と表示されている）。	STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を入れてください(P.47参照)。
	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。
	サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されている。	サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号入力時は、エフェクトスピーカーから音声は出ません。
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーのレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを調節してください(P.82参照)。
	セットメニュー「1A CENTER SP」が「NONE」に設定されている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください(P.35参照)。
	Hi-Fi DSP音場プログラム（1～6)を選択している(「Game」や「8ch Stereo」は除く)。	DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。
リアL/Rスピーカーから音声が出ない	リアL/Rスピーカーのレベルが絞られている。	リアL/Rスピーカーのレベルを調節してください(P.82参照)。
	セットメニュー「1C REAR L/R SP」が「NONE」に設定されている。	リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください(P.36参照)。
	音場プログラム12で、モノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。
リアセンタースピーカーから音声が出ない	リアセンタースピーカーのレベルが絞られている。	リアセンタースピーカーのレベルを調節してください(P.82参照)。
	セットメニュー「1C REAR L/R SP」が「NONE」に設定されている。	リアL/Rスピーカーモードが「NONE」に設定されると、自動的にリアセンタースピーカーモードも「NONE」に設定されます。リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください(P.36参照)。
	セットメニュー「1D REAR CT SP」が「NONE」に設定されている。	リアセンタースピーカーモードを正しく設定してください(P.36参照)。
スーパーウーファーから音声が出ない	セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「MAIN」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SW」または「BOTH」に設定してください(P.37参照)。
	セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「SW」または「MAIN」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください(P.37参照)。
	再生しているソースにLFEや低音信号（90Hz以下)が含まれていない。	
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない(本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない)	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。
低音の再生不良	スーパーウーファーを使用していないのに、セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「SW」または「BOTH」に設定している。	「MAIN」に設定してください(P.37参照)。
	セットメニューの各スピーカーモードがスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーモードを適切に設定してください(P.34参照)。
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグコードをしっかり差し込んでください。
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください(P.20参照)。

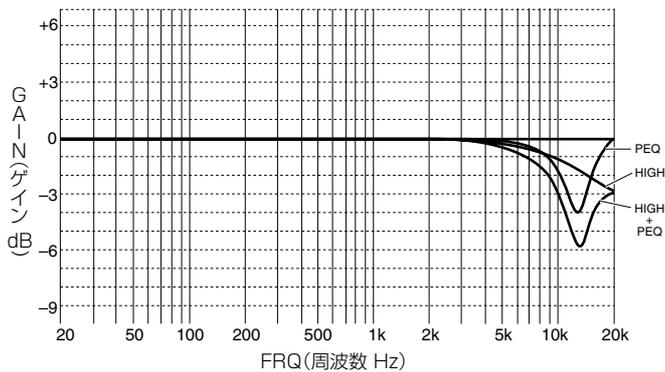
症状	原因	対策
レコードの再生音が小さい	ＭＣカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください(P.20参照)。
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源が入っていない。	ＡＶアンプという製品ジャンルの特性上、ＲＥＣ OUT端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。	
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタルで信号を入力してください。
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログで信号を入力してください。
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。	
スピーカーレベルなどのパラメーターを変更できない	セットメニュー「16 MEMORY GUARD」が「ON」に設定されている。	「OFF」に設定してください(P.62参照)。
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機のスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。
デジタル機器や高周波機器からお雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
ファンが回る音がときどき聞こえる	放熱のため、本機内部にはファンが取り付けられています。本機内部の温度が上昇したとき、または電源を入れたときなどに動作します。	

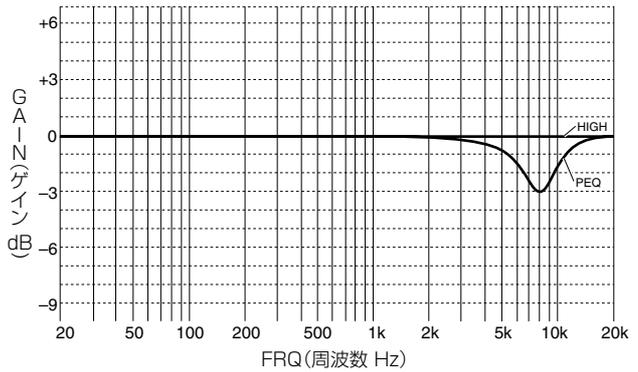
■リモコン

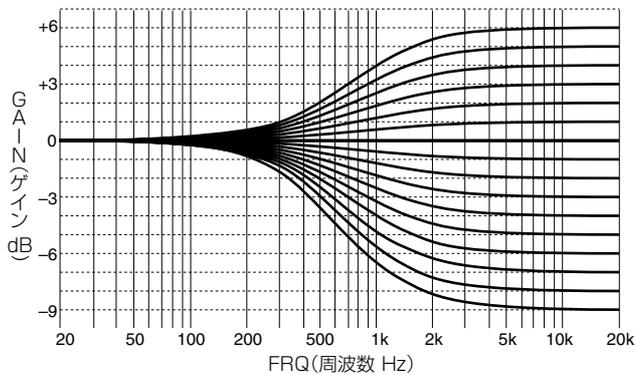
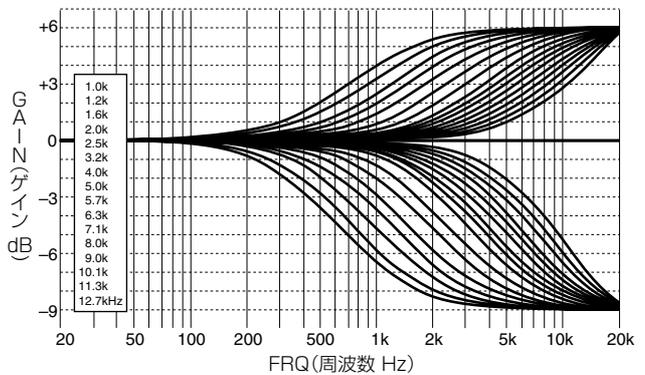
症状	原因	対策
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください(P.10参照)。
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください(P.71～75参照)。
外部機器がリモコンで操作できない	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください(P.67参照)。
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンにラーニング(学習)してください(P.69参照)。
リモコンが新しい機能をラーニング(学習)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください(P.10参照)。
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください(P.69参照)。
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	ラーニング(学習)はできません。
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去して、メモリ容量に空きを作ってください(P.69参照)。

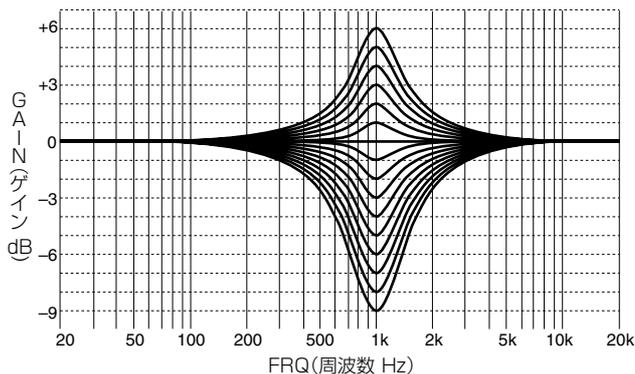
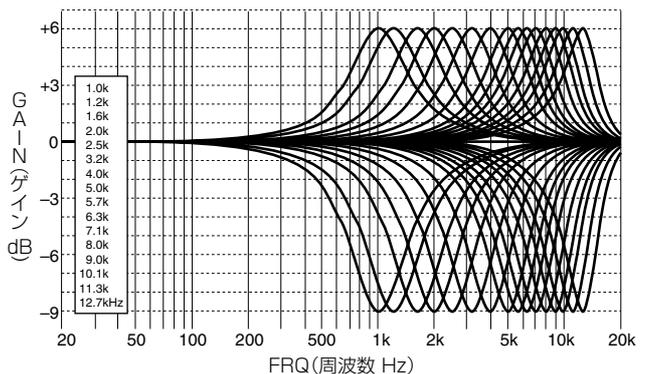
CINEMA EQ特性図

■L, C, R初期設定

HIGH: FRQ 12.7kHz/GAIN －3dB
PEQ: FRQ 12.7kHz/GAIN －4dB

■FRNT EFCTおよびREAR L/R初期設定

HIGH: FRQ 12.7kHz/GAIN 0dB
PEQ: FRQ 8.0kHz/GAIN －3dB

■HIGH周波数特性

FRQ 1.0kHz/GAIN ＋6～－9dB

FRQ 1.0～12.7kHz/GAIN ＋6/－9dB

■PEQ周波数特性

FRQ 1.0kHz/GAIN ＋6～－9dB/Q 1.85(固定)

FRQ 1.0～12.7kHz/GAIN ＋6/－9dB/Q 1.85(固定)

入力/出力端子一覧

	アナログ音声		デジタル音声*1				映像					
			COAXIAL(同軸)		OPTICAL(光)		COMPOSITE		S VIDEO		COMPONENT	
	IN	OUT	IN	OUT	IN	OUT	IN	OUT	IN	OUT	IN	OUT
PHONO	○											
CD	○		○		○							
TUNER	○											
CD-R	○	○			○	○						
MD/TAPE	○	○				○						
DVD	○		○		○		○		○		○*1	
D-TV/LD	○		○*2		○		○		○		○*1	
CABLE	○		○				○		○			
SAT	○				○		○		○		○*1	
VCR 1	○	○					○	○	○	○		
VCR 2	○	○					○	○	○	○		
VCR 3/DVR	○	○			○		○	○	○	○		
VIDEO AUX	○				○		○		○			
6CH INPUT												
MAIN	○											
SURROUND	○											
CENTER	○											
SUBWOOFER	○											
PREOUT/MAIN IN												
MAIN	○	○										
REAR(SURROUND)		○										
CENTER	○	○										
REAR CTR		○										
SUBWOOFER		○										
FRONT	○	○										
MONITOR OUT								○		○		○
ZONE 2 OUT		○						○				
PHONES		○										
SPEAKERS	MAIN A/B、REAR(SURROUND)、CENTER、REAR CENTER、FRONT											

*1 これらの端子はセットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」で他の機器の入出力端子に変更することができます(P.58参照)。

*2 D-TV/LDの同軸入力(COAXIAL IN)端子はセットメニュー「8 I/O ASSIGNMENT」でLD RF/同軸入力の切り替えが可能です(P.58参照)。初期設定はLD RF端子になっています。

仕様

■オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.015% THD)
- メインL/R .... 130W＋130W
- センター 130W
- リアL/R .... 130W＋130W
- リアセンター 130W
- フロントエフェクト(0.05% THD) .... 45W+45W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
- メインL/R .... 200W+200W
- センター 200W
- リアL/R .... 200W+200W
- リアセンター 200W
- フロントエフェクト .... 65W+65W

ダイナミックパワー(IHF、6/4/2Ω)
- メインL/R 200/260/360W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
- メインL/R 200以上
- センター 200以上

入力感度/インピーダンス(アナログ)
- CD他 150mV/47kΩ
- PHONO(MM) 2.5mV/47kΩ
- MAIN IN 1V/47kΩ

出力レベル/インピーダンス
- REC OUT 150mV/600Ω
- PREOUT 1.0V/1.2kΩ
- SPLIT SUBWOOFER 2.0V/1.2kΩ
- MONO SUBWOOFER 4.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性
- CD他－メインL/R .... 10Hz～100kHz、－3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
- CD他－MAIN OUT(1V) 0.005%以下
- MAIN IN－SP OUT(65W/6Ω) 0.008%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート、EFFECT OFF)
- PHONO(MM)、5mV入力 86dB以上
- CD他、250mV入力 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
- メインL/R、SP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション
(5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz)
- CD他 70dB以上/60dB以上

トーンコントロール(メインL/R)
- BASS .... ±10dB/50Hz
- TREBLE .... ±10dB/20kHz
- BASS EXTENSION .... ＋6dB/60Hz

ヘッドホントーンコントロール
- BASS .... －6dB～＋3dB/50Hz
- TREBLE .... －6dB～＋3dB/20kHz

センター/リアセンターグラフィックイコライザー
- 中心周波数 100Hz/300Hz/1kHz/3kHz/10kHz
- GAIN .... ±6dB
- Q 0.7

シネマイコライザー
- HIGH (FRQ) .... 1.0kHz～12.7kHz
- (GAIN) .... －9dB～+6dB
- PEQ (FRQ) .... 1.0kHz～12.7kHz
- (GAIN) .... －9dB～+6dB
- (Q) 1.85

A/Dコンバーター 128倍オーバーサンプリング デルタシグマ方式24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター 8倍オーバーサンプリング マルチビット方式192kHz対応24ビットD/Aコンバーター

■ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- P_B/C_B、P_R/C_R 0.7Vp-p/75Ω

最大許容入力 1.5Vp-p以上

S/N比 50dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)
- VIDEO、S VIDEO .... 5Hz～10MHz、－3dB
- COMPONENT VIDEO、D5 VIDEO .... DC～75MHz、－3dB

■総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 500W

待機電力 1.2W

ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W) 3

寸法(幅×高さ×奥行き) .... 435×211×473mm

重量 28kg

付属品 .... リモコン
単三型乾電池(LR6)×3
電源コード

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。
「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省･資源エネルギー庁の定めた「家電･汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計･製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL　(0570) 01 − 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL　(053) 460 − 3409

FAX　(053) 460 − 2777
住所　〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間　10:00〜12:00, 13:00〜18:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台 〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松 〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪 〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広　島 〒731-0113　広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四　国 〒760-0029　高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州 〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

Printed in Japan　VIDEO　V844620-1